

# UFOと宇宙

1974

隔月刊

10月号

No.

8

# コスモ

有名な大事件の驚くべき真相を究明  
**マンテル大尉の悲劇**  
イタリアの不思議な小人出現事件  
千葉県に出現した大型円盤!

<天空と大地> 科学シリーズ(6)

●天体オーラと宇宙電界の謎

連載科学記事

宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3)



京都、東本願寺の上空に出現したUFO?

(データは目次頁の下に掲載)

世紀の謎 空飛ぶ円盤を究明した最新刊!

# 空飛ぶ円盤の謎と怪奇

黒沼 健著 定価九八〇円

恐怖の一九九九年―円盤襲撃に対するノストラダムスの  
大予言、船舶の消失、人間蒸発等目に見えぬ円盤の攻撃と  
現代科学の範囲ではとらえられぬ怪奇な現象。各地に潜入  
し対地球戦略を工作する宇宙人の驚くべき実体及び歴史に  
あらわれた円盤と宇宙人の存在を興味深く紹介する。

空飛ぶ円盤とアダムスキ 空飛ぶ円盤の跳梁  
久保田八郎編 五五〇円 高梨純一著 八五〇円

空飛ぶ円盤のすべて 空飛ぶ円盤実在の証拠  
平野威馬雄編著 八〇〇円 高梨純一著 九〇〇円

アポロと空飛ぶ円盤 空飛ぶ円盤の真相  
平野威馬雄・荒井欣一著 八〇〇円 Gアダムスキ久保田八郎 八〇〇円

空飛ぶ円盤は実在する これが空飛ぶ円盤だ  
A・ミシエル由辺貞之助訳 八〇〇円 平野威馬雄編 八〇〇円

空飛ぶ円盤実見記 それでも円盤は飛ぶ  
GアダムスキD・レスリー 八〇〇円 平野威馬雄編 八〇〇円

空飛ぶ円盤同乗記 火星からの空飛ぶ円盤  
Gアダムスキ久保田八郎 八〇〇円 C・アリンガム・岩下 肇 七〇〇円

空飛ぶ円盤の秘密 空飛ぶ円盤と宇宙人  
T・ヘンサム・久保田八郎 七〇〇円 黒沼 健著 九五〇円

## ヒューマノイド 空飛ぶ円盤 搭乗者

平野威馬雄編 定価 九八〇円

## 霊と死の世界 謎と怪奇 シリーズ

黒沼 健著 定価 九八〇円

●東京 文京 本郷5-30 振東141750●

### 高 文 社

●京都 左京 百万遍 振京23523●

## 上 わが銀河系



銀河系に属する天体《バラ星雲・  
馬の首星雲・三裂星雲・亜鈴星雲  
・ラグーン星雲・オメガ星雲・カ  
ニ星雲など・太陽・惑星・彗星》  
定価750円 円145円 B4判

好評発売中

## 下 100億光年のかなた

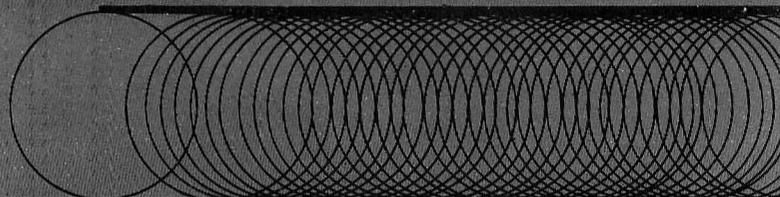


アンドロメダ座の大星雲・さんか  
く座の渦状星雲・おとめ座の紡錘  
状星雲・おおくま座の渦状星雲・  
M82星雲など銀河系外の他の宇宙  
定価700円 円145円 B4判  
好評発売中

# パノマ天体写真集

●東京天文台長 大沢清輝解説／天文と気象別冊  
へール天文台の5m大望遠鏡がとらえた宇宙  
の姿を、一頁に一枚、週刊誌を開いた大きさ  
に再現した迫力あるデカ判写真集がこれだ！

天文図書目録送呈



<口絵写真>

- カラー 大気圏外のUFO! / 千葉県松戸市のUFO  
銚子市のUFO / 阿蘇山のUFO群 / 焼津市の葉巻型UFO?
- 白黒 関門橋上空に出現したUFO!

イラスト 市川淑一  
池田雅行  
中沢修一

UFO 現象史上の大事件の真相を追求

# マンテル大尉の悲劇

荒井欣一  
日本空飛ぶ円盤研究会代表

8

## 他の天体からの信号

イアン・リドパース 19

## 不思議な“小型機”と“愛すべき宇宙人(?)”は何の目的でここへ? イタリアの不思議な小人出現事件

セルジオ・コンティ 20

本誌特別調査

## 千葉県に出現した大型円盤!

26

## ネス湖における悪魔ばらいの儀式とUFOの着陸

ネス湖の怪物は動物ではない?  
F.W.ホリデイ 30

## またもライティング・ライツ?! <ライティング・ライツ2点の意味するもの>

36

●<天空と大地>科学シリーズ—6 万物が放射するオーラと宇宙電界の神秘を探る

## 天体オーラと宇宙電界の謎

38

内田ラジオコーポレーション技術研究所所長 内田秀男

## 科学トビックス

54

連載科学記事

## 宇宙・引力・空飛ぶ円盤 (3)

59

-重力のメカニカルなたとえ/「創造の一体性」理論

レナード・クランプ

## 国内UFO目撃報告 74

## 一読者の声— OPINIONS

80

### 表紙写真

1974年5月23日午後3時30分頃、京都の東本願寺境内で神奈川県鎌倉市の白江健二氏(25歳・会社員)が撮影した写真に奇妙な物体が写っていた。撮影時には気づかなかった。(アサヒペンタックス・タクマ-55mm F1.8・フジカラー-N100)

# 大気圏外のUFO!

## マーキュリー7号から撮影

●1963年5月15日に打ち上げられた  
クーパー少佐の乗る有人衛星船  
マーキュリー7号が、34時間20分で  
地球を22回まわった間にUFOを  
発見して撮影した。下方の白銀色の  
物体がそれで、右上の光体は太陽。

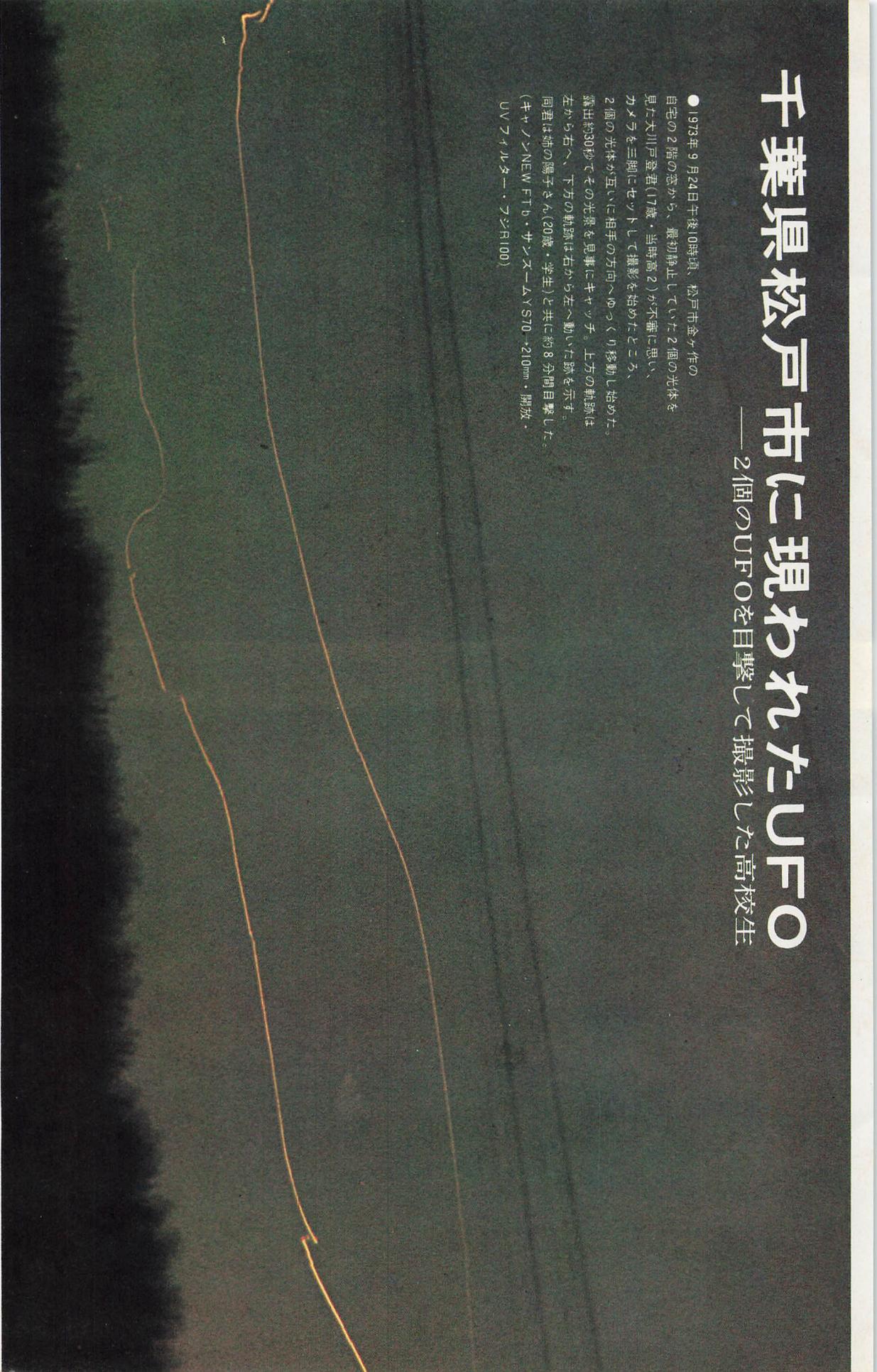
— オリオンプレス提供 —



# 千葉県松戸市に現われたUFO

—2個のUFOを目撃して撮影した高校生

●1973年9月24日午後10時頃、松戸市金ヶ作の自宅の2階の窓から、最初静止していた2個の光体を見た大川戸登吾(17歳・当時高2)が不審に思い、カメラを三脚にセットして撮影を始めたところ、2個の光体が互いに相手の方向へゆっくり移動し始めた。露出約30秒でその光景を写事にキヤッチ。上方の軌跡は左から右へ、下方の軌跡は右から左へ動いた跡を示す。同君は姉の陽子さん(20歳・学生)と共に約8分間目撃した。(キヤノンNEW FTb・サンズームYS70・F2.10mm・開放・UVフィルター・フジR100)





●1974年6月11日午後9時13分頃、千葉県銚子市の上空に出現したオレンジ色の光体を同市栄町の新行内隆君(17歳・高3)と弟が発見。ただちに同市春日町の友人原東幸君(18歳・高3)に電話で伝達。カメラと三脚をつかんで飛び出た原君は自宅前の公園でこのカラーの連続写真の撮影に成功した。目撃時間は実に

## <UFO連続撮影写真集>

## 銚子市のUFO(上下)

1時間45分に及び、その間頭上をフラフラと旋回するこの奇妙な光体を新行内君は双眼鏡で観測したが、飛行機その他のIFOでないことを確認した。上下の写真とも線状に写っているが、実際は1個の光球の軌跡である。(フジカST80・EBCフジノン200mmF4.5・開放・約5分間露出・上下写真の撮影間隔は約10分間)

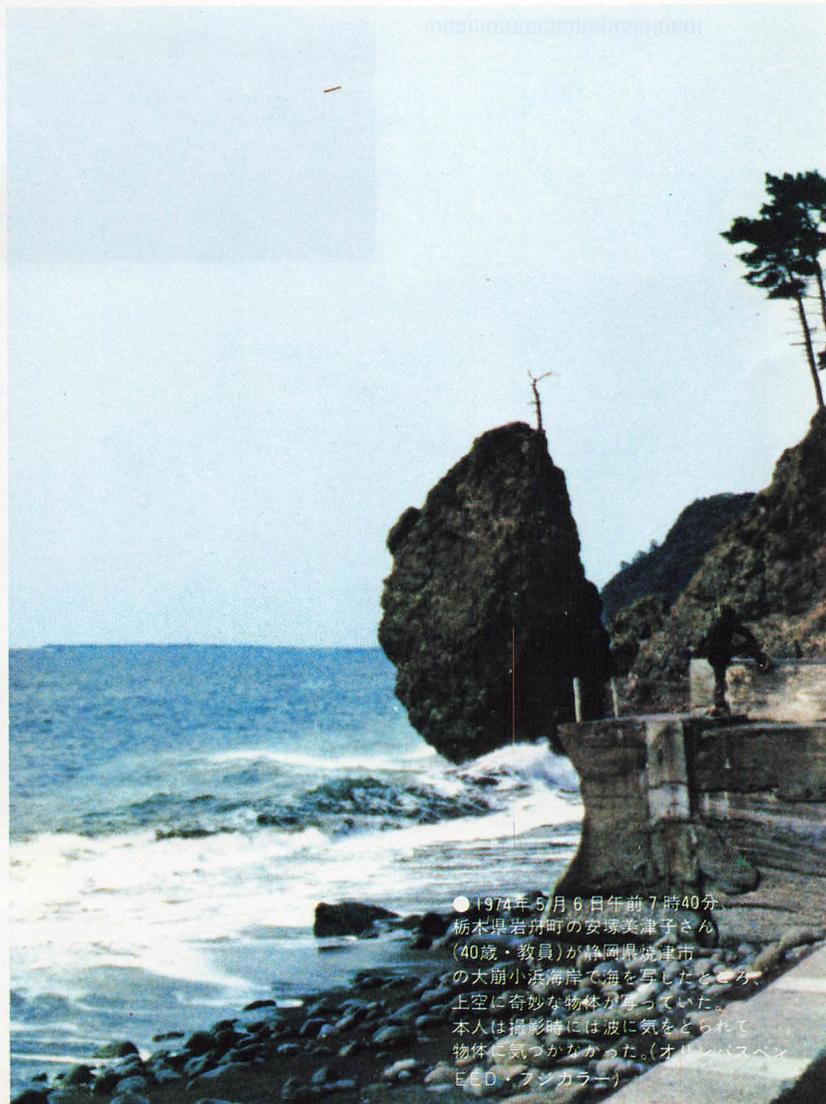


# 阿蘇山のUFO群

深夜、多数の人が目撃!

●名古屋市中区の高校2年生・山田正志君が1974年5月20日に九州の阿蘇山へ修学旅行に行ったとき、同日夜10時5分頃から21日の午前2時10分頃まで阿蘇の外輪山上空一帯を4～6個の不思議な色光体が飛び交うのを多数の人と共に目撃、撮影した。同時に白黒写真も数枚写している。(アサヒペンタックスSL・タクマー55mmF1.8絞りF2・露出時間不明・フジカラー-N100)

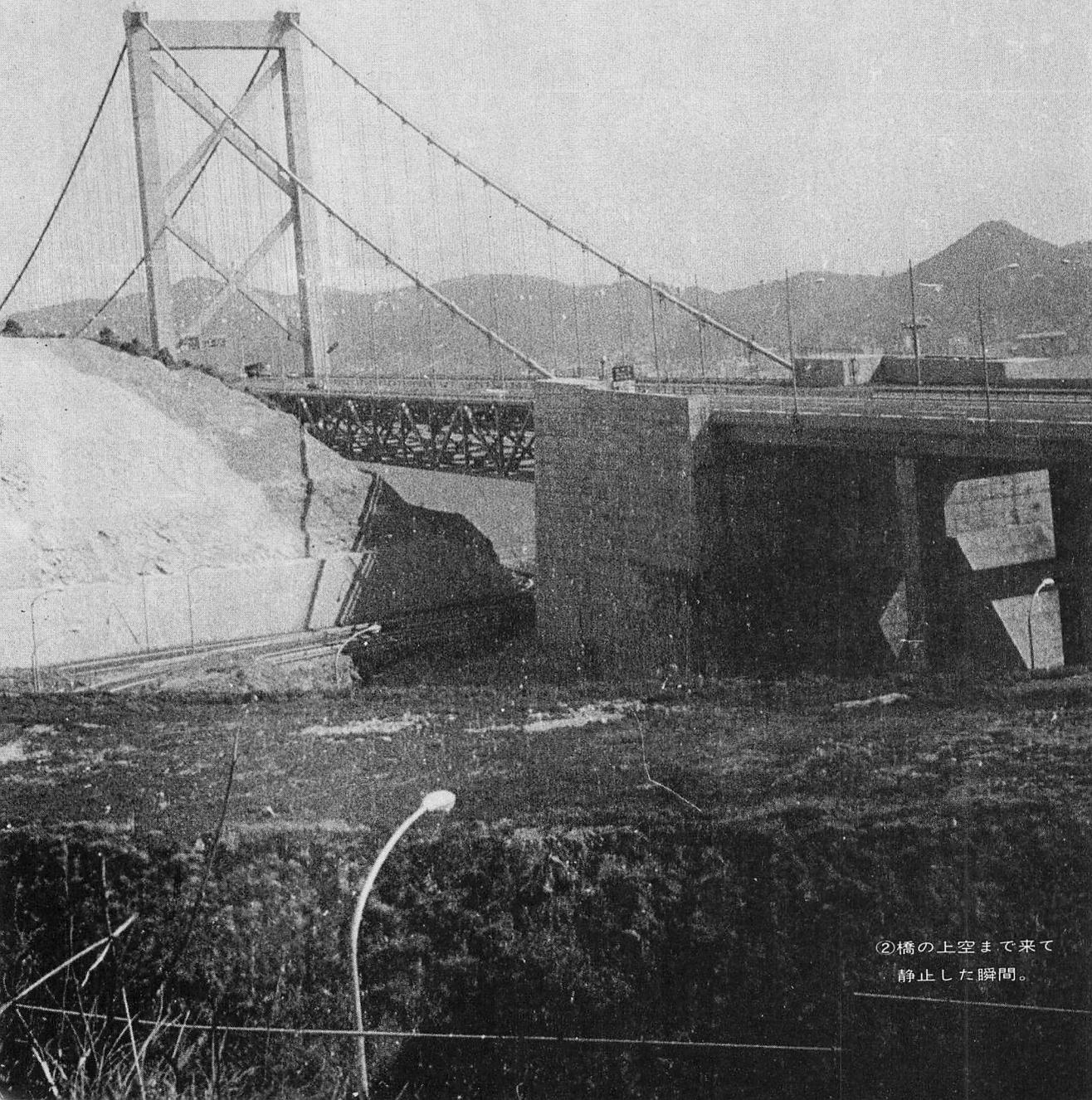
## 焼津市の葉巻型UFO?



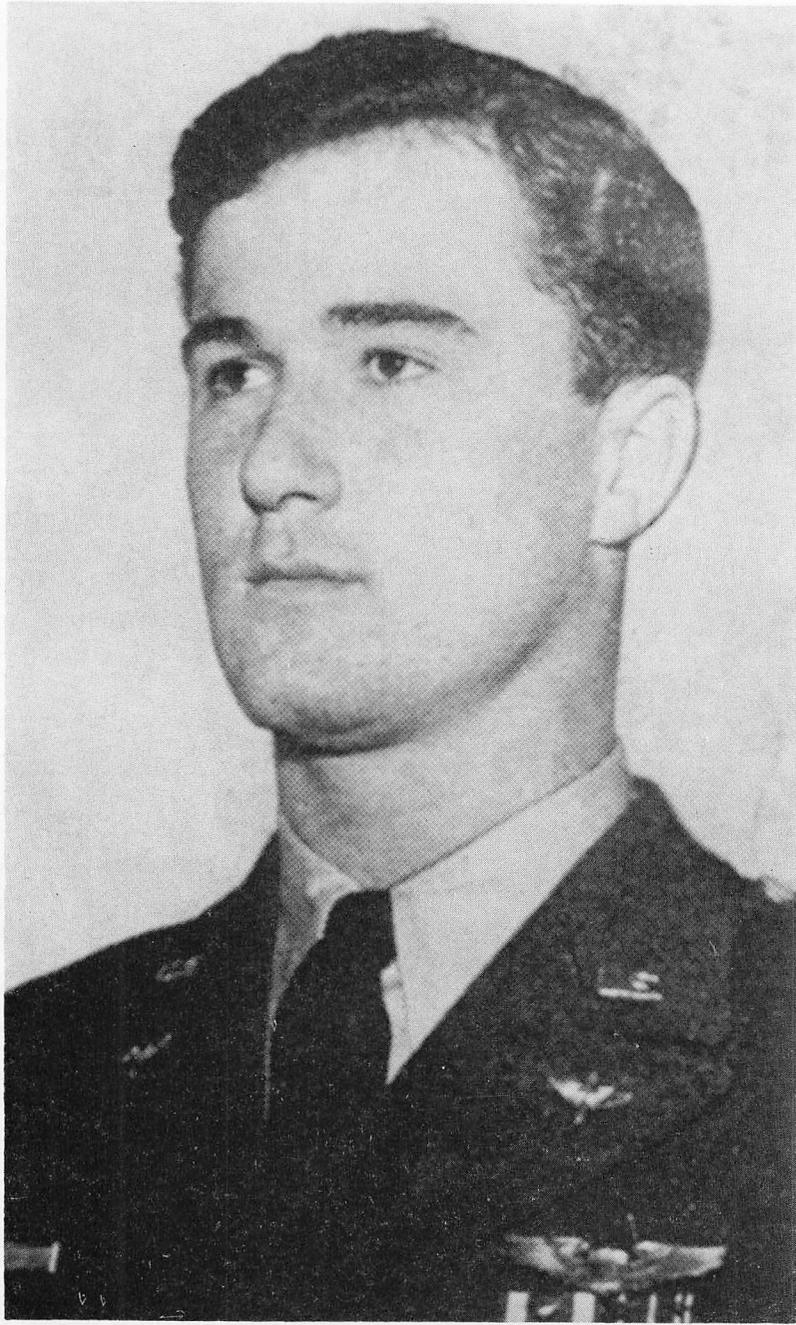
●1974年5月6日午前7時40分  
栃木県岩舟町の安塚美津子さん  
(40歳・教員)が静岡県焼津市  
の大崩小浜海岸で海を写したとき、  
上空に奇妙な物体が写っていた。  
本人は撮影時には波に気をとられて  
物体に気づかなかった。(オリンパス  
EED・フジカラー)



# 関門橋上空に出



②橋の上空まで来て  
静止した瞬間。



# マンテール大尉の悲劇

巨大な円盤を追跡した大尉機は  
粉々の残骸となって飛散した。  
驚くべき状況を伝えた最後の声—  
UFO 現象史上有名な大事件の  
真相を追求すると意外な事実が—

日本空飛ぶ円盤研究会  
代表 荒井欣一

一九四八年一月七日、米ケンタッキー州、ゴッドマン基地上空付近で、マンテル空軍大尉は戦闘機でUFOを追跡中に死亡した。この事件はその後無数に発生したUFO事件の中で、きわめて悲劇的な事件として、今なお多くの人の心の中に最も深い印象を残している事件ではないかと思う。しかしながら事件の真相となると必ずしもわれわれを納得させるものが出されていない。したがってこの事件はいまだに多くの謎を秘めていると同時に、UFOに対する政府当局の姿勢を知る上できわめて価値ある重要な事件であるといえよう。当局はこの事件に対してしばしば場当たりの説明を行なっているが、そのいずれを検討してみてもわれわれを充分に納得させ得るような合理性に乏しいし、これは空軍当局が事件の重要な部分を意図的に隠蔽しているのではないか、という疑わしい点が数多く見出されるからである。すなわち当局がこの事件をマンテルの何かの見間違いによる事故死の線に結論を無理に持って行こうとしているのではないかという疑いの念をわれわれは禁じえないのである。なぜなら、この事件が発生するやマンテルの墜落現場付近一帯はきびしい非常線が張られ、軍関係者以外の立入りは一切

禁止となり、報道機関さえも絶対に寄せつけず、まして写真をとることも厳禁されている。しかもマンテルの死体の模様についてはきわめて簡単な説明が発表されただけで、かけつれた医師による「死体検屍報告書」は今に至るも国防総省の奥深い場所に鎮座しているといわれる極秘の「赤い金庫」の中に厳重に閉じこめられたまま、部外者は一切の閲覧を禁止されているのである。

このような嚴重な秘密をマンテル事件に関しただけでなければならぬのか、したがってこの事件にはわれわれの想像以上のものが隠されているのではなからうか、と疑念を抱くのも当然の結果であり、何ら不思議でも非常識でもないわけで、私はかねてからこの事件の真相について長い興味を持ちつづけてきたが、最近、マンテル事件を記載している十数冊にわたる原書を再度熟読した結果、この事件の真相はこれ以外にないという私なりの結論に達した。そこでその推論を展開し、また読者からの御批判もいただきたいと思う。

ではこの推論をのべる前にこの事件の前後の状況等をできるだけ詳しくのべたいと思う。

## ● マンテル事件の前夜

一九四七年六月二四日のケネス・アーノルド事件以後、アメリカ全土にわたって空飛ぶ円盤の目撃報告が相次ぎ、空軍にもたらされた報告は非常に数にのぼった。そこで軍はその対応策としてこれら飛行物体の専門の調査機関を設置し、恒久的な研究をする必要にせまられた。そのためインディアナ州デイトンのライトパターソン空軍基地の空軍技術情報本部(A.T.I.C.)内にこの機関を設立した。それは一九四七年の九月二三日のことで、この機関のスタッフには同情報本部の重要な地位にある人々や、気象研究所、電気工学研究所、航空医学研究所の学者や、陸海空軍各省庁の軍人も参加して全国的な調査規模を以て発足した。この機関は後に正式に設立されたプロジェクト・サインの前身ともいうべき機関で、当時この機関の設立は極秘のうちに行なわれ、新聞さえもA.T.I.C.の中で何がなされているかについて知ることはまったく不可能といってもよいほど秘密裏に行なわれたのである。なぜこんなまで秘密にする必要があったかという点、そのころの国際情勢はしだいに険悪となり、米ソの対立は冷戦にまで発展していた。そこで軍はこれら未知の飛行物体があるいはソ連の秘密兵器かもしれないという深刻な脅威を感じていたからである。というのは第二次世界大戦終了前後の混乱時にドイツのV2号のロケット技術者の多数がソ連に抑留され、しかも彼等は革命的な航空機と誘導弾の設計図を持っていたという情報もあったので、あ

るいは彼等が秘密のうちにロケットを製作、飛ばしているのではないかという疑念があったからである。もしそれが事実とするならば、ちょうどそれは日本が原爆の製造や威力についてまったく何も知らないでいるうちに原爆を落とされ、悲惨な目にあったのとまったく同じようなことがもし米国内で起こったとしたら、きわめて重大な脅威にさらされることを考え、当局者はきわめて神経質にならざるを得なかったのである。

しかも多くの飛行物体が空軍のマロック試験飛行場や、陸軍のホワイトサンズ誘導弾実験場や、各地の原爆工場付近に数多く出現し、目撃されたからでもある。このため同機関は、ドイツにあったスパイ機関も動員したりして、全機能をあげてこの得体の知れぬ飛行物体の究明に取り組み、各種の情報を集め、あらゆる角度から調査分析を進めて行ったのである。

ところが皮肉なことに当初の予想とは逆に、調査を進めれば進めるほど、この物体がソ連の秘密兵器でないことがしだいはっきりしてきた。というのは、当初いくらソ連の飛行技術が予想以上に発達していたと仮定しても、UFOの行動に見られるようなすばらしい速度、各種の形態、強力な動力源等を考えると、とても当時の科学技術の水準では不可能であると考えられた。ましてヤソ連の超秘密兵器を他国の領土の上空で実験するとは到底考えられないという結論に達した。また一方、自然現象、航空機等

の見間違いの可能性についても種々検討したが、これらについても否定的見解が強く出され、したがってこの機関設立当初は少なくとも2〜3カ月ぐらいで結論が引き出されるものと思っていた当局の予想は見事にくつがえされたが、したがって最後に残された可能性、すなわち他の世界からの訪問者であるかもしれないという魅惑的な「宇宙船説」へとしだいに結論の方向が傾きつつあったのである。

なぜかといえばUFOの示す行動は、いかなる地球上の航空機にも成し得ない機動力があり、もしてきたとしても乗組員は記録されるような運動に耐えられないことは明らかであり、またどんな金属もその運動による過重な熱に耐えられないと考えられたからである。しかしもしそれが実在するならば、そのようなすばらしい乗物を製作できるものは技術的にも科学的にもきわめて高度に進歩した未知の種族によるのみしか考えられないと推論したのである。し

## ●事件のタイム・テーブル

一九四八年の一月七日、米国のすべての夕刊は、ケンタッキー州ルーイビルからの特電として次のような記事をトップに掲載した。

「F51の操縦士マンテル大尉、空飛ぶ円盤を追跡中に墜落！」

この記事は全米を興奮させた。空軍への問い

かし彼等はこれらが「宇宙船」であるという確固たる証拠を見出したわけではなかった。ATICの内部におけるこのような推論はこのような方向に向かっていたのだが、軍が一般に公表したUFOに対する声明文等ははこの傾向とは全然別の立場に立っての発表を繰り返しているばかりだった。たとえば、それは雲に太陽光線が反射したものと、流星とか、空中を水平に飛行する電ひょうちゆうであるとかいった類のまったく無理な説明とコジツケで当面を糊塗しているばかりだった。

しかしこのように機関の調査は極秘裏に進展して行き、一九四七年一二月の末、当時のフォレストル国防長官は正式にこの機関の設立を認めることになり、政令に署名、円盤委員会（プロジェクト・サイン）の発足が認められたのである。かくて一九四七年は終わり、混乱の年、四年へとカレンダーはめぐられたのであった。

合わせは連日殺到し収拾し切れなかった。当局は事件の重大性を認識し何等かの手段を早急に探る必要を感じ、空軍司令部内でUFOのエキスパートといわれた少佐（実はそうではなかった）を矢面に立たせて、「マンテルの追ったものは金星である」という偶然にも最近米国内で起

こったよく似た事例を引きずり出してきて、事態の鎮静化をはかったのである。

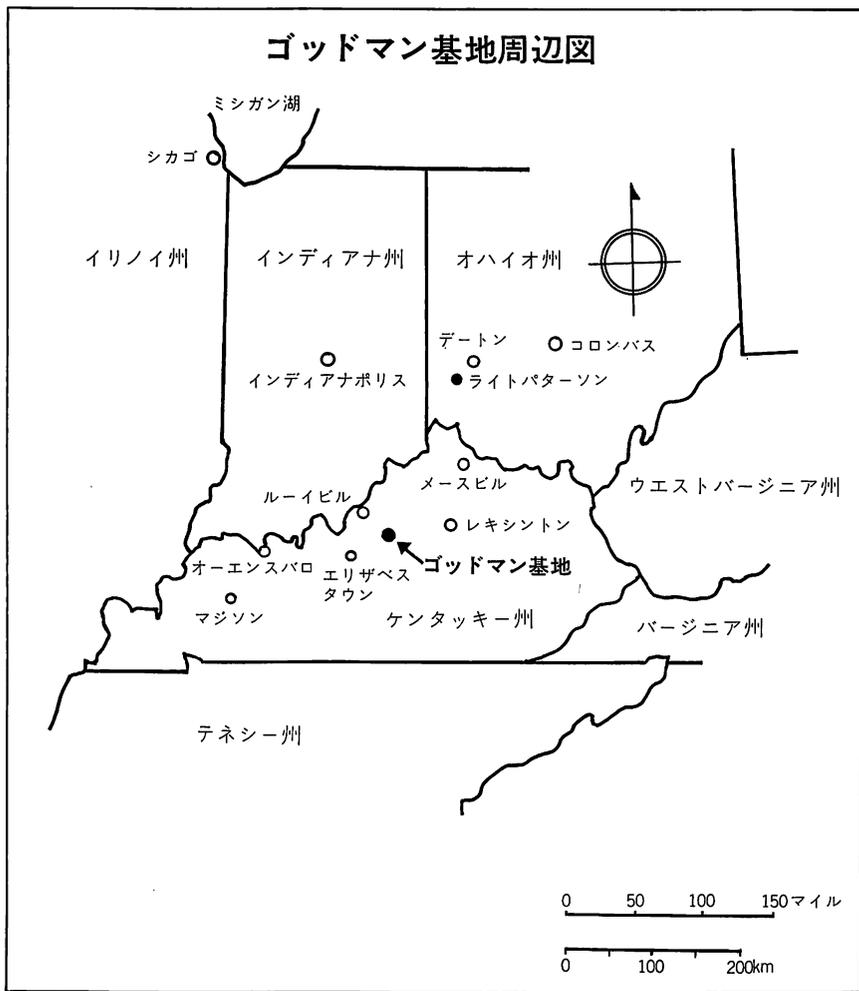
したがってこういう方向が軍によって打ち出された以上、この事件の真実は必ずしも正しく一般に伝えられていないことも事実であると思う。

そしてこの事件は最も重要な部分であるマンテル大尉と司令塔との間で交信された無電連絡を記録した録音テープの欠如、また墜死したマンテルの死体についての報告書の未公開、等々多くの謎を含んでいるといえよう。しかしこの事実挑戦してこそはじめてUFOの実体を明らかにすることができるわけであり、そして私は本稿においてそのつかんだ糸口を紹介することができないのではないかと思っている。

そこでこれらの推論を発表する前に、マンテル事件の全貌をできる限り詳細に時刻を追って展開してゆきたいと思う。

**13時15分** ケンタッキー州ルイビル郊外にあるゴッドマン空軍基地司令塔の監視員は、州のハイウェーパトロールからの電話により、ルイビルの東八〇マイル(約一三〇km)にある小都会メースビルにおいて数人の人が奇妙な航空機を見たという報告を受けとった。基地ではその時刻、付近に飛行機がなかったことを知っていたが、念のためライトパターソン基地のフライト・サービスに照会したところ、その地域にはまったく飛行機がとんで

ゴッドマン基地周辺図



いないとの回答があった。

**13時35分** 州警察からふたたび電話があり、ルイビルの西にあるオーエンスバロ及びアービンソンの町で「四型であって直径がおよそ二五〇〜三〇〇フィート(八〇〜一〇〇m)」の奇妙な物体が西の方へかなり早く飛

ぶのを見たと報告して来た。

ゴッドマン基地ではふたたびフライト・サービスに照会したが何も飛んでいなかった。この間司令塔の監視員はその物体を捜査していた。メースビルからオーエンスバロへ行くには、ゴッドマン基地の北を通るはずであ

り、あるいはその物体がもどってくるかもしれないと考えたからである。

**13時45分** 司令塔の監視員はUFOまたは「らしきもの」を発見した。二人の監視員はその物体を飛行機でもまた気球でもないかと認めて報告したので、このニュースは直ちに基地に広まり、多くの士官が司令塔から双眼鏡でその物体を観察した。しかしそれが何であるか確認することができなかった。やがて基地司令官のヒックス大佐が来てこれを見ている。同大佐はこの物体を巨大な燃えるような円盤で、直径約一五〇フィート（約四五m）ぐらいと推定した。

**14時10分頃** ゴッドマン基地から「五〇km離れたマジソンで、何百人という町の人々は奇妙な丸い金属性の物体がかなりのスピードで東方に飛んでゆくのを見た。群集の中に国家警察の警官が何人か混じっており、上官に報告した。上官はすぐケンタッキー州フォートノックスのMP（憲兵隊）に電話してその現象を説明した。フォートノックスに近いゴッドマン基地はその物体の進路に最も近い空軍基地なのである。

**14時25分** フォートノックスのMPの事務所はその物体が依然進路を東に向けて町の上空を飛び去ったことを確認した。このフォートノックスという所は史上類のないほどの莫大な黄金が埋蔵されているといわれる場所として有名な所である。

**14時30分** MPはゴッドマン基地に電話する。基地の司令塔に警報がはいる。

ちょうどその頃基地の南方から訓練中の4機のF51が着陸のため近づいて来た。司令塔はその編隊の指揮官トーマス・マンテル大尉を無電で呼び、状況を説明してからUFOを追跡して確認するよう要求した。しかし、機は燃料補給のため基地に着陸した。その時刻には基地ではUFOを望見することもできなかったが、まず南方を探索するよう指示した。

マンテル機はやがて一万フィート（三〇〇〇m）上昇、他の二機はかろうじて指揮官機が見える位置にあった。

**14時45分** マンテル機が司令塔を呼び出した。「機の前方に何か見えます。私はなお上昇しつづあります」

司令塔の人々はすべて拡声機を通じてこれを聞いていた。司令塔はただちにマンテルを呼んで、彼の見たものを確かめるよう指令した。その後のマンテルの報告は非常に理解しがたいものであったので、軍当局はこの間の内容を発表せず、また録音にもとっていないということにしてあるが、マンテルの報告の中の一つに「その物体は空中で一時停止し、それからふたたびものすごいスピードで飛び去った」という無電が確認されている。マンテルも一時UFOを見失ったようだ。

**15時0分** 突然基地の南方の雲の切れ目から、

一見して金属性と思われる巨大な物体が現われ、一瞬太陽にかがやいたかと思うとすぐに消えた。司令塔の士官たちはあっけにとられて互いに顔を見合わせた程である。司令塔にはヒックス大佐やウッツ中佐がおり、彼等は塔内において拡声機から出るマンテルの声を聞くことができた。

司令塔の士官たちは今見たその物体の印象を互いに語りあったが、ほとんど全員が目撃したことがわかった。彼等の目撃談を総合すると、

①その物体は金属性の外観をもち、円盤の形をなし、上部は円錐型容器をさかさまにしたように見えたこと。

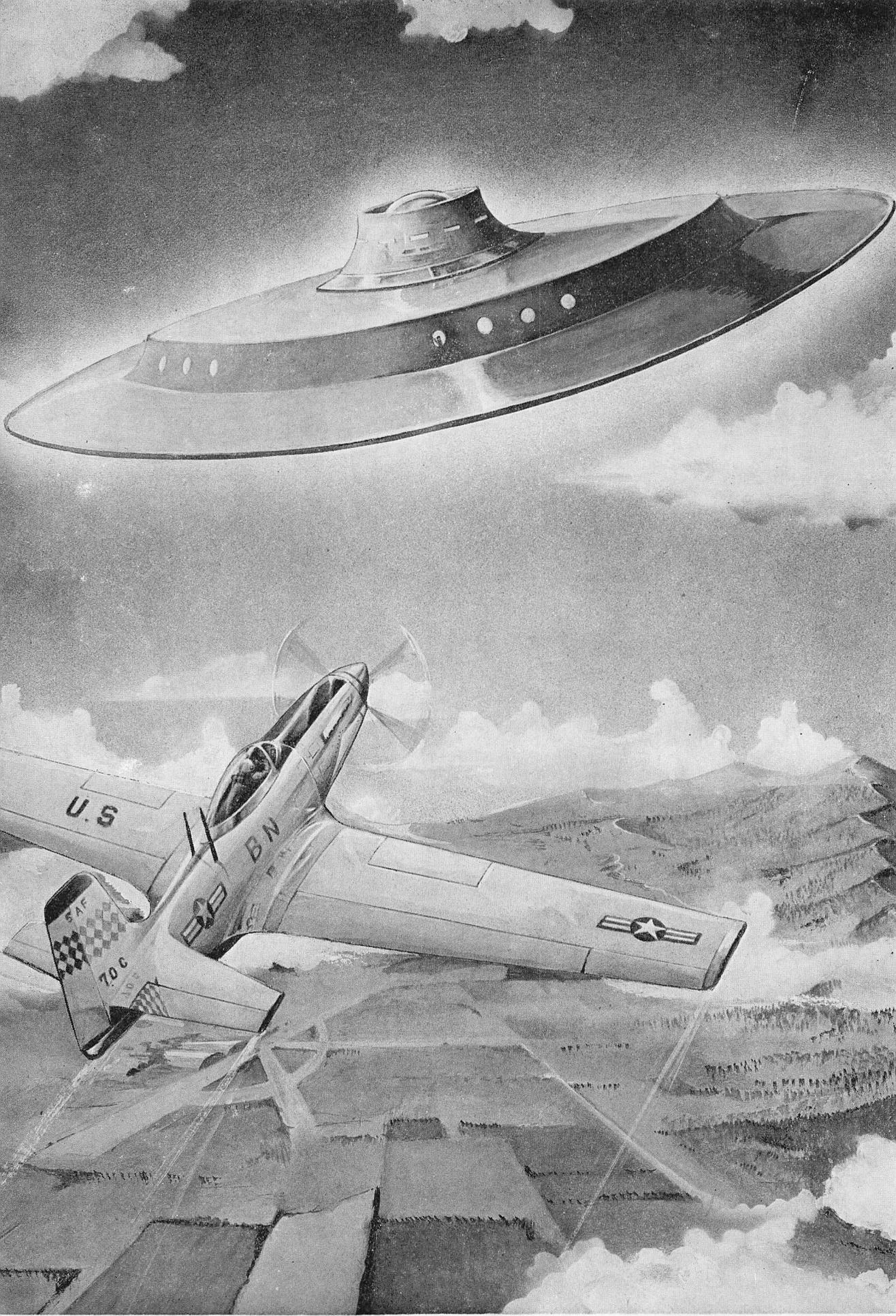
②体積は「巨大」で巡洋船リシユリューぐらいの大きさがあった。

③円錐の頂点には明滅する赤い斑点があり、④高度約四〇〇〇mで上昇中のようにであった、

ということになる。

**15時5分** 突然マンテルの声が拡声機から鳴りひびいた。

「私は例の物体をよく見るために接近しつづあります。その物体はちょうど私の真上にあります。私の機のおよそ半分の速度で飛行しています。それは金属性と思われ、大きさは怖るべきものです。私は更に上昇します」。ある本によると、マンテルはこの他に「この物体は赤味がかかったコロナのようなものを周囲に



発散していた」とも報告されているという。

マンテルが無電を切ったから司令塔の中では士官たちは顔をこわばらせ、緊張しながら無言のうちに次の報告を待っていた。

**15時08分** マンテルの僚機のひとつが司令塔を呼び出し、UFOの追跡を断念することを報告してきた。

**15時13分** マンテルの声が聞こえてきた。彼は眼前のものに、たく感動しているようだった。「例の物体は上昇しています。速度をまわし、私の機と同じスピードで進んでいます。時速三六〇マイル(約四七〇km)です。私は二〇〇〇フィート(六〇〇〇m)まで上昇します。それでもなおおそれを捕捉できないなら追跡を断念します」

この報告はマンテルの最後の報告として空軍から発表されているものだ。

しかし理性を持ってUFOにせまったマンテルがこの直後急に酸素不足のためにブラック・アウトになり失神して墜落したとはどうしても考えられない状況である。マンテルは決してそんな飛行技術の未熟なパイロットではないのである。

彼は当時二五歳で熟練したパイロットであり、第二次世界大戦ではフランスのジェルプール半島のドイツ軍陣地に対しD・D・A・Y作戦に先立って爆撃の掩護をした最初の一人であり、またオランダ上空では機体の尾部に損傷を受けながら沈着冷静に操縦して使命を達

成し、機体と乗員を安全に基地までもどした功績により飛行十字章を受けており、戦友たちの話によると非常に沈着果敢な人との評判が高かった人でもあるので、技術的な操縦ミスとは到底考えられないのである。

乗機のF51(一九四六年にP51と改称)も第二次大戦後半に欧州戦線で大活躍した世界的に優秀な戦闘機で、わずか一八・五秒で二五〇〇フィート(七五〇〇m)の高度まで上昇できる能力があり、最高時速四五〇マイル(七五〇km)という優秀な性能で、異常な事態がない限り空中分解も起こり得ないのに、マンテル機はバラバラに飛散したと言われている。

マンテルは確かに異常な状態におちいったことはまず間違いないと思われるが、ではどんなことが原因で起こったのだろうか？

**15時15分** 司令塔はマンテルを呼んだが応答がなかった。ヒックス大佐はすぐに、UFOを見失っていた他の二機に大尉の搜索を命じた。僚機は一〇〇〇mまで上昇し、南方一六〇kmまで飛んだが何も発見できなかった。

**16時15分** マンテル機の残骸が基地から九〇マイル(一四四km)の所に数kmにわたって地上に散乱しているのが僚機によって発見され、司令塔はこの通知を受けた。

**17時0分〜20分** オハイオ州コロンバスにあるロックバイン陸軍基地の上を何かわからぬ物体が竜巻のような勢いで通りすぎた。その物体の時速は約八〇〇kmと推定され、その物体の長さの五倍ぐらいの銀ネズミ色から琥珀色にかわる尾をひいていた。

また中西部の全域にわたって十二カ所の空軍基地から南西の地平線に低く飛ぶUFOを約二〇分間望見したとの報告もあった。

**8日明け方** フォートノックスに近い地方警察から機体発見の電話があり、ゴッドマン基地から数人の調査隊が派遣され、広大な地域に分散したムスタンクの破片も発見している。

現場では新聞記者の近づくことが拒否され、軍からの写真の発表もなく、また新聞への何等の声明もなかった。

その後発表された公式発表によると、彼の死体には銃弾による傷はなく、機体は燃えてなく、放射能はなかった。左の翼がちぎれており、マンテルの腕時計は一五時一三分を指してとまっていたということである。

だが嚴重な現場立入り禁止をしたにもかかわらず、ごく最近、軍が現場に到着以前にマンテル機の墜落現場へかけつけた地元のある一婦人が通説をくつがえす驚くべき証言をのべている。

## ●マンテルが追跡したものは何か

マンテルが死を賭して追跡したものは一体何だったのだろうか。「彼はその物体を自分の生命や家族以上に重要さを信じて追い求めたのではなからうかと思われる」という僚友の言葉もある。経験深く特に注意深いといわれるマンテルが、なぜ酸素マスクも持たず二〇〇〇フィート（六〇〇〇m）まで上昇しようと試みながら、マスクなしでは一五〇〇〇フィート以上のぼってはならないということはパイロットの常識であったはずである。そこには何らかの異常な事態があったことはほぼ確実と思われる。だがその推定される異常な事態の説明の前にいまままでに発表されている多くの説を紹介しておく。

①金星説 円盤委員会の人々はマンテル機墜落の報を聞くと、新聞からの照会が殺到することを予期した。そこで早急に回答を用意しておく必要に迫られ、最近の事件を調べているうちたまたま数週間前に、本物の金星をF51が間違って追跡した事実があった。ところがその状況がマンテルの事件と大変よく似ていたので、金星説がまっ先に流されることになった。

新聞記者たちは金星説を発表する空軍省の広報官がきわめて落ち着いた態度でこの説を発表したために疑念をさしはさまず、そのまま発表してしまった。しかしその後の調査によりこの説への疑念が高まり、記者たちは不満を表明し、空軍当局に再度説明を求めた。空軍司令部

では、UFOのエキスパートといわれるジョー・ボッグス少佐が記者連と会見したが、少佐はただ金星説を主張するのみで、詳細な質問に対してはすべて「ノーコメント」を押し通した。

この結果会見した記者たちは空軍が何か重要な情報をかくすために金星説を主張しているのではないかという強い印象を受けたようだ。その後設立されたUFO調査機関の長、ルッペルト大尉の調査によると、この少佐は単にUFO関係の報告書を執筆したことがあるというだけで、ATICにも属したこともなく、またエキスパートとはいえない人物であったという。

ルッペルトは更にハイネック博士にも会って金星説をたしかめているが、博士は当日の金星の位置及び光度からいって、UFOである可能性もあり得たので一応賛成したものであり、現在ではあれが金星であるとは考えないと言っている。つまり空軍内部はこの事件で極度に混乱していて、体面上正体不明の物体を何らかに説明しなければならぬ立場にあったのが金星説の本当の理由であり、そしてこの説を固執し続けたのにはすぎないのであるといえよう。

したがって、この説は約一年後に撤回するのである。委員会の発表によると「金星が最も強い光輝を発するとき、その位置へ正確に目を向けるなら白昼でもハッキリ見ることが出来る。しかしその日の光輝度では金星の正確な場所を見出す機会はきわめて稀である」というもので、金星説がいかにいいかげんなものであ

たかがよくわかると思う。実際に白昼同時に多くの人が金星を観察し得るということは天文学的にもきわめて稀なことではしかないのである。

②天蓋反射説 この説についてはルッペルト大尉は、自身の経験や、他のパイロットの話も聞いても、それはある短時間において飛行機の天蓋や翼の反射におどろかされることはあるが、二〜三秒もたてば、それが反射であることはすぐわかるはずである。マンテルは少なくともその物体を五分ないし二〇分追跡しているのであるから、そんな長い間彼が反射に気がつかなかったとは信じがたい、と言っている。

しかしマンテルといっしょにUFOを探していた二機のパイロットは基地に帰る途中司令塔に対し「何か見えたと思ったのはみな機天蓋反射にすぎなかったようです」という報告をしているので、この説も一応考慮されてはいるが、マンテルの無電連絡の状況からいって到底考えられないと思う。

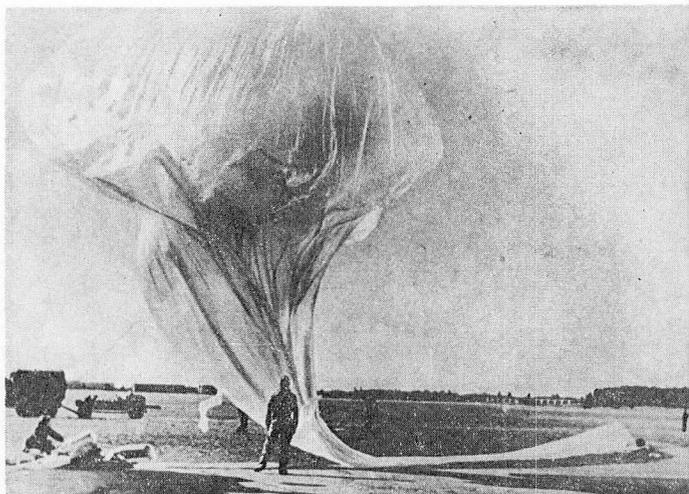
③幻日（サンドッグ）説 この説はハーバード大学の天体物理学者メンゼル教授の主張されるもので、それによると、「擬太陽（モックサン）は学者が幻日と呼ぶ気象上の現象から起こる光の集中である。幻日そのものも丸く水平な光の帯である。その大きさは中等度つまり目に見える月や太陽の大きさに等しい。そしてあの場所ではその帯はひとときわ光がつよく、赤味をおびた一個あるいは数個の斑点を示す。これが擬太

陽である。それはマンテルでもとうてい達しうべくもない高所に位置する雲、すなわち巻雲の水によってひきおこされる。この擬太陽は光量をとめない、マンテルが語るような外観を呈することがあるかもしれない。そうだとすれば、マンテルがどうしても到達できなかった事実と符合する。さながら虹を追うのにも等しいことである」というものである。

しかしこのような現象はたしかにあることはあるが、きわめて稀にしか現われない現象で、もし実際に擬太陽があったとしたら当然他の二機もこの現象に気がついていなければならぬ。ルッペルトの調査によると、「実際に空軍機が幻日を追った事件が二件あったが、二件とも機が数千m上昇するにつれて見えなくなってしまう。これは反射の角度が変化したからである。マンテルが追跡したUFOは上昇することによって消失することもなかった。UFOが幻日である可能性はまずない」と言っているが、マンテルが幻日のことを知らなかったはずはないと思う。というのはパイロットは気象学の講義も受けており、このようなことはおそらく初歩的な知識として持っていただろうし、また判断もできたと思われる。

ましてや金属的な輝きとか、赤い明滅するものや三角錐の型を目標していることからして、この幻日説は机上の空論になりかねない点もある。

④スカイフック気球説 ルッペルトは国防総省



●マンテル事件当時で使用されていたスカイフック気球

に対してマンテル事件の調査結果として「マンテル事件におけるUFOはスカイフックであった可能性が高い」として報告している。その推定した主な理由は

(a) 証人として最も完全なゴッドマン基地の司令官をはじめ、司令塔内にいた人々が「パラシュート」「アイスクリーム・コーン」「円形の物体」というような描写をしているが、スカイフックは直径一〇〇フィート(三〇m)もあり、その描写に当てはまる。

(b) マンテル機墜落直後ゴッドマン基地の近くで気球を見たものがあり、その一人は天文学者であり、望遠鏡で確認している。

(c) スカイフックを管理する班に照会したところ、一九四八年の初頭、オハイオ州南部のクリントン基地からスカイフックを打ちあげたことがあり、更に気象状況等を調査した結果、クリントンで揚げた気球がゴッドマン基地の方向に流れることは充分にありえた。

(d) プロジェクト・サインで気球説が出たとき、すべての気球についてチェックしたが該当の気球がなかったと言っているが、当時スカイフックの打上げは極秘であって、その時これはチェックに含まれていないことがわかった。

(e) マンテルが追いつけなかった早さは多分スカイフックがジェットストリームにのっていたからではないかという。一九四八年頃、ジェットストリームについてその流れ方の詳細はまだ知られていなかった。

ここにあげたこれらの気球説の中では多くの疑点がある。たとえば気球がマンテルの追跡をのがれるために速力をまし、他の二機をマイエしてしまうほどの速力が果たして出せるだろうか。たとえジェット気流に乗ったとしても、時速一〇〇km程度(地上では秒速三〇mという台風なみの速さである)しか流れない気球が戦闘機の速さでも追いつかないとは到底考えられないし、また打ち上げが極秘機密ということだが、当時の調査委員会はかなりの強い権限と広い情報網を持っていたわけで、その網にもかからなかったことは意外であり、またスカイフックの打ち上げがそれほど機密性があるのかどうか

疑問である。

またマンテルの墜落直後、付近を探しまわった僚機も気球の件には触れておらず、基地周辺を飛行していればおそらく発見していたことだろう。

(f)ソ連の秘密兵器説 これに対して円盤委員会は「問題を核分裂によるエネルギーの領域でアメリカが得た結果に照らして研究してみたが、円盤を推進すると思われるほどの小さなモ

## ●あとに残されたもの—— 地球人への警告か

本稿もようやく大詰にきた。たびたびのべてきたようにこのマンテル事件に関してはあまりにも謎が多すぎる。それは結局当局の説明資料の不足によるものであり、その不足する原因はこの事件がきわめて異例の事件であり、したがってこの事件の真相を發表することは国民に大きなショックを与えるかもわからず、もしも大きなパニック状態を引きおこしたら政治的にも軍事的にも大きな問題を惹きおこしかねない危険の念があったのではないだろうか。事実一九三八年にはオーソン・ウェルズ演出の「宇宙戦争」が米国内で大きな波紋を引きおこした苦い経験をなめているのを当局者は忘れることができなかったに違いない。マンテル事件を事実そのまま公表したらその結果の恐るべき混乱を予想したのではなからうか。われわれも当然その考え

「ターがこの地球上に存在することはきわめてありうべからざることと考えられる」と發表している。前にも記したようにこの説はあまり考えられない。

その他にもナチスの残党の作った秘密兵器とか空中爆発とか、あるいは正式に否定されたが海軍の宇宙線調査気球説までいろいろあるが、どれもこれもマンテルが追跡したUFOとは大きな差異があると言えよう。

方には理解できるものであるが、しかし真実は果たしてどうなのか。それへの興味、あるいは探究意欲は政治的意味はどうであれ決して衰えるものではない。そしてその執念に込めるかのような新たな事実がつつぎと最近もたらされてきたのである。もしこれらが真実であるとすればならばマンテル事件の様相は一変し、また今後にも大きな影響を与える重大な事件となる可能性を秘めていると言っても過言ではない。前にも指摘したように、この事件はきわめて

## ●驚くべき最後の声—— 「中に人間がいる！」

重要な部分である二つの点が一ハッキリしていないということである。  
すなわち、マンテル機と司令塔との間で交された無電の内容を記録したテープが公表されていないことと、もう一つはマンテルの死体についていることである。この二つの点の内容が少しでも判明すれば、この事件の真相もおのずからわかってくるわけである。この二点の究明は、したがって円盤研究のキーポイントとも言えよう。

マイクロ版  
**UFOスクラップス**  
 シリーズ

第1期20枚完成 第2期発行中  
 ★UFO資料の決定版★

新聞、雑誌、週刊誌等に掲載されたUFOのニュース解説、評論等を全マイクロ化してA4サイズに縮小、リスト送る。〒20円

〒141 東京都品川区東五反田2-19-18  
 日本空飛ぶ円盤研究会  
 代表 荒井 欣一

ところが事件以来二〇数年たった今その謎がしだいに明るみに出されてきた。それは記録された録音テープの一部の内容と、マンテルの死体を直接見た民間人の言葉によって最近はじめ明らかにされたのである。

すなわちマンテルが司令塔と最後に交信した内容は一四頁に載っている通りであり、これが最後の言葉ということになっているが、実はこのすぐあと驚くべき無電がはいっていたのが明らかとなった。これこそ文字通りマンテル最後の言葉であるに間違いはなさそうである。その言葉は当時司令塔内にいたある人が後に英国の円盤研究団体の会員に明らかにしたものである。まさにマンテル事件の決定的なポイントを洩らしたのである！

その人の説明によるとマンテルは公表されている最後の無電を打ったすぐあと、UFOとの至近距離（おそらく三〇〇m～五〇〇m）まで接近したらしい。

そのとき彼の機は空中で瞬間静止したのである。そのとき彼は無電で叫んだ！

「たいへんだ！ その中に人間（複数）がいる！」このあとの言葉は不思議な、しかもしだいに強くなる雑音にはばまれて何を言っているか聞かえなかったということである。そしてその瞬間恐るべき破壊に見舞われたいらしく、連絡はとぎれてしまったのである。

そして不明の二点もやがて明るみに出てきた。この報告は前の第一点とまったく関連のな

い別の所からもたらされたもので、もちろん第一点の真相はまったく知らない人から最近伝えられた証言である。

この証言をもたらしした人はマンテル機が墜落した現場の近くに住む非常に信用のあつた婦人で、彼女からアメリカのある有力研究団体にもたらされた情報である。

それによるとこの婦人は、ラジオのニュースでマンテル大尉機の墜落死を聞いたあとすぐ飛行機の墜落現場へ急いでおもむき、まだ軍や警察関係の人たちからなる捜索隊が到着するまえに現場に到着していた。

彼女の言うのには「機体は文字通りバラバラに壊れており、機体は真黒くこげていた」というものであり、おそらくマンテルの死骸も焼死体で発見されたのではなからうか。当局は「焼死体ではない」と発表しているが、いまだにその検屍報告書は発表されていない。

また当日ゴッドマン基地にいたある空軍情報機関の人はマンテル事件のことについて「マンテルの追つたものは真の物体であり、金星や地球でもなく、マンテルの死体は発見されたとき、高熱をあてられたように文字通り人間が煮物料理されたみたいないな状態であった」とも言っている。

このように不明の二点がかくもあざやかに浮かび上がってきた以上、われわれは何と解釈すべきであろうか。

マンテルはあまりにもUFOに近づき、人影

を発見して恐怖のあまり一二・七mmの機銃の引金を引いたかもしれない。それと同時にUFOからの高熱波を受けたかもしれない。そのとき彼が発砲した徴候はあるのである。なぜならそれはマンテル事件発生までは「UFOを見たら撃ち落とせ」という命令が空軍当局から全パイロットに伝達されていた。しかしマンテル事件後突如としてこの命令が次のように変更されたのである。

「迎撃せよ。しかしUFOの側において明らかな行動（敵対行為）のある場合以外は決して射撃してはならない！」と。さわらぬ神にたたりなしという古諺があるが、米軍当局のこの姿勢は明らかに問題の拡大を阻止しようとしているのではなからうか。この軍の姿勢を見事裏付けるようなことがまたすぐあとで起こった。

その年の9月、ATICからバンデンバーグ空軍長官に対してプロジェクト・サインがまとめた円盤の報告書「情況の評価」という部厚いレポートが送られた。その内容は「UFOは地球以外のものである」という結論であった。しかし当局は証拠不十分として、後にこのレポートを機密情報のリストからはずして、しかも燃やしてしまったという事実が伝えられている。そしてプロジェクト・サインは解散を命じられ、新たに円盤否定専門機関である「プロジェクト・グラッジ」の誕生となるのである。

これからの数年間を円盤研究者たちは暗黒時代と呼んでいる。

世界各地の電波天文学者たちは今や、彼らの望遠鏡を他の惑星から来るかもしれない信号を聞くために空に向けている。われわれより進化した文明世界から信号が来るチャンスをねらっているのだ。

われわれはやっと星々と交信できるようになったけれども、文明の発達した他の星々はすでに異星との通信において数百万年の経験をもつかもしれない。

他の惑星に生命が存在し、地球人がいつかコンタクトするかもしれないと信じる科学者はふえている。ニューヨークのコネル大学のカール・サガン教授は「いつの日か電波望遠鏡は他の星々からのメッセージをキャッチするだろう」と述べている。

サガン教授は宇宙に関する現代の予言者の一人であるが、目の燃えた夢想家ではない。教授は世界で最もよく知られているすぐれた天体観測者の一人であり、しかも地球上でいかにして生命が誕生したかという重要な研究を行った生物学者でもある。地球以外の生命の存在に関するサガン教授の確信は近隣の惑星の研究に基づいている。米航空宇宙局NASAは火星探査用ロケット、マリナー9号から送られてきたデータについての教授の研究を称賛し、特別科学業績メダルを贈った。

現在彼は米宇宙船パイキングが火星に着陸し、火星に存在すると思われる生命体の調査をすることになっている。1976年を胸を躍らせ待ち望んでいる。

「火星におけるごく単純な有機体の発見でさえも生物学上、深い意義をもつであろう」と教授は言う。そして教授はある生命体が赤い惑星の乾燥した砂の中で発見されるのを待っているかもしれないと想像をたくましくしている。

サガン教授は火星の気候は非常に長い期間にわたって変化すると信じている。そして現在、火星は長い氷河期のもとにあると考えている。

そこでは植物の胞子やバクテリアなどのような単純な生命体が、数千年間ふたたび周囲が暖められるまで眠っているかもしれない。そうだとすれば、サガン教授はパイキングに積載してある機械がそれらを発見するだろうという希望をい込んでいる。火星の生命の知識は、地球上でいかにして生命が誕生したかという謎に関して科学者が理解を進めるのに役立つだろう。

サガン教授は火星の気候を地球人向きに変えることができるかもしれないという理論をもっている。

火星は地球にくらべて太陽からかなり遠くにあるので、相当寒い。大気中のガスは極冠に氷状となって凍っている。その結果、火星にはごくわずかの空気しか存在しない。ガスは火星を暖めることによってふたたび大気中へと広がっていく。サガン教授はこの火星を暖めることは火星の極冠上に植物の種をまくことによって可能であると言う。種が植物に育つとそれは太陽から熱を吸収し、極冠を溶かしてガスを空気中に放つようになると同時に、極冠からの水が地表を流れ始めるだろう。

サガン教授はこのようなプロセスを「大地形成」と呼んでいる。そして彼はこのプロセスが長期間にわたって進展してゆくことにより火星を人の住める惑星に変えることができると信じている。

サガン教授が生命を発見することを期待している近隣の惑星は火星だけではない。彼は実験を行なった結果、巨大な惑星—木星を取り囲んでいる厚い雲の間にもある単純な生命体が誕生する可能性があることがわかった。

木星の大気を形成している水素、メタン、アンモニアと同じ種類の化学物質がかつて地球を取り囲んでいたと考えられる。地球上の生命はまさしくそれらの物質から形成されたのであった。

電波天文学者たちは最近それらと同じガス類が宇宙空間に充滿していることを発見した。それらはとりわけ新しい星が形成されているガス雲の中で密集しているのである。

サガン教授はこれが偶然を越えた出来事であると信じている科学者である。教授は地球上に生命をもたらした同じプロセスが宇宙のいかなる場所でも当てはまるという理論を根拠としている。

そして大部分の天文学者が現在、恒星の誕生後、残されたチリから惑星が形成されたと信じていることから、この宇宙には他にもかぞえきれないほど生命を維持する惑星があると考えられる。平均的には、われわれが夜空を見上げて見る星々の10個に1個は生命の存在に適した惑星を持つかもしれないのだ。

ところが科学者たちは知的生物が生命維持可能なすべての惑星で生長すると仮定することは期待しすぎであると考えている。彼らはこれらの惑星の中の一部の惑星だけに、われわれ地球人と交信可能なほどに発達した生物が存在するだろうと期待している。

## 他の惑星からの信号

1971年、米国とソ連の科学者の合同会議が開かれた際、彼らはこの問題について討論したが、席上

サガン教授はわれわれの銀河系—夜空に点々と見える星の集まりや銀河と呼ばれる輝く帯状の広がりとなっている—には百万種もの発達した文明が存在するかもしれないとの結論を出した。

そのような文明が他の惑星に存在するか否かを探るための唯一の方法は電波を使って彼らと交信することである。しかしメッセージが往復するには非常に時間がかかるので、われわれとしてはある文明の発達した星からわれわれがキャッチできる信号を送ってくれることを望んでやまない。何を期待すべきかはだれにもわからないが、人工的な信号は空電と区別しやすい。それはモールス符号のように律動的に送られてくるだろう。最も高度に発達した文明をもつ星ではたぶんわれわれが知らないような方法で交信を行なっているのかもしれない。

「われわれはおそらく、広大な国際電話や電信網の存在に気づかずに飛脚やドラムの音を使って交信合っているニューギニアの谷間に住む住民と同じかもしれない」とサガン教授は述べている。

しかしチャンスはある。われわれは遠く離れた星の生物と最初の歴史的な交信をする能力があり、しかも多くの人々にとってはほんのわずかな心細いチャンスかもしれないが、カール・サガン教授のような科学者たちは努力することによって交信は可能であるとはりきっている。なぜなら彼らはわれわれが耳を傾けて聞こうとしない限り、歴史上最初の惑星間交信を行なうチャンスはまったくないということを知っているからである。(イアン・リドバース)

# イタリアの 不思議な小人出現事件

林の中に突如現われた  
“小型機”と“愛すべき宇宙人(?)”は  
何の目的でここへ？

■ セルジオ・コンティ ■

一九五四年一月一日は、これまで記録されている中で最も特異なUFO着陸事件とコンタクト事件が起こった日として知られている。

チェンニーナはイタリア、アレツツォ地方のブチーネ近くにある小さな町である。

その朝（カトリック教会の祭日で月曜日）ローザ・ロッチェ・ネイ・ダイネリはチェンニーナにある教会と墓地へ行くために朝早く起きた。彼女は、チェンニーナとカッパノレの間のひっそりとした場所にある「ラ・コリーナ」と呼ばれている農場に住む四〇歳の農婦で、四人の子供の母親でもあった。

彼女は、前夜聖歌行列を行なった聖母マリア巡礼団の祭壇に供えるために、カーネーションの花束を持っていた。午前六時半である。

ローザ・ロッチェはめったに町へ行くことはなく、もっぱら農場で骨折仕事に従事していた。

しかしこの祭日の朝は新しい服を着て畑や雑木林を通り抜けて町へ通じる小道を歩いて出た。彼女はストッキングと「とっておきの」靴をよごさないように手に持って、自分はハダシで歩いた。町の家が見えたときにストッキングと靴をはくつもりでいたのだ。

ローザは低いやぶの中に通じている小道のある場所へやって来た。この道はよく歩くのである。この道についてはよく知っていたし、夜中でも何度か歩いたことがあるが、別段不愉快な変質者にも会わず、また怪異な物事にも出くわしたことはなかった。

散在する灌木やヤブの中の比較的に透しのきく場所へ来たとき、彼女は突然松の木の近くの小さな草むらの端あたりで異様なものを見たのである。奇妙な見たこともない物体を目撃して一瞬驚いたが、同時に好奇心も起こってきた。物体は巨大な「紡錘」のような型をして、地面に垂直に立っているのだ。

不思議な「乗物」と「小人」

ローザ・ロッチェはその奇妙な物体について次のように述べている。

「その物体は二つの円錐をつなぎ合わせたような形をしていて、高さは二メートル以上で中間部の径は約一メートルぐらいでした」（一九五四年一月二日付ラ・ナツィオーネ・イタリアーナ紙①）

「二つの錐を基底部で合わせたような形でした」（ラ・セツティマーナ・インコム紙、第二四号）

「その物体は中間部が大きくふくらんで、両端はとがっていましたし、表面

はなめし皮か何かでおおわれているようでした」(一九五四年一月二日付イル・ジョルナル・デル・マッティ一ノ紙)

「物体の外側はピカピカに磨かれた金属のように光っていました。下方の円錐部分にはガラスのドアが開いていて、その内側には子供たちが使うような小さな座席が見えました。物体の最もふくらんだ中間部には円型のガラスのようなものがあって、物体の丸い胴体にくっつけてありました。物体からは何の音も聞こえませんでした」(一九五四年一月二日付ラ・ナツイオーネ・イタリアーナ紙)

ローザ・ロッチェは驚きと好奇心で思わずその場に立ち止まったが、実はもっと驚くべき事が起こったのである。紡錘型をしたその物体の背後から奇妙な二人の「人間」が、出現したのだ。「格好は普通の人間と変わりないようでしたが、背丈は子供くらいしかありませんでした」と言う。

### 友好的な態度を示す小人たち

驚いたことに二人の小人は満面に親しみの表情を浮かべながら彼女の方へ近づいて来る。ローザ・ロッチェはそのとき彼らを充分観察しておいたのの後になっても相手について詳細に話すことができた。

彼女の説明によると、問題の小人たちは背丈約一メートルで、足も含めて全身に灰色の作業衣のようなものを着ており、背中には灰色の生地（まわらひ）の短いマントを着けていた。服の上にはダブルット（一五）一七世紀ごろの男の軽装で腰のくびれた胴着のこと。訳者註）のようなものを着て「輝く星」のような小さなボタンが襟（えり）の部分までついて

いる。また彼らのズボン（はかま）はびったりとしたパッチのようなもので、彼女の言葉（ことば）を借りれば男が冬にはくモモヒキに似ていたという。頭にはヘルメットをかぶっていたが顔は普通の人間と大差なく、ただ小さいだけである。二人とも背丈は五歳の子供ぐらいだが、身体全体は均斉がと

「この二人の小人を合わせれば普通の人間になるでしょうが、年をとっているとしても、とてもハンサムでした」と彼女は言う。彼らは活発に話し合ったが、しゃべる言葉はまるで中国語のようで、「リュウ、ライ、ロイ、ラウ、ロイ、ライリュウ」と言い続けている。

相手は身ぶり手ぶりで話しかけてきたが、決して威嚇するよ



うな様子はなく、それどころか親しみの情をこめて何とか自分たちのことを理解してもらって意思の疏通をはかろうと努力している様子だった。二人の小人のうち年とって見える方の小人はもっと陽気で、よく笑い、明らかに相互に理解し合っていた。彼らは澄んだ美しい知的な目をしており、鼻は普通の人間と同じような形で、口も人間と変わらないが、うわくちびるが真中でちよっとめくれているため、笑っていないときでも歯が見える。その歯もわれわれの歯と同じ幅があって強そうだが、短いうえにウサ

ギの齒のようにいくらか突き出てゐる。両耳の部分は、皮製の丸い物でおおわれているので見えない。頭のまわりにもやはり皮のバンドをまいてゐた。

奇妙な包みを取り出す

彼らはおびえているローザ・ロッチェイに近づくと、彼女が手に持っていたカーネーションの花束と黒いストックキングの片方をもぎとった。返してくれと恐る恐る抗議すると、年長の小人が自分の手元へ五本のカーネーションを残して残り全部を返した。それからせんざくするように花の構造などを調べていたが、笑いながら花の束をストックキングで包み、物体についている小さな人口からストックキングごと中へ投げ入れた。

続いて彼らは数歩あとへさがって、奇妙な物体の中から白色で丸い二つの「包み」を腕に抱きかかえるようにして取り出した。その「包み」は新聞紙のようなもので包装してあるようだったが、新聞紙ではなかった。(一九五四年一月二日付ラ・ナツイオーネ・セーラ紙)

彼らは「包み」を取り出してふたたびローザの方を振り向いたが、そのとき彼女はもう一目散に逃げていた。約一〇〇メートル逃げたあと、うしろを

振り向くと、あの奇妙な物体も小人もすべて消え失せていたのである。

目撃者が受けた心理的影響

仰天したローザ・ロッチェイは息をきき切って町に着いたが、気が転倒していた。死ぬほどこわかったのである。しばらくは何も思い出せない。

彼女は自分の異常な体験をまず土地の憲兵隊の隊長ロッコ・ベンファンティとネロ・フォカルディ伍長に伝え、その後同じことをブチーネ地区憲兵隊のマッサーロ大尉と主任調査官、エリオ・ロッチにも伝えた。

当然のことながらたくさんの人々が目撃事件の現場へ殺到した。彼らは一様に「紡錘」型の物体があったという場所ので地面に大きな穴があいていた点を確認している。この事件の調査にあたった憲兵隊の連中も現場に最近できたと思われる深い穴があることを発見したのである。

目撃事件の余話

ローザ・ロッチェイが二人の小人と会っていた時間は約一〇分間であった。無我夢中で逃げ帰ってから彼女が最初に出会った人は、近くで狩りをしていたベッペ・ゴスティネリという人物で彼はディ・ジアッコとも呼ばれていて

ローザもこの男を知っていた。ところが彼女はキモをつぶしていたため自分が見たことを彼に伝えようという考えさえ浮かばなかったのである。

結局彼女が自分の見たことを話した最初の人は彼女の友人のアニータ・ヴァレンティである。彼女はローザが恐れおののいているのを見て尋ねた。「まあローザ、今まで何をしていたの？」ローザは一気に感情を爆発させてすべてをアニータに語った。

チェンニーナの主任司祭、ドン・ギード・ペラルディは、ローザが自分の教会の信者の中でも非常に落ち着いた真面目な信者であることを知っていたし、また彼自身どんなつまらない空想や妄想に対しても心を開いて理解を示す人物であったので、ローザの述べたことに大変強い印象を受けると同時に彼女の話を信じた。

新たに判明した事実

さてこの目撃事件が起こってから一八年たった現在、われわれはプラトUFO研究グループから寄せられた協力のおかげで、このチェンニーナの目撃事件の再調査を行なったのである。

このため事件を詳細にわたって調査できたし、この事件の裏付けとなる価値ある証拠の数々を集めることができた。このプラトUFO研究グループの

メンバーであるシロ・メニクッチ、ステファノ・コルシ、イグナツィオ・ダンドレア、ダニエル・ピアンコそしてヴィルジリオ・キアーリの各氏は事件現場に何度も足を運び、今も健在のローザ・ロッチェイに会って当時の話を聞いたりしたのである。

これらの若い研究者たちは入念に調査を行ない、一九五四年一月のあの日に起こった出来事の確認を得た。その結果、当時うっかりして新聞が載せ忘れたり、わざと報道しなかったり、あるいは曲解したりして、とかくあいまいであった事柄も次々と詳細が判明していった。

たとえば、当時新聞が報道したこととは逆に、ローザ・ロッチェイは自分が例の不思議な生き物とコンタクトしていたあいだには恐怖心は起こらなかったと述べている。実際に恐怖と驚きがおそってきたのは彼女が現場からとにかく遠くへ逃げるため一目散で走りながら一体何が起こったのかを考え始め、そして徐々に出来事の内容を意識し始めた頃だった。

このことは、ヒューマノイドと面と向かっているときは彼女が案外平靜な状態を保ったということ、むしろ彼から離れた後に恐怖心が起こったと考えてよい裏付けとなるだろう。この、あとから起こる恐怖心が彼女を支配したのである。未知の現象は人間の心の

中に必ず恐怖と苦痛の感情をひき起こす。したがってローザ・ロッティの証言は重要な意味を帯びている。他のUFOコンタクト報告でも「訪問者たち」が目の中にいるあいだは心理的動揺は起こっていないことが明らかになっている。

彼女が語った「紡錘」型物体の描写についても、詳細な部分で若干の違いがあるので、ここでローザがブラトUFO研究グループのメンバーたちに実際語った言葉を引用してみたい。

「その「紡錘」型の物体のふくらんだ部分には二つの丸窓が両側についていて、その窓と窓の間には小さなドアがあり、内部を見ると子供用の小さなイスが背中合わせにおのおのその丸窓に向けてすえてありました」

更に彼女は、二人の小人の口の形についても当時新聞に報道されたのとはちがって、うわくちびるは実際はめくられておらず、ごく普通の形をしていたと述べている。また二人の小人は「とてもきれいにヒゲをそっていた」ともつけ加えている。この点は特に強調した。

ローザは例の奇妙な物体についての説明の中でも、その物体があたかもなめし皮でおおわれていたか、少なくともなめし皮に近い色をした金属であるようだったことは再確認しているが、

光ってはいなかったことを明らかにしている。また奇妙な物体の近くにあって木は「松の木」ではなくて「糸杉」であったことも訂正している（この糸杉は現在も現場近くにある）。

二人の小人を目撃した時間についても、前に述べた午前七時半ではなくて午前六時半であったことも明らかにした。さらに小人たちが彼女から奪ったものは「カーネーションの花全部と片方のストックキングで、そのうち返されたものは何一つなかった」と述べている。

彼女が当時のことをいろいろ思い出して詳細を明らかにした中で興味をひくものは、二人の小人が奇妙な物体の中から取り出した例の「包み」のことである。

年上と思われる小人が座席の下から取り出した物（一つだけであった）は小さなボール紙の包みに似ており、形は丸く色は茶かっ色であった。彼はそれを胸のあたりにまで持ち上げて彼女に向けた。ローザ・ロッティは相手が写真をとりたいと思っているのかしらと感じた。そのとき彼女は逃げ出したのである。約一〇〇メートル逃げてから後ろを振り向いたが、小人や奇妙な物体はまだ見えた。したがって「彼女が小人も物体も幽霊のように消えていたと述べた」というのはまがいである。

## 他にも目撃者たちがいる！

実はこのチェンニーナに出現した物体を目撃した人は他にもいるのだが、彼らのほとんど全員が「紡錘」型をした物体がチェンニーナの雑木林上空に降りてきたのはだいたい午前六時半だったと確認している。

当時二五歳で石工をしていたロムアルド・ベルティはアニャーノ修道院から帰ってくる途中、葉巻のような光るロケットが後尾から炎を發してチェンニーナの森から垂直に上昇し、ア・ルオティ修道院の方に向かって飛んで行ったと証言している。このロケットは最初垂直に上昇していたが、しばらくするとほぼ水平飛行に移ったというのだ。音は何も聞こえず、物体は青味がかった色をしていた。

新聞（ラ・ナツィオオーネ・イタリアーナ紙とイル・ジョルナルレ・デル・マッティーノ紙。両方共一九五四年一月二日付）は氏名を公表していないが、サン・レオーニのある労働者は当時アンブラ地域で狩りをしていたとき、まったく同じ時刻に同じ森へ、光る奇妙な物体が着陸するのを目撃したと述べている。

モンテヴァルキの養樹園主、アンドレア・リヴィは当時自分の車に花をいっぱい積んでレヴァーネからブチーネ

に通ずる道路を走行中、ブチーネ近くに巨大な「赤色をしたトウモロコシ型の物体」がフィレンツェ（フローレンス）の方から飛んできて、シエナの方へまっすぐ飛び去るのを目撃している。残念ながらその物体が丘の雑木林の背後へ飛んで行ったためすぐ見失ってしまった。したがってほんの数秒間しか見えなかったが、物体の大きさは約二メートルで、赤い尾を残しながら飛んでいたと言っている。

アンドレア・リヴィは、前述の石工ベルティとはまったく面識がないと憲兵隊に述べているところから、この二人が共謀して話をでっちあげたとは考えられない（一九五四年一月三日、五日付ジョルナルレ・デル・マッティーノ紙）。

## すばらしい証言が出た！

ところが、ジョルナルレ・デル・マッティーノ紙が一九五五年五月に行なった調査の結果、最も真実に近くな印象的な証言が出てきた。この証言は当時アンブラの小学生だった二人の学童が行なったものである。一人は当時六歳で名前はアムベリノ・トルツィーニといい、もう一人は当時九歳で彼の兄である。彼らは現在ジェノアに家族と住んでいる。

アムベリノ・トルツィーニが当時の

クラスの切抜き帳の中に目撃した事実を書きつけていたのだ。それによると彼と兄はその日の早朝自分たちの飼っている豚の世話をしに出たとき、一人の女性が男たちと話している光景と例の「紡錘」型をした物体を目撃した。しかしそれを何かの動物と見まちがえた」と述べている。兄の方はそれを見て驚き、父親に伝えるため一時その場を離れたが、父親を連れてもどって来たときには、金属製の乗物が残したと思われる穴が残っていただけであった。

フィレンツェの控訴院に勤めているルイーダ・ディニは、自分と娘がほぼ同時刻に、奇妙な物体がプラトヌーニョの上空からアレツツォの方向に向かって飛んで来て、徐々にスピードを落として下降していく様子をテラノヴァ・ブラッチョリーニにある自宅のテラスから目撃したと述べている。物体の速度は流星と同じ程度だったという。そして彼と娘は、その物体が奇妙な「きぬずれのような音」を発するのを聞いたらしい。

### UFOは同夜再度出現した？

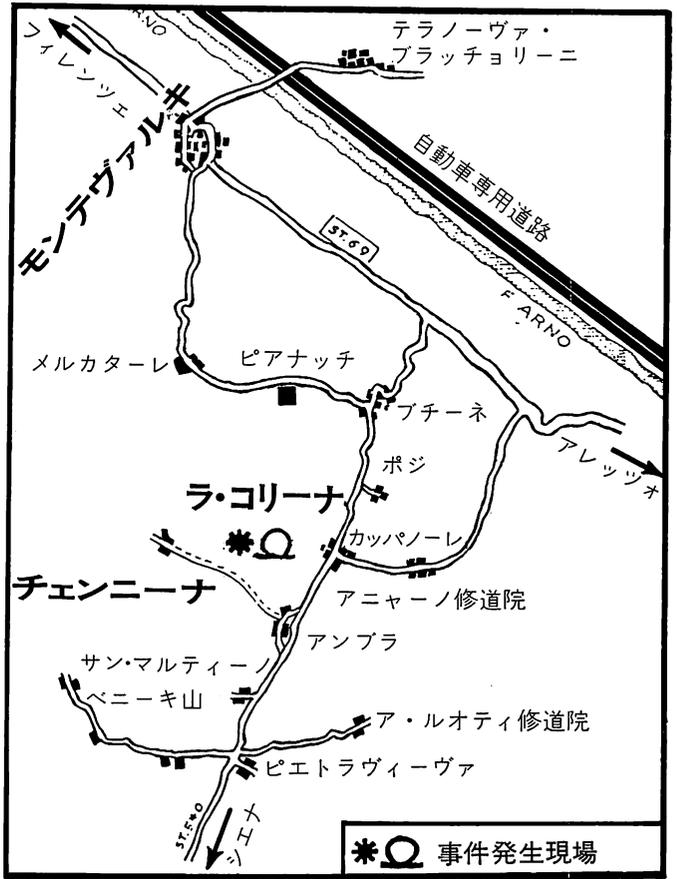
チェンニーナの目撃事件をまとめるにあたってここにもう一つ記録せねばならないことがある。

伝えられるところによれば、例の目撃事件が起こった一九五四年一月一

日の夜一時四五分頃、その日の早朝チェンニーナで目撃された物体と非常によく似た物体が、九人の人々によって同じ地域のそれぞれ三カ所の異なる場所から目撃されたというのだ。

二人の農夫、ジュリアーノとトスカ・コルセリ（現在はモンテバルキのトラヴェルサ・デイ・ヴィア・マルツィーア一番地に住んでいる）は、その夜、メルカターレ・ヴァルダルノ付近のピアナッチあたりから聞こえてきたアルセロ・ピストッチ・デイ・ジョヴァンニという名のオートバイ乗りの叫び声を目をさました。二人の農夫が窓に近づいて外をうかがおうとしたちょうどそのとき、約一・七メートルの長さで楕円形の物体が山の向こうに消え去るのを目撃したのである。それは赤色の光体であった。

ピストッチは運よく長時間その物体を目撃できたが、彼の話によると、その物体はかなりの低空を完全な水平飛行していたため、物体が発していた強烈な光で、目がくらんでしまったという。彼はその物体がまさに下降しようとしている印象を受けた。物体の発する光が余りに強烈だったので、彼の言



\*Q 事件発生現場

葉を借りれば「遠くからでも道路に落ちていた針を探し出せるほどの明るさだった」という。また奇妙なことにその光はあたり一帯をくまなく照らし続けた。光は物体の中央部にセットされたランプから発せられていた。コルセリの二人の農夫の話では、その物体の両側からも小さな光が発せられていたそうである。ピストッチは物体の光は色と強度の点で溶接の際の光と似ていたことを指摘している。つまり、目がくらむほど強烈で青白かったというわけだ。（これに関連して一九五〇年四

月二四日に起こったファツチーニ事件について思い起こしてみるのもいいだろう。）

目撃者たちは、物体が急に見えなくなったのは彼らが見失ったのか、あるいは物体が突然光を発するのをやめたためなのか、はっきりしないと述べている。もう一人の目撃者の話ではその物体の形は先端を切り取ったトウモロコシを基底部でつないだようなものであったとのことである。この目撃者の名前については新聞も伏せている。すべての目撃者が共通して述べてい

ることは、物体が上空を通過するときには何の音も聞こえなかったというところである。ピストッチはあまりに驚いたため、バイクから急いで降りようとした際、ズボン破いてしまったほどであった。彼は現在ブチーネに住んでいるが、われわれの受けた印象では、彼はとても真面目でしっかりした人物であった。しかし当時の模様を聞くためにあとでふたたび彼を訪れたときには、自分の身に起こった事を語りたがらなかった。

同じ時刻、つまり午後一時四十五分頃同じような現象を多くの人々がチェンニーナで目撃している。この中には機械工のジーノ・ピアニジトニ（ブチーネ在住）、不動産業者のレイジ・ビアンキ、またトーレの牧師、ドン・ネヴィオ・ロッシも含まれていた。これら三人の目撃者たちはみな一様に UFO が低空を強烈な明るい光を放ちながら飛んでゆくのを見たと言っている。

他にも目撃した人はいるが、名前は明らかにされていない。目撃者すべての話によれば、UFO は地上スレスレに飛んでおり、ときには空中に停止するのが見えたという。

更にピエトラヴィヴァで仕立屋をしているオットリーノ・サンタレリの証言もある。アンブラから約三キロ離れたバエセットに住んでいた彼は、問題

の夜、オテッロ・ブレリアシとアンジヨリーノ・プロジの二人の友人といっしょにいた。彼らがちょうどピエトラヴィヴァのレクレーション・クラブから出てきたとき、丸い空色をした物体がピエトラヴィヴァ付近の空中で突然停止し、彼らが立っていたところからサンタルチアの方へ飛んで行くのを目撃した。それからその物体は着陸でもするかの様に垂直に下降して行ったが近くの丘の中腹あたりで停止した。

三人の若者はもつとよく見ようと物体の近くへ走って行ったが、その丸い物体はふたたび上昇するとベニキ山の方へ飛び立った。しかしその後コースをもう一度変更し、カスチの方へ移動して行ったのである。その物体が飛び去るとき空色から赤色へと物体の色が変化した。もちろん何の音も聞こえなかった。その後の調査で、その仕立屋はとても落ち着いた人物で、すぐに暗示にかかるといふ人間ではなく、また完全な禁酒家でもあったので酒に酔ってでたらめを話したとは考えられないことがわかった。彼は現在ミラノに住んでいる。

## 注

①セルジオ・コンティ氏によって引用されたイタリア紙は次の通り。

La Nazione Italiana, Nov.2 and 5,

1954

La Nazione Sera, Nov.2, 1954

Il Giornal Mattino, Nov.2,3 and 5,

1954

Il Giorno del Mattino, March 2,1955

La Settimana Incom, June 17, 1962

(No.24, Year15)

イタリアの二つの UFO 研究グループがこの報告をまとめた。一つのグループは MUF (UFO セクション) で

正式なグループの名称は「The UFO

Section of the Florentine Humanistic

Cultural Movement」であり、チェンニ

ーナの目撃事件は第九二号にファイル

されている。もう一つのグループは

The Prato UFO Study Group」この

グループの若いメンバーはチェンニ

ーナ事件について精力的に新しい調査

を行ない、多くの価値ある確証資料を

手に入れている。たとえば、一九五四年

十一月一日の朝、二人の少年が豚の

世話をしに行ったときローザ・ロッテ

ィ夫人が小人たちと話しているのを目

撃した話などがある。

②ローザ・ロッティ夫人の比較は正し

い。これらはみな典型的な中国語の音

である。

③カラビニエリというのはイタリアの

憲兵隊のことである。

④必ずしもこの特徴を強調する必要は

ない。コンティ氏も言っているように

他のケースでも確認されている。われ

われが長く考えてきたことだが UFO

の乗員のなかには人間に対する強い催眠力を持つものがあるかもしれない。

⑤「二つの小さな小椅子」

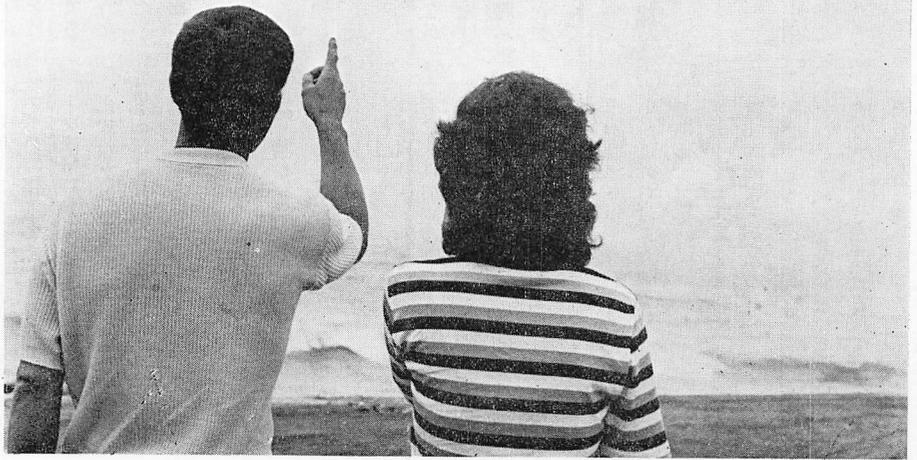
⑥他にも宇宙人が写真を撮ったように見えた事件の記録がいくつかある。

⑦ここでファッチーニ事件の概略を述べておく。

アッピアーテ・ゲアツツォーネ(ヴェアレーセ地方)の労働者であったブルーノ・ファツチーニは、一九五〇年四月二四日の夜、暴風雨のあとで家に帰る途中、夜一〇時ちょっと前、電柱の近くの地上の空間に黒く丸い大きな物体が停止しているのに出くわした。物体の下部にあるハッチが開いていてそこから光が出ていた。圧縮空気ジャッキのような物の上に人間とおぼしき生き物が立っていて、その物体の表面を溶接でもしているらしく火花が飛び散っていた。その生き物はヘルメットをかぶって体にはびたりしたユニフォームのようなものを着ていた。ファツチーニは近づいてその「溶接工」に向かって何か手助けできることはないかとたずねた。すると「喉頭音のような返事」が返ってきたので「瞬驚いてうしろに引きさがった。そのとき圧縮空気の噴射のようなものに打たれたが、そのあとすぐにハッチがしまり、その巨大な黒い物体が音もなく空中へ飛んでいくのを目撃したのである。

# 千葉県に出現した 大型円盤!

驚いた和泉沢初夫さん、その他数名の目撃者が  
確信をもって語るこの貴重な体験記録は  
本誌が現地で特別取材したものである。



巨大な円盤が千葉県の太東崎と鴨川  
付近に現われた。それを目撃したのは  
相当数あったようだが、だいたい十人  
が名乗りをあげている。  
そのうち一人は房日新聞にとりあげ  
られた和泉沢初夫氏(38) 千葉県安

房郡富浦町南無谷一二二である。同  
氏は館山市那古の石井運送KKでダン  
プカーを運転し、目撃した頃はダム工  
事の真っ最中であった。和泉さんの風  
貌は外で働く仕事のせいか、色は浅黒  
く引き締まった体つきをし中肉中背で

ある。氏は朝早くからダンプカーのハ  
ンドルをにぎる。そして一日の仕事が  
午後七時ごろには終わるが、家に帰る  
と大型の車を運転した神経の疲れと土  
砂と格闘する肉体の疲れが一度にどっ  
と出てくる。すぐフトンの中にもぐり

込むという。ときたまテレビ映画をみ  
るくらいでテレビもほとんど無縁だと  
いう。

和泉沢氏の性格には任侠的な一面が  
ある。そのエピソードをあげてみると  
——。ある知人がギャンブルに凝って  
家まで或るグループに持っていかれそ  
うになったというのを聞いた。家ま  
で持っていくとはとんでもない、と氏  
は「半分死んだ気になって」そのグル  
ープに掛け合いに行った。すったもん  
だの末「おまえの気っ風が気に入っ  
た」と言わせ、とにかく家を一軒持っ  
ていかれるのだけはかんべんしてもら  
ったという。「人のためになるのがお  
れの趣味でね」とは彼の口ぐせだ。二  
男一女のよきパパである。

またもう一人の目撃者は鴨川市江見  
にあるドライブインに勤めている辻田  
勝男氏(28)。二見ヒッピーのようだ  
が、長髪と顔中髭だらけの気さくな人  
柄でドライブイン「ポコ」のウェイタ  
ーである。

もう一人は、和泉沢氏が太東岬付近  
の仕事をしているとき宿にした家の娘  
さんで、M嬢。彼女もドライブインで  
働くお嬢さんで二四歳、結婚の話がも  
ちあがっているとのこと。

以上三人のそれぞれに目撃体験を話  
してもらおうと、詳細は次のとおりであ  
る。

# 円盤は海中から出た?



## ●和泉沢さんの目撃例

おれと、仕事上の宿にしている家の娘さん・M子さん(24)と二人で仕事が終わる、夕すずみに出ようかと車を駆って房総半島の太東崎に向けて車を走らせたんだ。この日は、月に一、二度しかないという空気がきれいに澄みきった夜で、月の皓々とした明るい日だった。星もはっきりと数えることができるほどだった。こういう日にはドライブに行きたくなるというもの。時間はたしか夜の十一時をすぎたころだろうか。太東崎の近く一〇〇メートルくらいのところさしかかっても、さして変わった様子は見受けられなかった。あたりは車のライトもいらなくらいだったから、何か異なるもの

が空にあっても、それははっきりとみきわめることができるくらいだった。前には松林があり、海の音が聞こえていた。

海から五〇メートルくらいのところへ来たとき、今まで何も見えなかった松林のところへ巨大なものが出ていた。まったくポカッと出てきたといったふうだった。興奮して体中があつくなってくる感じだった。運転していて足がガクガクして、うまく海岸まで出られたのが不思議なくらいだった。

物体は松の木の先にひっかかるのではないかと思うくらいの低いところにあった。物体の大きさは私にはとにかく大きく見えた。おそらく直径四〇メートルくらいあったと思う。もちろん、そのときは巨大だというだけで、直径はあとから冷静になったとき考えてみたら、というわけだ。

物体はいわゆる空飛ぶ円盤かどうかわからない、ただ今まで見たことのない物体がそこにあるという感じだけだった。止まっているくらいゆっくりゆっくり動いていた。

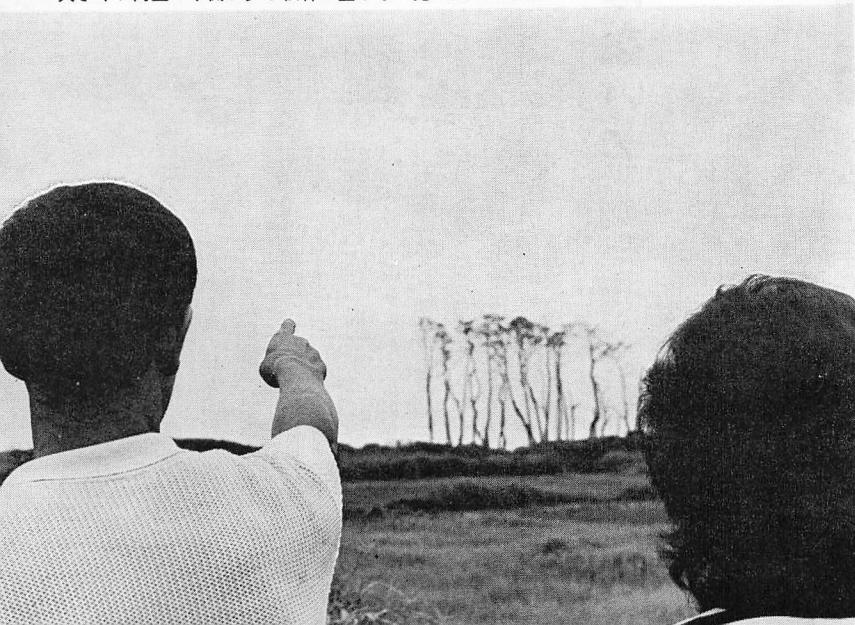
海へ出てみた。海の上空をゆっくり漂っていた。空中をその物体がおおっているのではないかと思うほどだっ

た。

物体は真っ黒とも灰色ともつかない色で皿みたいな形をし、楕円型で、少々傾いて大原の方へゆっくり進んでいた。目の前に大きなものがポカッと出てきたんだから、物体はおそらく海の中から出てきたのではないかと思っている。だいいちそれまで何もなかったし、急に目の前に現われてきたし、

もし空の向こうから飛んできたのなら、最初小さい豆つぶ大のものがだんだん大きくなってくるはずなのに、そういった感じは全然なかった。物体は全体が黒とも灰色ともつかないもので、ほかに窓や光らしいものは見えなかった。ただそういう色の金属製の物体が、排気ガスを出すでもなし、輪郭をくっきりとさせてゆっくり動いているだけだった。物体の中に人がいて自分たちが観察されているようなこともないようだった。ちょうど浮かんでいる、

●「あの松林のあたりに現われた」と指で差し示す和泉沢さん。円盤は松林の一群の幅よりやや大きく、円盤の下側が少し松林に重なって見えたという。



大きい重いものが浮かんでいるだけといった感じだけなのだ。いつか聞いたことのある円盤がこれなのかなあと、ただ見ているだけだった。相棒(連れの女性M子さん)はただ呆然としているばかり。

物体はそのあと大原の上までゆっくり進んで行った。車なら二〇分で行くところ三〇分かけて行ったので、速度

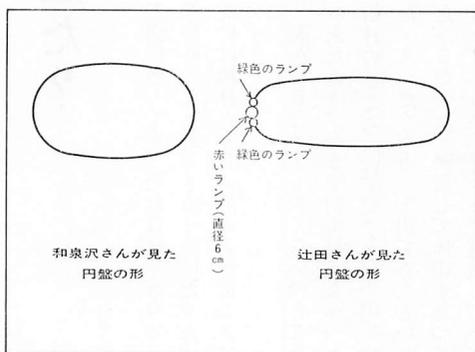
は時速三〇キロくらいのものかなあ。それから山手の富浦の方へ進んで行って見えなくなりました。その間お

よそ三〇ノ四〇分だった。おれは、それが消えて見えなくなるまでじっと目をこらしていた。

## 目撃者はテレパシーの能力をもつ？

おれは、それを見ているときこんなことを思った。どうしたわけかよく死人とぶつかるのだ。去年のことだったが、事業に失敗したあるおやじさんが女性をつれて消えてしまったのだ。人々は山の中へは行って心中したのではないかと捜したらしいのだが、見つからなかった。しかしおれにはピンときたんだ。二人は海の中で死んでいる。そこで村人とともに海の中へ捜索に出かけた。海中は濁っているのだ

ここにそれがあるのかよくわからない。おれのところへ来なければいいが、気が悪いから、と思っているやさき、目の前に二人がボワッと出てきたのだ。また、ハンドルをにぎっているといろんなことが頭の中に浮かんでくる。あの人は近いうちに死ぬな、と思うと、あとになって死んだという話を聞くのだ。もう一つはこれは私にとって身近な人だがいつか死ぬな、と思っ



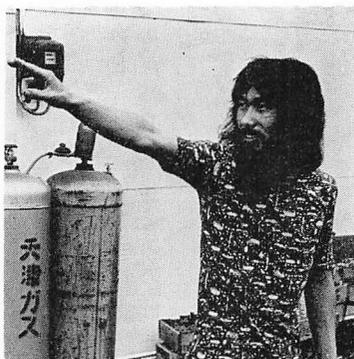
物体もそうした霊体の現われではないかと思っぴっくりしてしまったわけなのだ。こうしたテレパシーをよく感じるのはどうしたことなのだろうか。

物体を見たあと、オジが新聞記者をやっているのでもそこへ「変なものを見た」と連絡すると、房日新聞に載せてくれた。そんなことを人に言ったりすると、他人から「おまえアタマがおかしくなったんじゃないのか」と嘲笑されるのだ。おれは気が短いのでそんなやつをブンなぐってやるうかと思っただけでそこまではしなかった。すっかりしょげきってしまったなあ。でもおれ

## 飛行船ではない！

### ●辻田さんの目撃例

おれは、店の仕事が終わった頃だから午前〇時を過ぎていた時分、おそ



は負けんぞ。できるならこんどは円盤に乗って東京の下真ん中にとびこみ、そして悠々と降りてゆくのだ。そしてみんなに言ってやるんだ。「ほれ見てみる、これがおれの見た円盤だ。おれの言ったことに間違いはなかったらう」とね。

しかし、よかったなあ。今まで全然知らない人が、同じように円盤を見たということとをあとからだが、聞いたことだ。証人がいるのでこんどは人にバカにされることはないだろう。でも、こんどは円盤に乗って東京の下真ん中に降りてやりたい。

らく午前〇時二〇分頃だと思ふ。あんまり外が明るいものだから海へ出て一休みしようと思ふと、月が真ん丸でまねにみる美しい夜だった。月を見ていると左手から飛行船らしいものが見え、それが飛んで来るのを見つけた。飛んでいる様子はスローモーション映画でもみているようで、音もなく、また自動車やジェット機の出すような排気ガスもなかった。物体はそのままゆっくりと目の前を通りすぎ、山手の方へ進んで行った。距離はおそらく自分のいるところから六〇〇メートルくらいのところを飛び、近くで物体の長さを

計ったとしたら八〜九メートルくらいだったろうか。仰角四五度のところを飛行していて、物体の後方にこれもおそらく近くで計ったとしたら直径六センチくらいのおおきさの赤いランプがあり、それが点滅していた。そしてその両脇に緑色のランプらしいものが一つずつ付いていたが、それは点滅して

なかった。物体の色は草色の濃い色か、あるいは灰色じみた色をしていた。外が明るかったので色の区別もはっきりできた。ことわっておくけれど私は色盲でも近視でもない。

近い所を飛んでいるので目を皿のようであけて付属品がついていないか確かめてみても、飛行機の両翼にあるサーチライトみたいなものは付いていなかった。私は物体の側面をみたのだ

## こわくて、こわくて……

### ●M子さんの目撃例

和泉沢さんからドライブにさそわれたのでOKして、近くの太東崎へ向かいました。私は車の右前方の松林あたりに何か赤く点滅している光を見つけたので「あれは何？」と和泉沢さんに聞くと、和泉沢さんは急にびっくりして興奮気味になってしまいました。私はそれが何であるかはっきりしませんでした。何か黒いものが赤く点滅した

が、ほかには何も付いていなかったように思う。

あるいはこれが飛行船かと思うけれど、飛行船だったらそれらしい付属品が付いていて窓もある。また飛行船は夜飛んではならないという規則があるらしいので、どうも飛行船ではないようだ。

一五分間も私たちの目の前を通過したし、一度は円盤を見たかったのでも「これが円盤か」と目に焼きつけるように見つめたものだ。それは円盤にちがいない。もし人から聞かれても、円盤だと証明してやるつもりだ。同じドライブインで仕事をしている女性も見ているので確信をもって人に伝えることができる。いろいろきいてみると、○人は目撃しているようだ。

光を出して飛んでいるのがこわくてしよすがありませんでした。でも、少しずつ勇気を出して見ているとゆっくりと遠ざかってゆくのわかりました。和泉沢さんが「円盤だ！」というので、これが円盤なのかと見つめているばかりでした。別段危害を加えるようなことはありませんでした。

以上、三人の目撃者の話をまとめる



●太東崎から100メートル南下した地点、この海中の中程から現われたのではないかと和泉沢さんとM子さんは言う。

と次のことが言える。

まず、太東崎付近の海上に円盤が六日午後一時二〇分頃現われ、ついで時速三〇キロくらいのスピードで、地上あるいは海面上四二〜四三メートルの位置を水平に飛んでいた。飛行コースは太東崎付近の海上から大原へ進み、大原からほとんど直角に大多喜の山の方へ向かい、それからまた大原の方向へ引き返してふたたび海上まで進み、海岸沿いを鴨川まで移動し、そのあと辻田さんたちのいたドライブイン「ポコ」の海上からまた山間へ向かった。そのあとは不明。所要時間は和泉沢さんが発見したのが午後一時二〇分頃で、辻田さんが発見したのが午前〇時二〇分頃から一〇分間だから一時間一〇分ほどかかったわけである。

形状は平面的にみて円型であり、窓がなく、後方に赤いランプ状のものが点滅し、そのランプの両脇に一個ずつ

緑色のランプらしきものがある。真横からみるとある程度の厚味がある。

色は辻田さんの見ているように草色の濃い色であり、けっして輝いてはいなかった。和泉沢さんとM子さんは灰色がかつていたとみているが、それは光線と角度の関係でそう見えたらしい。また、フォース・フィールドのようなものはなかった。

大きさは和泉沢さんが四〇メートルくらいと言うが、のこりの二人はせいぜい一〇メートルほどだと主張し、一致しない。けれど和泉沢さんが四〇メートルに間違いはないと言うところからすると、大きさの判断はむづかしい。

ここで特に興味深く思われるのは海の中から円盤が出てきたのではないかとする和泉沢さんの推測である。円盤が現われる数分前（話によると三分くらい前）から現地付近に来ていてあたりに円盤らしい物体がなくなかったこと。そしてあたりは満月で晴れわたっていたため、異物が空中にあつたら即座に見分けることができた条件下にあったこと。それにM子さんと和泉沢さんが不意に巨大な物体を見つけたこと。円盤が現われたのは海の真上であること。これらが海中から現われるかもしれない幾分か条件を満足しているといえる。しかし海中から飛び出している現場を見ていたならと悔やまれるところだ。



●BBCテレビのインタビューを受けるオーマンド博士

F.W. ホリデイ

# ネス湖における 悪魔ばらいの儀式と UFOの着陸

## ●ネス湖の怪物は動物ではない？

悪魔ばらいの儀式でネス湖を清めようとはだれが思いついたことか、私はよく知らない。最初はオーマンド博士の著書(注1)を読み、ネス湖の怪物は動物ではないというその主張に注目した。この問題で何度か文通したあと私は、デヴォンにある彼の自宅で数日をすごした。その結果わかったことだが、彼はクレディトンの司教ら多数の教会指導層の見解を聞き、悪魔ばらいが必要だという意見に到達していたのである。私たちはその年も過ぎようとする頃ネス湖に集まる約束をした。

そうこうしているうちジョン・A・キールが、ネス湖に一機のUFOが着陸して乗員があらわれたという、あるスエーデンのUFO研究者の報告の話をしてくれた。私はすぐ気がついた。この着陸事件は、私の友人グレーム・スネーブラが湖上を低空飛行する光体を目撃して三日後に起きている。私はただちにそのスエーデン人やカンブレール島のミルポートで海洋生物学を専攻している大学院学生と連絡をとること

にした。彼はネス湖で潜水して不思議な発見をしたのである。私の著書の「竜と円盤」は出版されたばかりで、青銅時代の出土品とUFOとの間に未解決の類似点が存在することに世間の注意をうながそうとしていた。

見たところはまったく何の関係もなさそうないろいろの出来事がこの分野ではいかにビッターリと組み合うか、また私たちの反応はどうだったか、それを皆さんにお話ししたい。

## ●オーマンド博士の不思議な能力

オーマンド博士は、教区牧師は退職したが、祈祷師としては世界的に有名で、この年(一九七三年)もシリヤ、スコットランド、スピッツベルゲンと悪魔ばらいの祈祷にとびまわったし、サーカスの大テントのてっぺんなど、もともと危険な場所や野獣を清める能力では全欧州のサーカス関係者から特に高い評価を受けている。

一九七三年六月二日、オーマンド博

士と私はネス湖でいっしょになった。数週間前テレビに出たときうつかり口をすべらせたおかげで、テレビ局からの撮影隊が儀式の取材に来ることはまづ間違いなかった。だが彼らには同じことをもう一度やって見せれば満足してもらえらるだろう。本当の儀式は内密で、それまでできるだけ早くすませることが必要だ。私たちはその晩に決行したのである。

私たちは二台の車に分乗して出発した。私は現役砲兵士官のA・アータス大尉の車に同乗して、悪魔ばらいの儀式のためネス湖周辺に前もって選んでおいた四つの地点に皆を案内した。一同はまずロッドホエンドの水辺に車を止め、お守りの儀式を行なった。これは、短い礼拝のあと参加者全員の額に聖水を十字形にそそぎかける。このことは、あとで起こった事件を思い合わせると、きわめて重要な意味を持つように思われた。

オーマンド博士の祈禱の一部は次のとおりである。

「なんじの小さな僕に託された力により、この湖と周囲の土地が、あらゆる悪霊、あらゆる妄想、亡霊、また魔性のもの、のたくらみから解放されますよう。おお主よ、これらの悪しきもの、人をもケモノをも傷つけることなく、与えられた場所に永久に静まるよう、お力をお貸しください」

一行はつづいてインヴァーネスを経て東南の岸に行き、それからフォート・オーガスタスへ、最後にアークハート・キャッスルへと移動し、各地点で悪魔ばらいの儀式をとり行なった。最後の祈禱はネス湖の中央部に出て行なう必要があり、そのため私は適当なポイントを手配しておいた。

ネス湖をめぐる六〇マイルのこの行程と度重なる儀式を通じて私は、ある種の緊張が心の中に高まるのを感じていた。これは私たちが最後の祈禱のため水深二二〇メートルの湖上に浮かんだとき最高に達した。その祈禱は次のとおりである。

「年経たる蛇よ、生者と死者の裁き主により、なんじと世界を造りたもうた主により、いまなんじに求める。もはや前世の怪獣の姿を借りて人の子に悲しみをもたらすことなかれ」

怪獣——か、もっとすごいものがポートの下に姿をあらわしはしないか、と心ひそかに期待していたが、オーマンド博士が失神しそうになったのは何ごとも起こらなかった。博士の話では、悪魔ばらいがうまくいったときは必ず失神しそうになるのだそうである。一行は日曜は休養して、月曜はテレビ撮影隊のため、儀式を再演した。その日おそく起こった奇妙な事件の巻き添えをくって、一行の二人がようやく溺死しそうになった。火曜の晩

にもすごい事件が起こったが、それをお話する前に、まずUFO着陸について述べておきたい。

### ●●空中のUFO

私がかつて書いた「ネス湖の怪物とUFO」(本誌第二号に掲載)中で私は、グレアム・スノーブが夜間に降下してきた光体を目撃した話を紹介した。着陸したといううわさもあるし、もっと詳しい話を聞かせてくれと彼に頼んだところ、彼は次のように話してくれた。

「その物体は、夜空を左から右へ、背景の山々とほぼ同じ高度を飛行して行

った。非常な高速で水平に動いたが音はちっとも立てなかった。こまかい凹凸はあったがだいたい円形で、特に色が印象的だった。中心部は白色で、その周囲に紫色の輪が見えた。大きさは観測者と物体との距離によるからよくわからないけれども、湖の真上を飛んだとすれば、中心部の直径は一・五メートルから三メートルくらいだろうと思う」

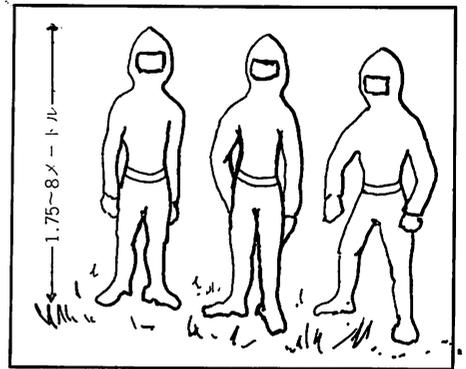
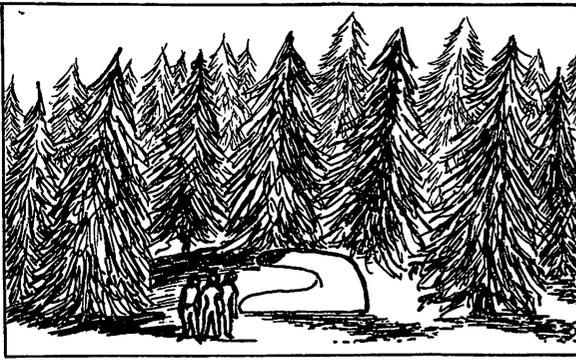
彼が目撃した物体は一機だけだったという。一九七一年八月十三日のことである。

●平服のままひそかに行なわれたオーマンド博士の祈禱。左はアータス大尉。



●●● UFO が着陸し、乗員が現われた!

それから三日後、ジャン・オーヴ・サンドバークがネス湖のフォイヤーズ湾を見おろす森林を通り抜けようとしていた。これは発電所建設現場への近道である。時間は午前八時半から九時半の間だった。突然奇妙な物体が七〇メートルほど離れた空地に着陸しているのが見えた。一〇メートルもある灰色の葉巻形をしていたが、一端にはまがった部分があり、横から見ると取手のついた巨大なアイロンのようにも感

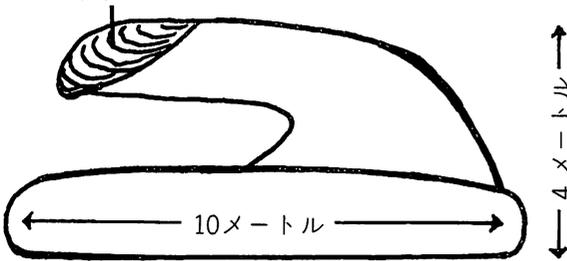


じられた。近くの茂みの中から三人の人影があらわれて、話でもしているかのように一団となって立っていた。頭から爪先まで灰色の潜水服のような衣服におおわれていた。サンドバーク氏は最初フォイヤーズ計画に参加している潜水夫たちだろうと思っただけである。身長は一・七五——一・八メートルくらいだった。やがて彼らは動きはじめ、UFOのまがった部分の上部にあるドアから内部に消えた。全員が乗りおわると物体は音もなく垂直に上昇し、一五メートルか二〇メートルの高度に達すると、高速で水平に飛び去った。山を越えるとモール湖の方へ降りてゆくように思われた。

サンドバーク氏はそのとき、約二〇枚の未露出フィルムのはいたカメラを首にかけていたので、この機会に一

枚残さず写してしまえばよかったのだが、一種の麻痺状態にあつたらしい。それでも、最後の乗員が船内にはいるとき、やっとカメラを持ちあげて、一枚だけシャッターを切った。この写真はゴーゼンバークのUFO研究グループに送られたが、彼らはこれを「正体不明」だと返送してきた。彼はその後この写真をローレンセン一家に送り、今ではジェームズ・ハーダー博士がこれを保管している。

シャッター



●好評発売中! なぜ空飛ぶ円盤は来るのか

フレッド・ステックリング/久保田八郎訳  
¥550 円80

●テレパシー ●生命の科学  
ジョージ・アダムスキー/久保田八郎訳  
¥350 円80 ¥480 円80

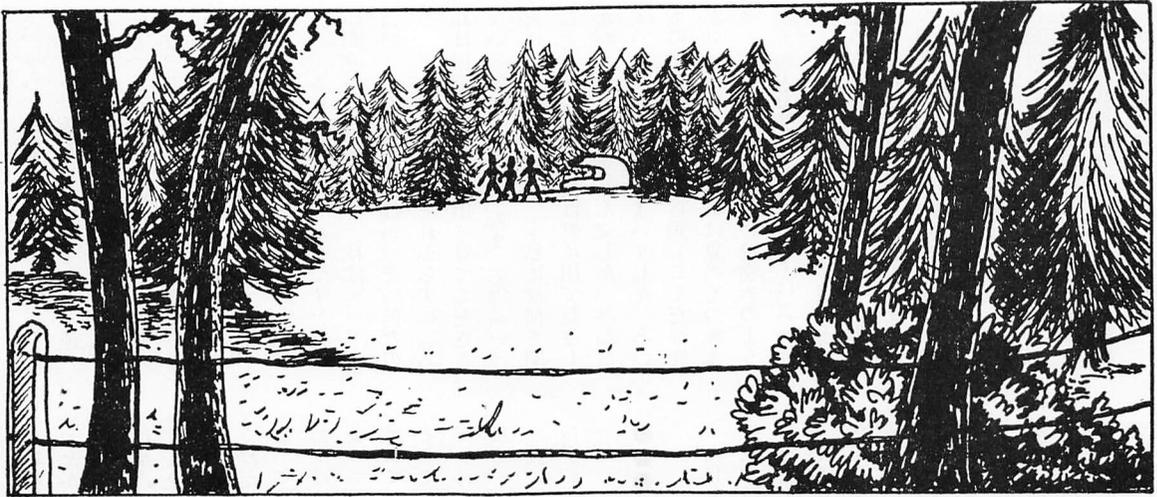
文久書林  
東京都文京区白山1-29-12  
振替・東京2521 Tel. (813) 2495

◎円盤飛来の真相と人間の真の生き方を示す名著3点。

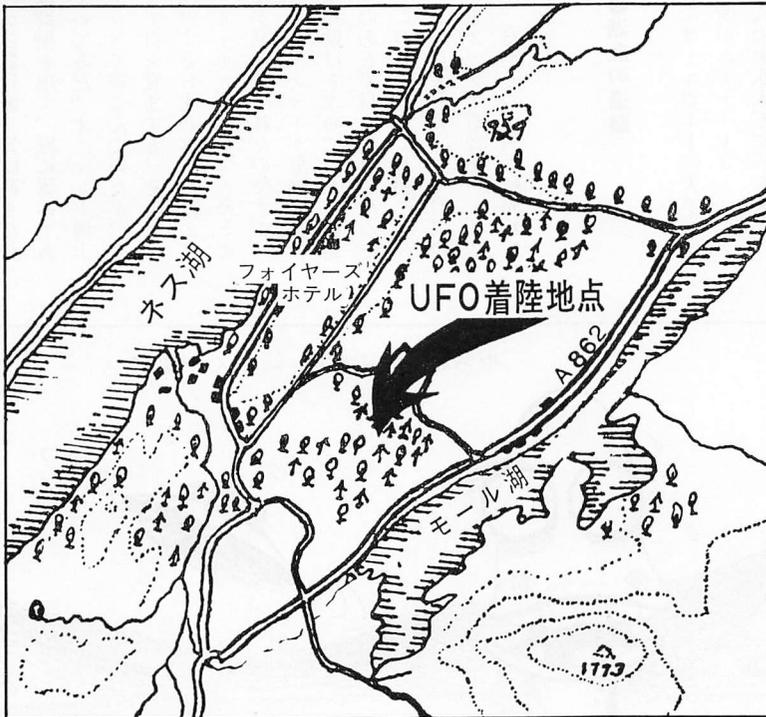
画をオーマンド博士に打明けると、博士は、自分もサリスベリー・ブレン付近で一機のUFOを目撃したことがあるがどうも見た感じが気に入らなかったという理由で、この計画に反対した。だが私には納得できなかつたので、ケリー空軍中佐夫妻に相談することにして、サンドバークとのいきさつもすべて彼らの判断の材料に提供した。これは六月五日午後九時三〇分頃のことであるが、その後起こったことはもっと詳しくお話しする必要がある。

●●● 不思議な現象が発生

ケリー夫人は、前庭を見おろす窓に背をむけてすわり、私が窓の方を向い



●目撃者が立っていた場所から見た光景のスケッチ。



ていた。中佐は私の右側のどこかに立っていたと思う。その晩、空は雲におおわれて、部屋の中は暗かった。

ケリー夫人は、人間が連れ去られた話を読んだこともあるし、バカらしいかもしれないが自分なら行かないと主張して、私がUFO着陸地点を訪れることに反対した。そこで私も、オーマンド博士の意見もあるし、とうとう行かないことにきめた。ちょうどその瞬間だった。窓の外で激しい音がして、渦巻く黒煙のようなものがあらわれた。壁やドアは何度もドシン、ドシンとゆれ、部屋の隅が崩れ落ちるのではないかと思われた。庭

のバラの木が地面から抜け出そうともがいているように見える。最初の恐怖が過ぎ去ると私も落ち着きを取りもどした。ケリー夫人も震えあがっていたけれども、わずかに数メートルのところにいた中佐は何ひとつ見も聞きもしなかったという。

翌朝私は夫人に、体験したことをありのまま話してくれるように頼んだ。「私たちは居間におりました。私は窓を背に、テッド・ホリデイはソファにすわって私の方を向いていました。夫は私の左側の食器棚のそばに立っていました。皆で空飛ぶ円盤か何かの話をしていたと思います。その前にテッドが、谷の向こうに円盤が一機着陸したこと、写真を写しにそこへ行きたいことなど話したことがあり、それに対して私は、宇宙に連れ去られた人もあるというのだし、自分ならそんな場所へは絶対行かないと答えました。その問題をむしかえしているところでした。」

「ちょうどそのとき、窓のすぐ外でものすごい音が聞きました。そして、何物かが玄関のドアに体ごとぶっつけてくるような物音が三度響きわたりました。ふりかえると窓のそばに何かがあるような気がしましたが、それが何だったかよく見えませんでした。テッドの方を見ると、私の左側にある窓から一条の白色の光線が差しこんでき

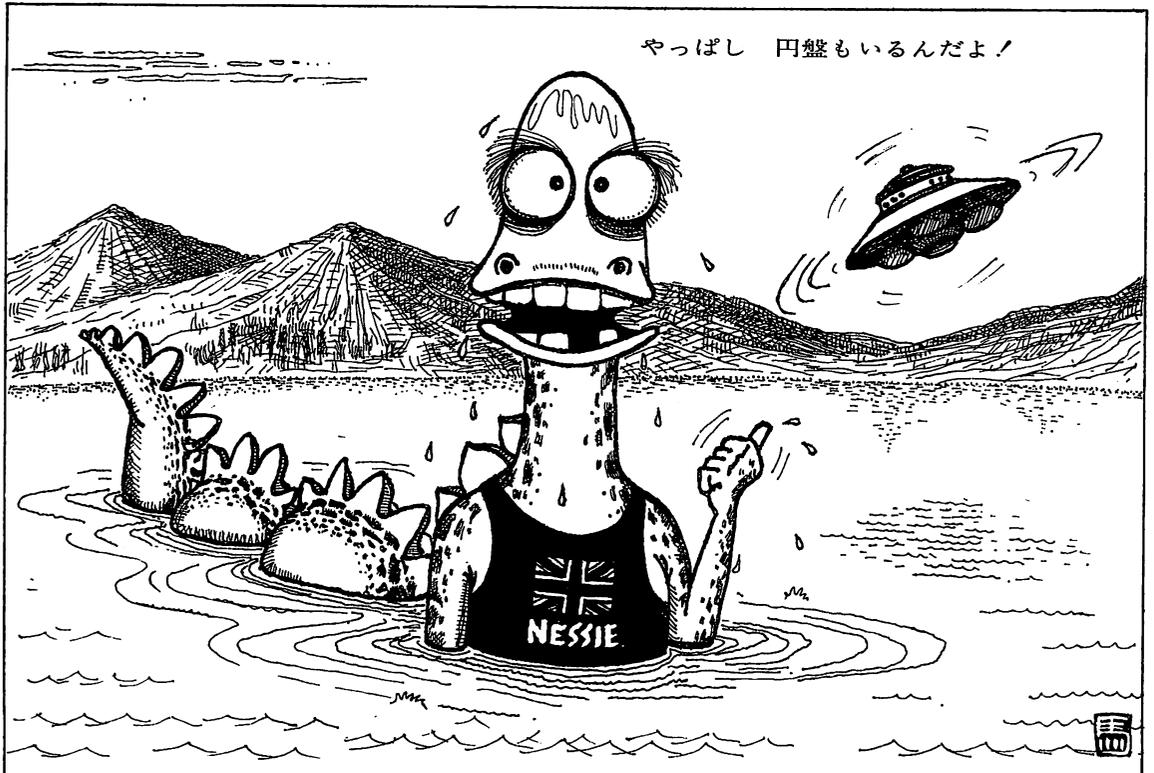
て、テッドの顔を白く円形に照らし出しました。電灯の色とはまったく違った白色で、円形の直径は七、八センチほどでした。これは建物に雷が落ちたので、雷光が窓からはいつてきたのだと私は考えました。でも光の色がなぜ白いかはよくわかりませんでした。丸い光はほんの一秒ほどで消えました。でも私は確かに見たのです。絶対に間違いはありません。私はテッドに言いました。『あれはいつたい何なの？ どうしたの？』それから夫に『あれは何でしょう？ 出て見てくださらない？』でも夫は答えました。『いつたい、何の話かね？——私には何も聞こえなかったが』彼は外に出て見ましたが、何もありませんでした。みんなすっかりおびえてしまいました。あのものすごい音と窓から差しこんだ怪光がいつたい何か、私には見当もつきません。窓の外に何か黒い渦巻きのようなものが見えた、とテッドは言います。そういえば私も何かチラリと見たような気がします。私がハッキリ覚えているのは、部屋に差しこんでテッドの顔を円形に照らし出した白色の光線だけです（注2）

白かったかどうかはとにかく、私は窓からの光線など全然見えなかったのである。だが、ケリー夫人が円形の光を見た場所は、儀式のさい聖水がそそがれた場所にほかならないのだ。

この事件から数分後、気は進まなかつたが私は部屋を出て、庭に置いてある車をのぞいてみた。オーマンド博士は車内でグッスリ寝こんでいたが、やつのことでも目を覚ますと、そのような出来事に対するおまじないを教えてくれた。ケリー夫人は語る。「あとになって博士が話してくれたのですが、博士はそのとき、テッドが危険な目に会って博士の助けを求めている夢を見ていて、そのあとで目を覚ましたのだからです。このことはあくる朝になってから教えてくれました」。その次の夜も、ドアをノックする音がハッキリと聞こえた。だがその原因は結局わからずじまいだった。

●●●●●湖底の遺跡

六月九日にはミルポートの大学海洋生物学研究所からステイブ・ゴザラとその友人の潜水夫がやって来て、また不思議な話を聞かせてくれた。復活祭の土曜日にネス湖のオルドゥリー棧橋付近で潜水中、水深六〇一〇メートルの湖底の軟泥の上に、直径六メートル、高さ約一メートルもある硬い砂と石の円丘を六個以上も発見したのである。円丘から少し岸寄りには、二列の石壁が約二メートルの間隔で二メートルにもわたって湖岸と平行に立っていた。またそのそばには、水かきの



### 日本超科学会雑誌

# 超科学

創刊号「スプーン曲げ特集」 送料共500円

遂に日本にも学会誕生!

各権威執筆＝関 英男・政木和三・内田秀男・市村俊彦  
橋本 健

今なら入会金1000円、年会費3000円で  
誰でも入会できます。

● 会員は下記の品 1 割引 /

#### 超心理学実験用機械器具

- 四次元波受信機(4Dメーター) サボテンの歌が聞け、ウソ  
定価39,000円 送料1,000円 発見機としても使用できます。
- 超心理学実験機(念力測定器・サイメーター)  
定価15,000円 送料1,000円 (小型)9,500円 送料500円
- ESPカード 定価500円 送料55円
- 魔法の振子 定価400円 送料55円

〒248 鎌倉市小町1-15-17 TEL 0476(25)3035  
(橋本電子研究所 所長・橋本 健)

## 日本超科学会

ついた足のあとが二個、湖底にハッキリ残っていた。サンドバーグ氏の描いた怪人のスケッチから推察すると、彼らの足には実際に水かきがあるように思われるのである(注3)。

●●●●● 心でつくり出す例が多い?

何だか奇怪なことになってきたようだ。これはたぶん、湖底に沈下した青銅時代の墓地や、怪物の出現、それにUFOが着陸したことを示すものではないだろうか。自称物知りたちもたぶんこんなことは聞いたこともなからう。だが、ブライアン・フォード(注4)

によれば、目に見える像はその物体から反射した光線によって生じるが、一方では『かなりの数の、見かけは理性的な人々が、論理的には見るはずのない物体を実際に見たと夢中になって信じているものだ』という。アーサー・ケストラーも言っているように、『自説に忠実な科学者の暴虐ぶりはヘロデ王よりもはなはだしいが、それは自分の主義に忠実な政治家も同じことである』(注5)

ネス湖での私たちの体験は、私たちの心の心の迷いだった、としてよろう。しかし、そのような性質の心の迷いは、古代人の間でもよく知られたことなのである。

西暦四百年代のシナイの僧聖ニルスは見習い僧たちに次のように書き送っている。

「誓いを立てて教団にはいった以上、夜な夜なさわがしく庵をおそう悪霊の化身や脅迫を、部屋の震動を、怪しい声を、雷光を、ラクダや竜や異形の者の襲撃を、また敵がおまえたちをおびやかそうとして試みる気違いじみた笑いや踊りを決しておそれてはいけません」(注6)

脅迫や部屋の震動、雷光や竜については直接に経験した。これらの体験のうち、ある部分は心霊的なもので限られた人たちしか近づけないもののように見えるが、またある部分は相当具体的で、科学的研究の対象ともなりうるものである。だがそれは今までも無数のUFO研究者が失望を味わってきたように、決して容易なことではない。私たちの体験いっさいについては、かなり評価も定まってきたようだ。E・A・I・マッケイはこれを、チャールズ・フォートの書いた『我々は小道具だ』にもとづいて『ヴァレール・キール』クレイトン論争』と名づけたが、もしそうであれば「だれの小道具か?」とたずねてみるのはこの場合適切なことだろう。選択の自由というものは何かの形で常に存在する、と宗教家や神秘主義者は主張しているが、これもまた事実であるなら、ネス湖での悪魔ば

らいの儀式こそこの選択の自由が肯定された象徴ともいうべきものであり、前述の異常現象を誘発したほど効果的なものであったといつてよいだろう。

注1 「現代の祈禱師の体験」一九七〇年のロンドン、キンバリー社版

注2 ケリー夫人はすぐれた超能力者である。気晴しにその日の競馬の勝馬の予想をすることもあって、その確度は今年のダービーの一着、二着、四着を言い当てたほどだったが、彼女自身は競馬はやらないし、その予想を他人に利用させることもしない。

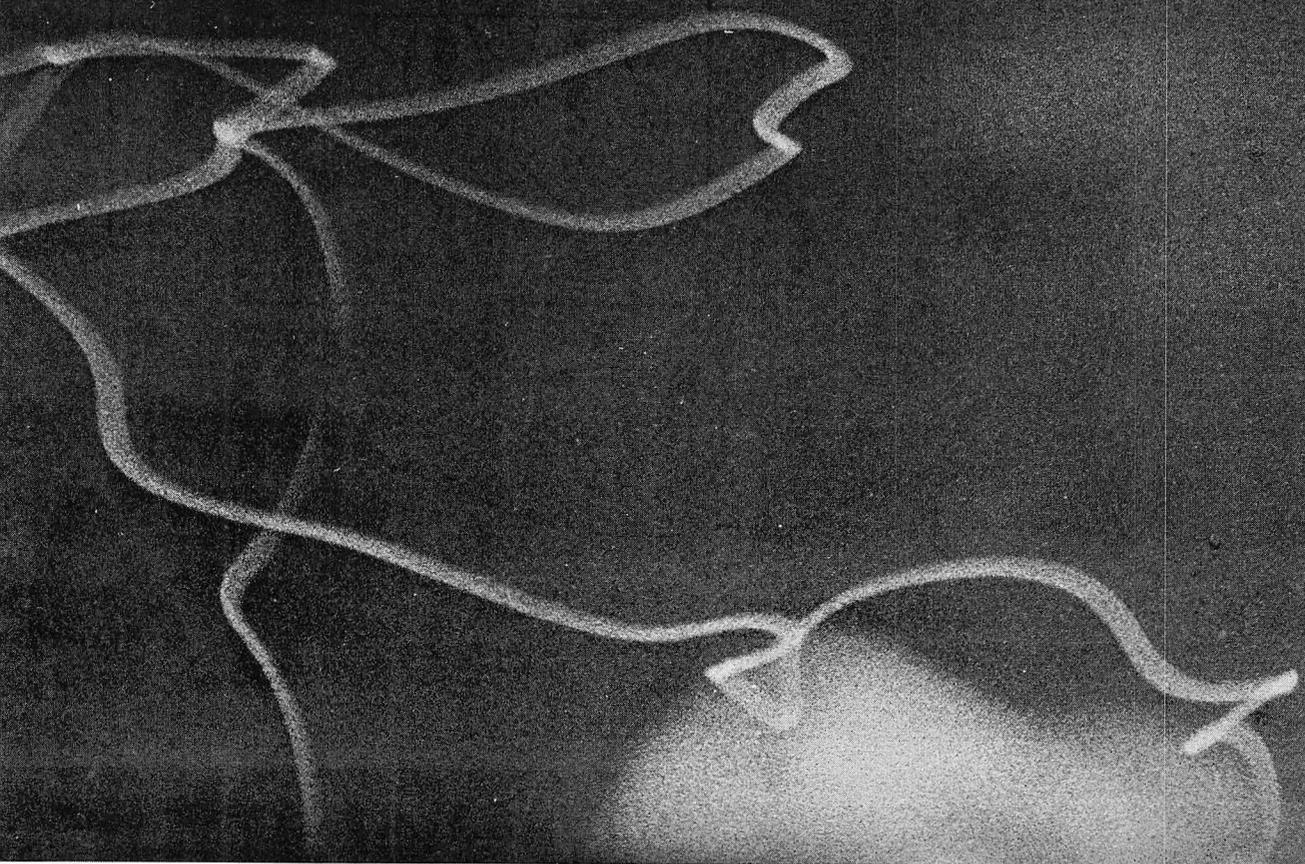
注3 潜水夫たちがあやまって足跡をつけたのではないかと言いだす者もあったが、これは潜水夫たちから、そんなことは無理だと否定された。足跡をつけようと何度もやってみたがうまくいかなかったという。

注4 「地球を見守る者」(一九七三年、ロンドン、フレウイン社刊)の著者。

注5 「助産婦トードの事件」一九七一年ロンドン、ハッチンソン社版

注6 ハインツ・スクロプカ著「シナイ」一九六六年オックスフォード大学出版部刊

# ング・ライツ?!



私はUFOらしきものを写した

埼玉県熊谷市 蓮沼正彦 (15歳・高一)

日時は今年四月二七日午後七時前後、薄明るかった。場所は自宅の庭で、オリオン座を写したが写っていない。明るかったせいか、高度が低くて大気の影響で星の光りがよわかったのかは知らない。しかしそのかわりに写しだされたのがUFOであった。

使った器具は、望遠鏡が高橋TS式一〇〇mm反赤1型(ビラー脚)と、カメラ。これは古いもので、それほどよくはない。しかし星が写せたから使っていた。それにフィルムはネオパンSSSである。

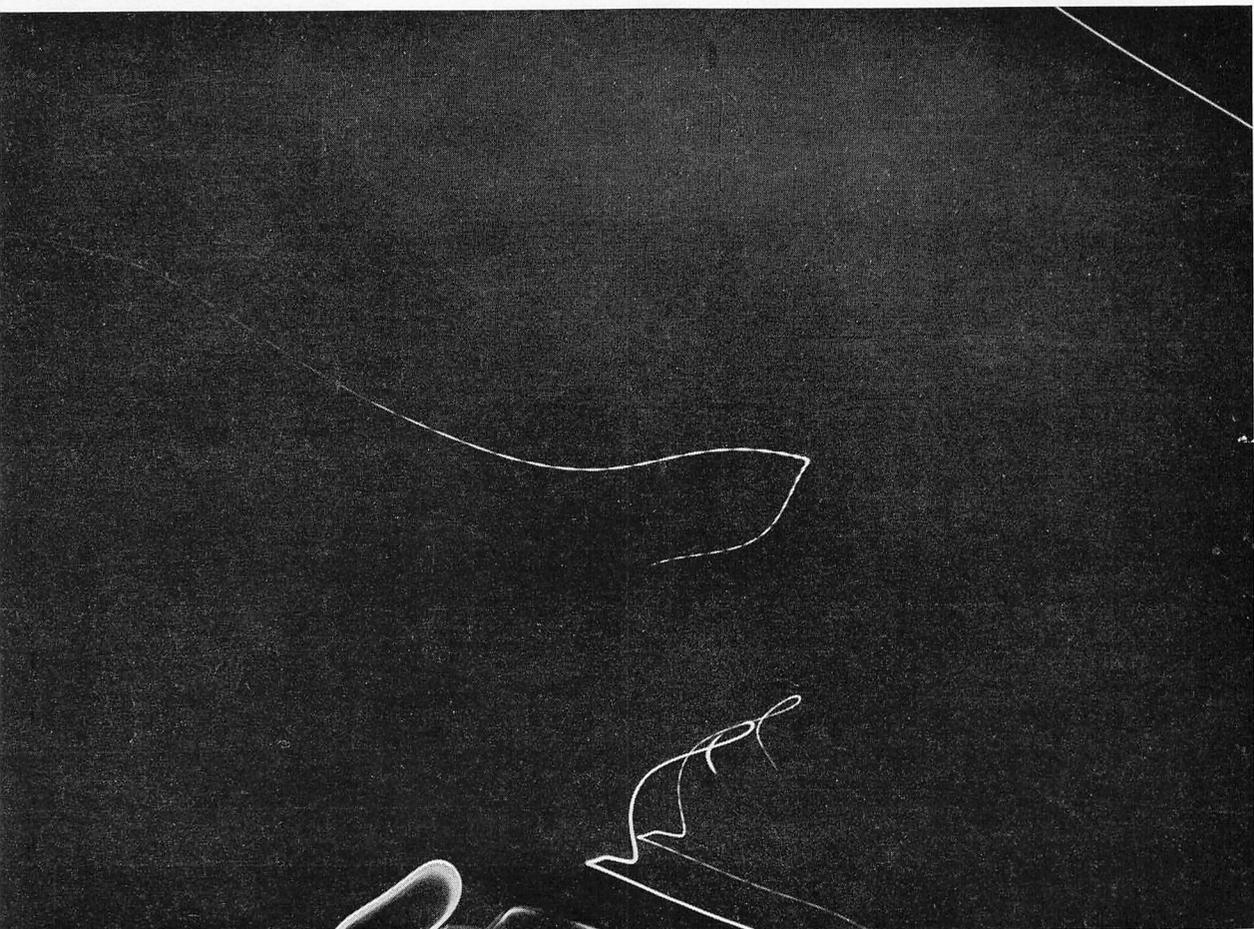
写した方法はコリメート方式で、これを説明すると、まず望遠鏡のアイピースの所へある器具を使いカメラを近づけて写す方法である。

残念ながらUFOを目撃はできなかった。しかしこの光跡が外灯や車のヘッドライトによるものではないと確信できる。なぜかという点、このUFOらしきものが写っていたネガはフィルムの終わりのほうで、このフィルムを写し終えるまで望遠鏡に取り付けたままだった。とくにこの望遠鏡の三脚部はビラー脚で、めったなことではこうはブレないということが一つ。天体写真を撮っていたので、焦点距離は $\infty$ 。それに望遠鏡を通して写したのに、これだけの大きさである。また写していた最中、飛行機は飛ばなかった、などが裏付けである。露出は12分。

# またもライティ

## ●福島県のライティング・ライツ

●1974年1月9日午後11時42分、福島県浪江町の高校生・大波政幸君（17歳）が自宅の庭でU F Oを目撃、連続6枚撮影したうちの1枚がこの光跡写真。そばに銀行員の古川純憲氏（19歳）がいたので、作りものでないことが証明できるという。同君はこれまでに10数回円盤を目撃し、家族の人も見ているという。（ミノルタA L - 2・ロッコール45mm・絞りF5.6・露出8秒・フジフィルム）



### —ライティング・ライツ2点の意味するもの—

左右2点の写真はいずれも高校生が撮影した奇妙な光跡写真。蓮沼君はネガ、写真と共に手記を寄せたので、ついでに掲載した。大波君は連続6枚の写真とネガと共に提供。本誌はたびたび電話連絡によって真偽性を確かめた。蓮沼君にも電話で連絡、詳細を再度確認した。いずれの回答も確信に満ちたもので、作為的な写真ではないと断言している。あらゆるU F O写真を真実であると断定して盲信するのが危険であると同様、すべてをインチキと速断して否定することも間違いであろう。この種の写真の鑑定にはしばしば非常に困難が伴うが、感情的態度を避けて、なるべく冷静かつ客観的に吟味することが肝要である。



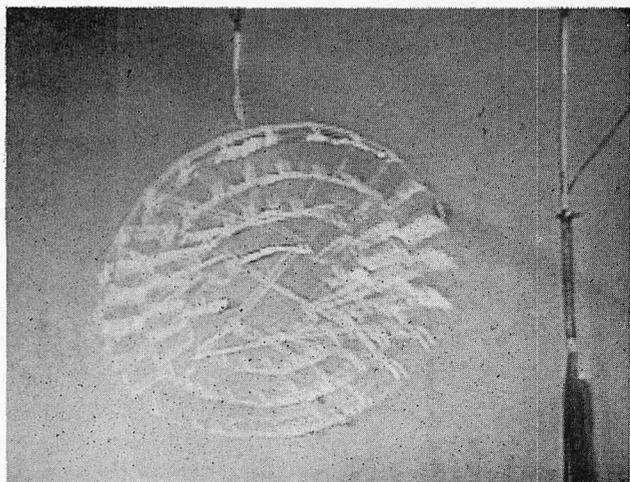
# 天体オーラと宇宙電界の謎

●〈天空と大地〉科学シリーズ(6)

万物が放射するオーラと宇宙電界の  
神秘的現象を科学的に究明する——

内田ラジオコーポレーション  
技術研究所所長

内田秀男



## 1. この世の不思議、 オーラの世界！

この世にはまったく不思議なことがあるものです。もし、あなたが何万人に一人といった稀に存在するオーラ透視能力者にめぐり会うなら、きっとそこに異常な体験をして驚くでしょう。そしていくらかでも科学的知識をもっているなら、その異常さを理解するため、知恵をめぐらすのに時間がかかり、また、いま一人別の同様な超能力者にめぐり会い、異常さの事実を確かめたくなるでしょう。

透視能力者の目、それは普通の凡人の肉眼、つまり可視光線帯の映像によるこの世の森羅万象の姿を見る状態とはまったく異なる別の世界が見える特性があると推定されるのです。

この推定の結論を得るまでには幾人もの超能力者にめぐり会い、科学的な実験実測に長い時間を要したのです。というのは、私の目にはオーラ透視能力者のような特性がないからです。

さて、超能力者に見えるこの世の姿とはどんなものか。それは、凡人の肉眼では何も見えない空間には、オーラという肉眼では見えない光線がいっぱい充滿しているのが見えるということです。そして肉眼で見える森羅万象のなか、形あるものすべてが、あたかも透明なプラスチック細工かガラス細工のように素通しで向こうまで透視できるということです。それは、肉眼のまぶたを閉じても同じようにすべてがオーラの躍

動する輝きの姿で見えるということです。

そのようなことは信じられないという人もあるでしょうが、たとえば電球や真空管、ブラウン管に使われている鉛ガラスの破片を、X線で透視する状態を考えれば理解できるでしょう。

肉眼で見える限り、鉛ガラスの破片は透明であっても、X線で透視すると、蛍光板にはX線を通さない黒い影として見えるのです。

また、人体の内部は肉眼では見えないが、X線で透視すると内部が蛍光板に映って見えるのです。

このように人間の肉眼は、一般に可視光線帯の範囲で、すべての森羅万象を見ているのであって、可視光線帯以外の状態がそこにあっても肉眼では直接見ることができないのです。

## 写真1

●写真に写った人体オーラ



たとえば、写真1にある右端の人物の頭の付近を目を細めてよく見ると、円形の透明な帽子をかぶったような状態が写っているのが見えるでしょう。

これは、撮影のとき肉眼には何も見えなかったのですが、写真を現像してはじめてわかった人体オーラの実例です。

写真のフィルムは肉眼で見える可視光線帯にほぼ感光するようにできていますが、肉眼よりも感光波長範囲が広い特性があるので、肉眼には見えないオーラであっても、フィルムの感光波長範囲内にある波長のオーラの場合には感光現象を起こすために、フィルムに写しだされるというわけです。

したがって、肉眼で見える森羅万象の状態を基準にして事物現象の判断をする限り、そこには不思議な奇跡が起こり、怪奇現象が起こるのは当然あり得るのです。

## 2. 実験でわかった仏像光背の謎

では、この写真の例のような人体オーラは特定の人だけにしかないのかという疑問が湧くでしょう。ところが、この人体オーラはオーラ透視能力者の語るところによればすべての人にあり、また後述する試作したオーラメータにより約三六〇〇名の人の人体オーラを実測させていたのだという結果、すべての人に人体オーラがあることがわかったのです。

### 写真2

●試作したオーラメータ

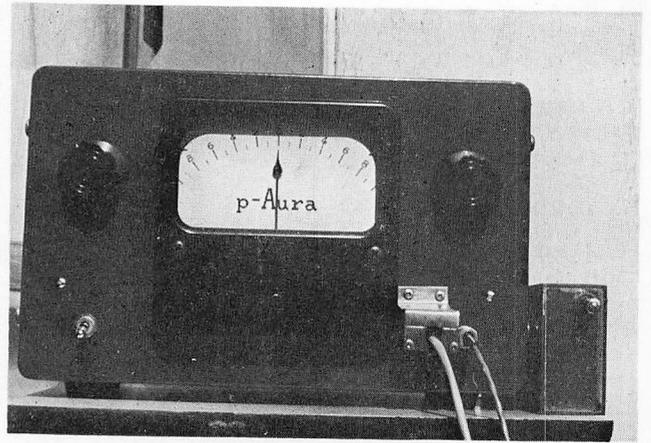
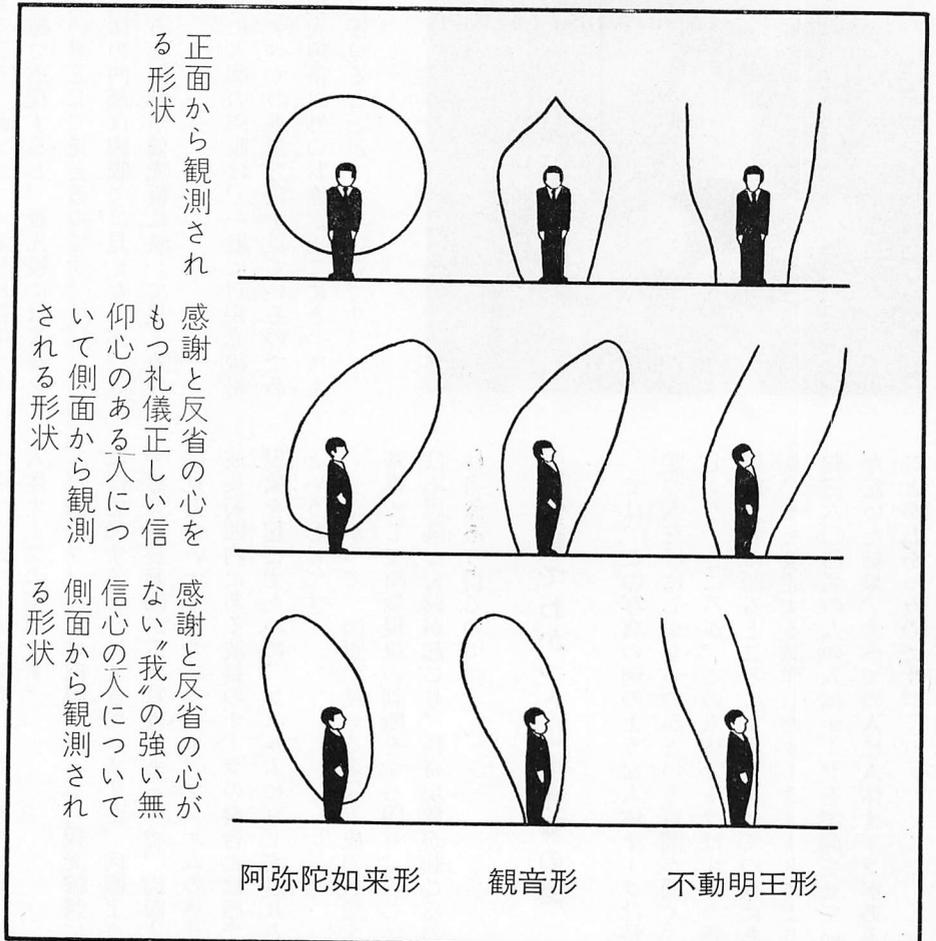


写真2は、昭和四七年一月、日本テレビ放送網の「11PM」の番組で公開したオーラメータで、測定原理は、人体の周囲に放射している極微弱な電磁波のエネルギーをブロープの先端にある小さなアンテナチップで受信してメータの針を振らせるものです。

昭和四八年一月、東京銀座の松坂屋デパートで読売新聞社主催で開催された「四次元の神秘を探る不思議な世界展」を振り出しに、大阪、広島、岡山、熊谷、町田などの各地の百貨店の展示会場で、希望者約三六〇〇名の人体オーラを、このオーラメータで実測させていただいた

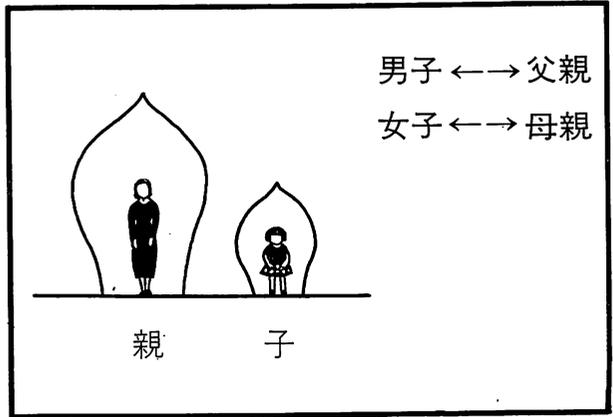
## 第1図 オーラメータで観測される人体オーラの基本的な形状例



結果、人体オーラには、第1図の例のような基本的な形状があることがわかったのです。そしてこの人体オーラの形状は、第2図の例のように、男子は父親、女子は母親に相似した形状の人体オーラを放射していることがわかつたのです。

人体オーラの形状寸法の概略平均値は、第3図に示すようなもので、実験によれば、健康状態がよくて気分爽快の日は、オーラ放射の寸法が大きく、疲れて気分もよくなかった日は

第2図 親子のオーラ

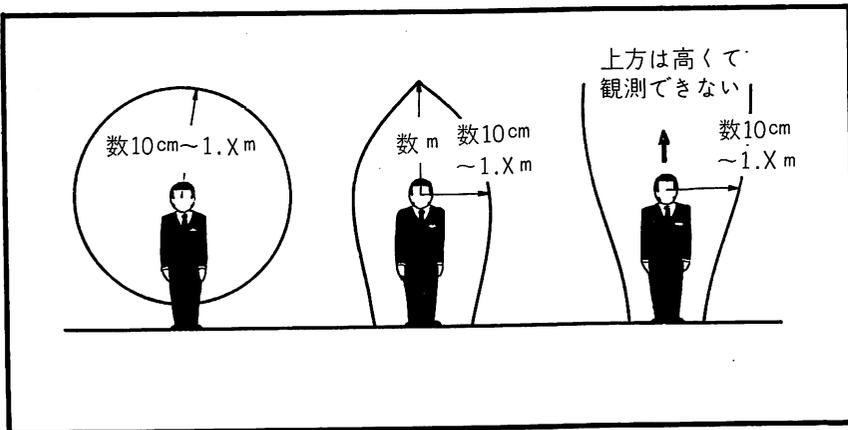


オーラ放射の寸法が小さくなるが、形状比は変わらない特徴があるようです。

また呼吸をする程度このオーラ放射の寸法が一〇ないし二〇パーセントぐらい変化します。胸いっぱいよい空気を吸うときと、腹の底から息を吐くときの变化範囲は、人によっても異なりますが、基準状態から大体プラスマイナス五〇パーセントないし一〇〇パーセントぐらい変化します。

これは、人体から放射する電磁波成分の強さをオーラとして測定していますから、人体の細胞は、空気中の酸素などによって、電磁波のエネルギーを周囲に放射する特性があることを物

第3図 普通の大人について観測されるオーラ寸法例  
(天候、健康などの状態で寸法が変わる)



語っているのです。

この人体オーラの実験実測から、オーラ透視能力者が語る人体オーラの透視状態は明らかに実在するものであり、透視能力者の目、つまりまぶたを閉じていても見えるというオーラの輝きは、電磁波のエネルギーの放射状態を、視神

経がキャッチしているのだということがわかったのです。

昔からある仏像の光背、それは生きている人間のだけれども、周囲に放射している人体オーラを特異能力のある透視能力者が凡人の肉眼にも見られるように象徴化したものであるというように仏像光背の謎が解けたのです。

将来このオーラメータが更に改良され、テレビの画面のように映しだされる時代がくれば、そこにきつとすばらしい、しかし驚くような人体オーラの謎がえぐり出されるであろうと考えます。

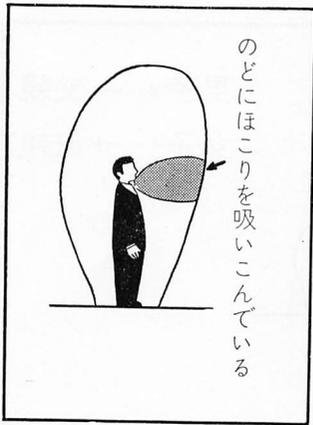
### 3. えぐられた

#### 人体オーラの秘密！

つぎに、人体オーラの実験実測で、いろいろと特徴のある異常現象、たとえば心の状態、健康状態、感情状態、生活環境状態、霊的現象状態などが、正確に反応していることがわかったのです。

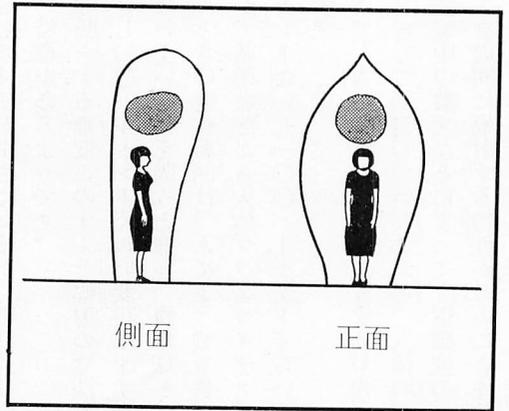
身体の健康状態がよいときは人体細胞から周囲に電磁波エネルギーをごく微弱といっても、周囲の環境にある電磁波エネルギーに比較して強く放射している、つまりより強い電磁波エネルギーの場の場合の検波出力をマイナス、反対の状態の場合の検波出力がプラスにメータの針が振れる構造にできているので、任意の空間でオーラに対応してメータの針が振れるので、人体周囲各部のオーラのよしあしを調べることに

**第5図** のどの付近のオーラに異常がある例

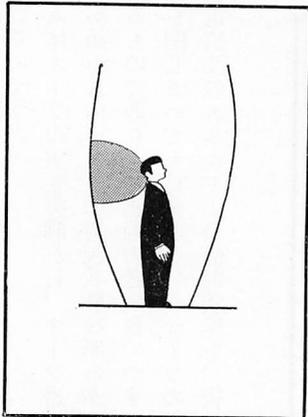


ができ、いろいろと特徴のある人体オーラの姿をこのオーラメータはえぐり出すことができます。たとえば、第4図の例のように、頭の上にモヤモヤしたプラスのうず巻、それは、測るごとに多少異なった数値を示す特徴あるオーラは、心のなかに何か悩みがある状態の特徴、何回測

**第4図** 心に悩みのあるときのオーラの異常例



**第7図** 血圧の高い人のオーラの異常例



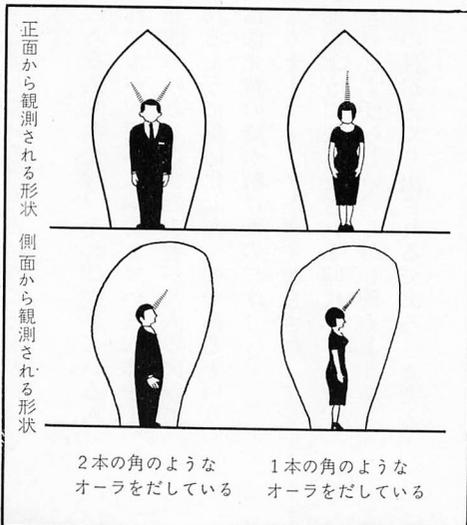
つぎに、第5図の例のように、のどの付近に穴があいたように、プラスオーラを放射する場合には、地下道、地下鉄などの空気のわるいところを通してきて、のどにはこりをいっぱい吸い込んでいますという特徴、第6図の例のように目の前あたりに穴があいたように、プラスオーラを放射する場合には、視力が左右アンバラ

**第6図** 目の前あたりのオーラに異常がある例

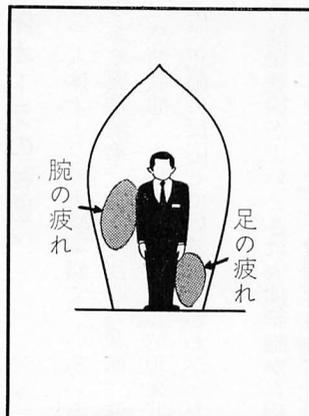


ってもほぼ同じ数値を示すプラスのかたまりは、テレビの見過ぎ、夜ふかし、寝不足、二日酔いなどで、頭のなかがかすみがかかったようにボンヤリしている状態の特徴です。

**第9図** 怒っているときのオーラの異常例

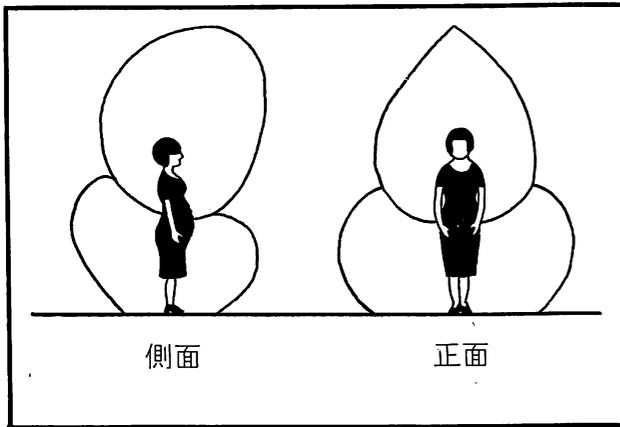


**第8図** 疲れのある部分に現われるオーラの異常例



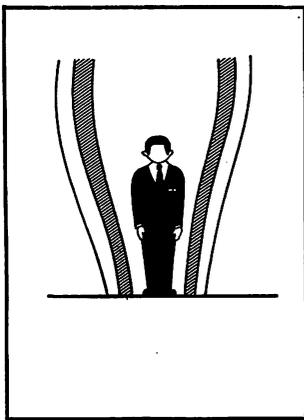
ンスで疲れているとか、たとえば、蓄膿症といったように、鼻の付近に異常があることを示す特徴、第7図のように、うなじの付近に穴があいたようにプラスオーラを放射する場合には、血圧が高いとか、それに相当するような異常があることを示す特徴などが読みとれるのです。手や足などに疲れがあるときは、第8図の例

第10図 妊婦のオーラ形状例



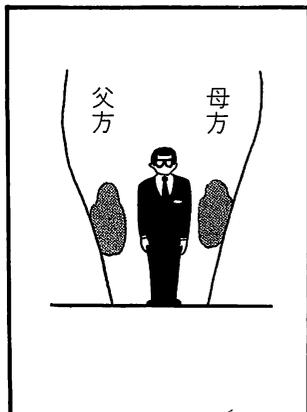
のように、疲れのある部分から、穴があいたようにプラスオーラを観測できるのです。  
 また、顔は笑顔でも心のなかで怒っているときには、第9図の例のように、おでこの両側から二本のプラスオーラビームが、あたかも鬼の面のツノ、牡牛のツノといったような姿で、外に向かって放射しているのです。  
 人によっては、このツノが一本おでこの上あたりから放射している場合もあります。これは何か先祖からの因縁のつながりを示す特徴かもしれません。  
 これは展示会の現場で、希望者が行列してい

第11図 人体オーラに観測される年輪効果



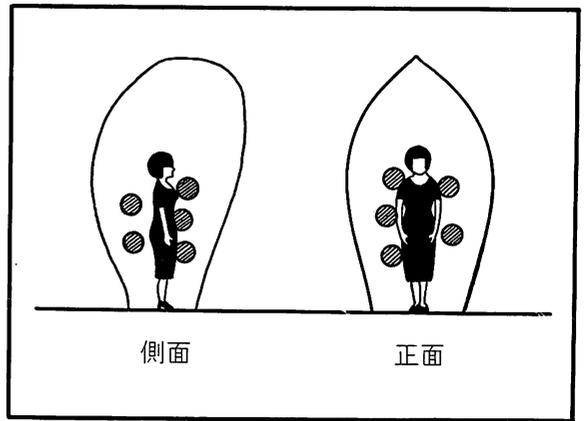
るところに無法者の一人が割り込み、カッカと怒って口論した人のオーラを実測して見つけた例で、昔から、怒るとツノが生えるとか、鬼のように怒るといいいならわしは、あながち迷信ではなかったことがわかったのです。  
 第10図はおなかに子を孕んでいる妊婦の人のオーラで、母親の特徴ある人体オーラとは無関係に、おなかの付近を中心にいまひとつの生命力の存在を示すオーラがあるのです。それは受胎と同時に始まるようで、その境目には、わずかないし二センチメートルといったプラスオーラの膜が存在するのです。  
**4. つきものは体内にひそんでいる？**  
 つぎに、生活環境が、引越、長期にわたる旅行などで水と空気が変わるとか、外国旅行などで食物が極端に変わった生活をしてきた場合には、第11図の例のように、人体オーラに年輪効果のような現象を起こす場合があります。

第12図 先祖の命日の付近に現われるオーラの異常例



この現象は、また生活環境のなかに有害ガスを発生するくさいニオイのする合板ベニヤ材、新建材などを使用した家具、調度品などを身辺にそなえるとか、家屋を新築してそこに住むなど、健康上好ましくない環境に起居するようになった場合にも起こることが、実験実測でわかったのです。  
 この現象が観測される場合は、身体の健康状態が一見よいようであっても、何となく身体がだるい、旅の疲れなどといわれている状態のときにしばしば観測される現象です。  
 さて、人体オーラの実験実測で体験した驚くべき現象のひとつに、霊的な異常現象がありません。  
 これまで述べてきた人体オーラの異常現象は、心の状態を除いて、すべて皮膚の表面に密着して異常オーラを放射しているのですが、霊的な異常現象は、皮膚の表面から五ないし一〇センチメートル以上離れて異常オーラを放射している特徴があるのです。

**第13図** 流産した子供の霊体が幾体もある婦人のオーラの異常例



つぎの例は、約三六〇〇名の実測例のなかから統計的な形状異常例としてまとめてみたものです。

**第12図**は、御先祖様の命日、年回忌などが近い場合に起こる人体オーラの異常例です。

父方の霊は右側、母方の霊は左側の肩のあたりから腕の側にかけて、足がない等身大の姿とか、直経約三〇ないし四〇センチメートルの球状の姿などでプラスオーラが、その人の人体オーラのなかに観測されるのです。これはその現象が観測される人のアンケートの統計から割り出したもので、まだ正確なデータであるとはいえませんが、このような傾向が観測されることは事実であり、大体命日の付近数日間、年回忌

の場合は数カ月間観測される現象です。そしてこれはその人に右向き、左向きというように、測定するときに場所を変えていただと、霊体と考えられるプラスオーラの異常状態も同時に場所を変え、その人が場を離れ立ち去ると、その人と共に霊体のプラスオーラも同時に立ち去るので、御先祖様の霊体は何かその人自身の内部から放射する電磁気的な歪現象のひとつではないかと考えられるようです。

**第13図**は、流産した子供の霊体が幾体もある婦人の人体オーラに観測される異常例です。

これは、一般に水子の霊といわれているものではないかと考えられます。それは直径が約一五ないし二〇センチメートルぐらいの球状のプラスオーラで、あたかも肉眼に見えない風船のようにフワフワつかず離れず、その婦人の人体オーラのなかに観測されるのです。そしてたぶん水子の霊の命日に相当する日の付近数日間、その人体オーラのなかに観測されるようです。

**5. 実測でわかった**

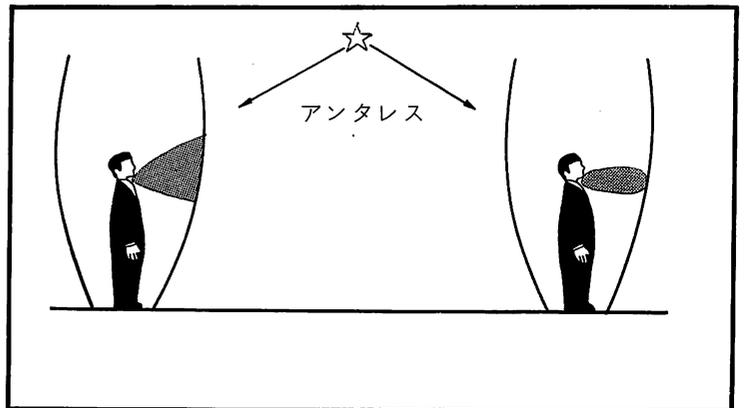
**天体オーラの秘密**

さて、この人体オーラの実験実測で体験した驚異的な事実があります。

それは、人体オーラを測定する場合、天体の星の配置が微妙に影響していることがわかったのです。

その正体はどんなものかを実験実測で調べた結果、**第14図**の例のように、さそり座のアンタ

**第14図** アンタレスの方向の宇宙電界エネルギーの人体オーラ形状に及ぼす異常例



レスという星の影響が最も大きいようだということがわかってきたのです。

つまり、アンタレスの星の方向は、人体オーラが吸いとられるとか、中和するといった表現の現象が起こるのです。

これをさらによく調べてみますと、宇宙空間全体が、ひとつのオーラ放射の場であり、そのなかに地球が自転しているようだということがわかってきたのです。

電波天文学によれば、夜空に輝く星の数々、

そこからは、いろいろの電磁波の輻射があることがすでにわかっています。地表で試作したオーラメータにより、これらの電磁波エネルギーをキャッチしてみますと、季節や日時によって、いろいろの星の方向の電磁波エネルギーをオーラとしてキャッチできるのです。

実験実測によると、何か相当強い天体電磁波エネルギーが、オリオン座、ペルセウス座のあたりから銀河系に輻射してきているようであり、これが銀河の中心付近にはたらきかけ、銀河の中心付近からさそり座アンタレス付近にかけて、二次輻射現象を起こしている電磁波エネルギー帯があるのではないかと考えられるような天体オーラ現象があるのです。

前述のように、この試作したオーラメータは任意の空間の一点で、より強い電磁波エネルギーの輻射場の方向がマイナスオーラ、より弱い電磁波エネルギーの輻射場の方向がプラスオーラとして検出される仕組みになっているので、天体電磁波エネルギーの輻射を、オーラメータで実測観測すると、人体オーラの観測の場合と同様、天体オーラの状態を正確にキャッチできるのです。

したがって、人体オーラを実測するといっても、実際にはわれわれの生活環境にある天体オーラとの総合特性を観測しているのです。

それで、天体オーラの輻射が強い場合には、人体オーラの測り方に注意して、人体オーラの形状図作成にも天体オーラ成分の補正が必要に

なるのです。

では、われわれの生活環境に潜在する天体オーラの様子はどんなものか、試作したオーラメータで実測してみますと、何といっても強力なプラスオーラの方向は、さそり座のアレタレスの付近のようで、これを地表から観測しますと、X軸Y軸ともプラス・マイナス約45度ぐらゐの範囲で、そのZ軸方向つまり中心付近がアンタレス付近のように観測されるのです。

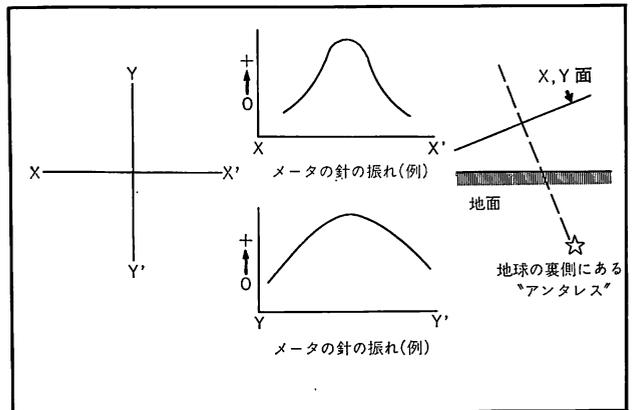
これらのほか、比較的強いプラスオーラとして観測される電磁波エネルギーを輻射している天体には、太陽のほか、白鳥座のデネブ付近、しし座のレグルス付近、わし座のアルタイル付近など、その他、日時、季節によって、いろいろの星からの天体オーラがひしめくように、また、ささやくように、オーラメータにキャッチされるのです。

### 6. 天体オーラによる宇宙電界エネルギー

強いマイナスオーラとして観測される電磁波エネルギーを輻射しているのはオリオン座の付近で、波打つように輻射しているのはペルセウス座の付近、これらの観測できる範囲は、他のプラスオーラとして観測される電磁波エネルギーの分布状態が強い時間帯は、X軸Y軸とも、アンタレス付近よりも比較的狭い範囲のように観測されます。

これらの天体オーラとして観測される天体電

第15図 地面の方向に向かい、アンタレス付近の宇宙電界エネルギーによる電界の方向角度とその位置を観測できる



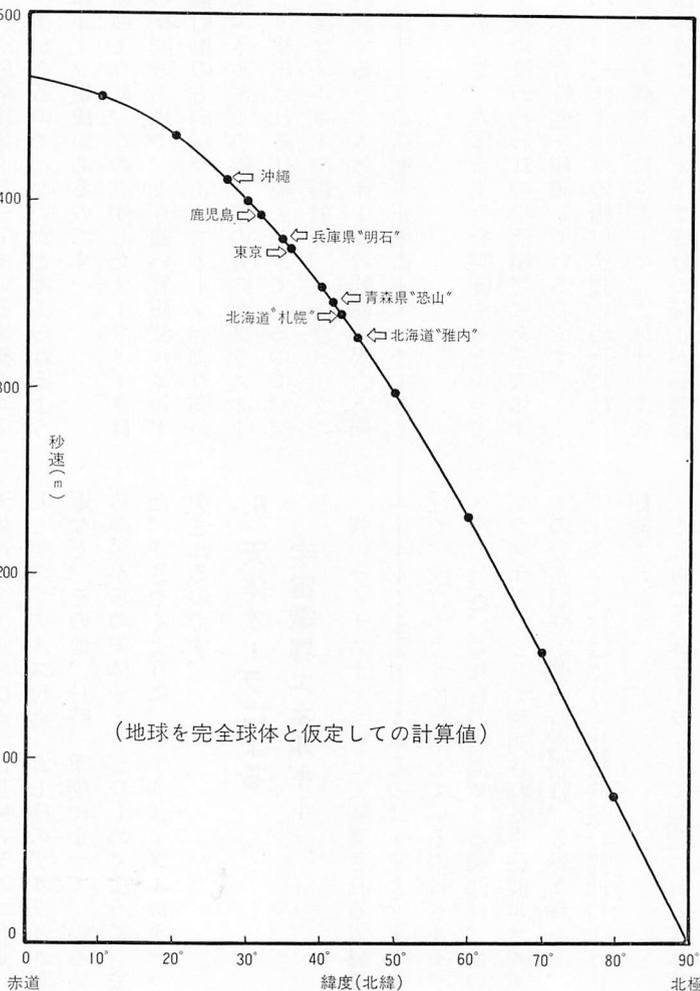
磁波エネルギーは、それぞれ特徴のある姿で電波伝播のフェーディング現象に似たような強度の変化があります。

そして驚異的な現象は、第15図のように、地面の方向、つまり地球の反対側にたとえばさそり座のアンタレスがある場合、地面の方向に、その天体オーラの輻射方向が観測される現象があるのです。

地面を通す天体オーラ、つまり天体電磁波エネルギーというのは、現在の電磁気学では考えられない現象です。

しかし、この天体オーラの非対称的な存在

第16図 地球北半球地表面上における自転速度 (地表移動速度)

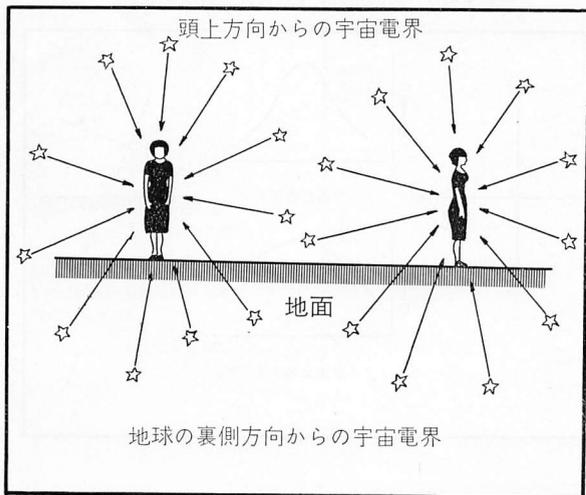


は、われわれの生活環境、つまり宇宙空間に、立体的なマルチダイオードのような姿で宇宙電界を形成し、地表に住む人間はもちろん、森羅万象にその影響を及ぼしていると考えられるのです。

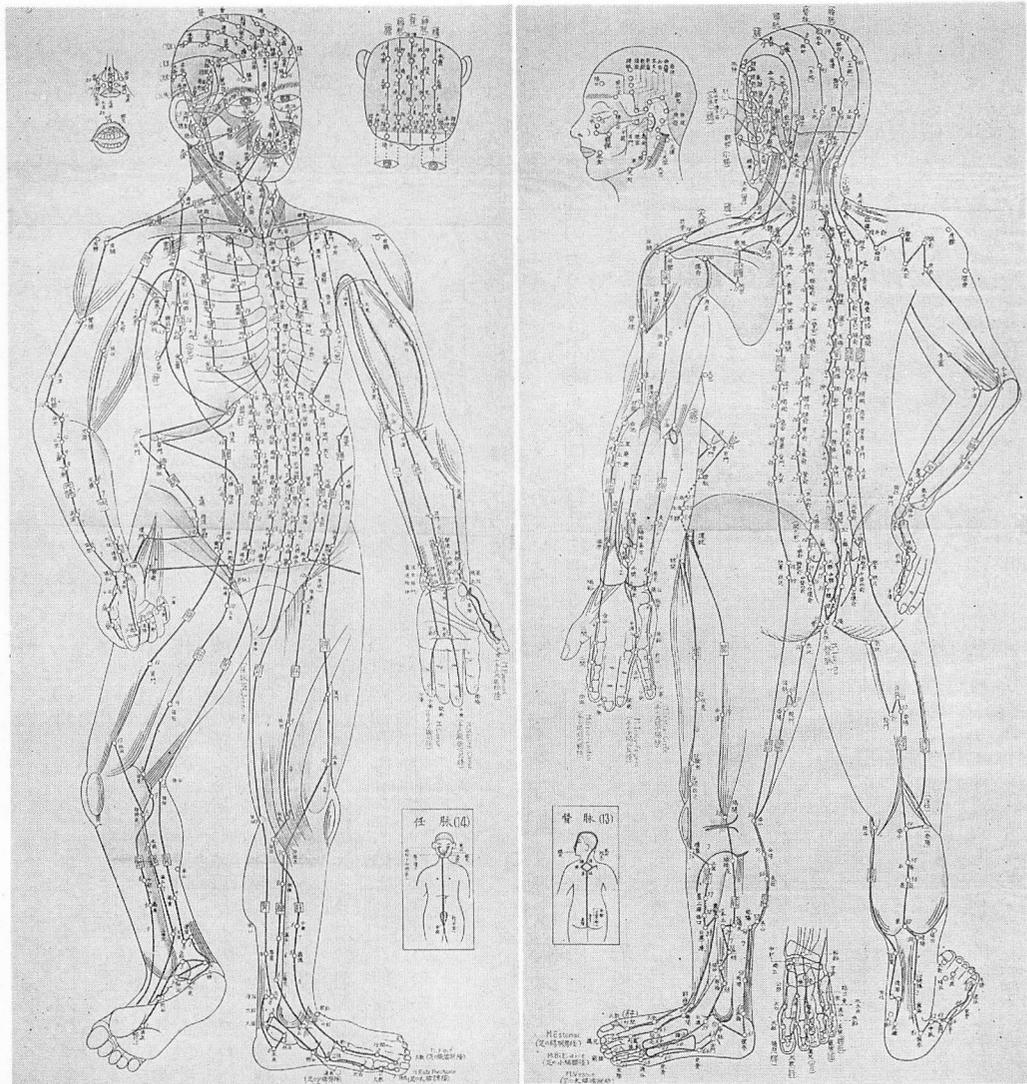
地球が一日二四時間で自転するということは、第16図に示すように、緯度によってそれぞれ異なる表面移動速度で宇宙電界の影響を受け、また約三六五日で太陽の周囲を回るといふことは、地球全体が秒速約三万キロメートルの速度で宇宙電界のなかを移動することを意味し

ているのです。そして太陽系全体が、銀河中心から約二万五千光年の距離の付近にあり、銀河の自転のため秒速約二五〇キロメートルの速度で移動していることを考えると、地球はこれらの総合した移動速度に対応して宇宙電界の影響を受けていることになり、これによって地球自体が、宇宙電界によって得た電磁エネルギーの二次放射、つまり地球オーラを周囲の宇宙空間に放射していると考えられることもできます。しかし天体オーラによる宇宙電界をよく考えると、天体オーラのエネルギーによって地球が自転し

第17図 人体をとりまく宇宙電界エネルギー



ていると考えるのが本来の姿ではないかと推測できるのです。  
その地球の表面にへばりつくように生きている人間は、当然、天体オーラによる宇宙電界の影響を受けていることが考えられます。  
それは第17図の例のように、地球に住む限り、地球自体のオーラはもちろん時々刻々と変化する天体オーラの影響を受け、これによって人体を構成するすべての細胞組織に起こる電磁エネルギーは、筋肉、骨髄といった単結晶的構造に生ずる起電力のもとになり、総合された人体の活動源、生命力の基本的なエネルギーが発生すると考えられるのです。



それは人体の皮膚表面全域にわたって、第18

図に示すような一定した法則で分布する

ツ

第18図 医道の日本社刊、本間祥白著「人体のツボ図刊」より

ポ”の電気的特性の実測や、オーラメータで実測できる人体オーラの状態で、その関連性を知ることができるのです。

## 7. 人体オーラのもと

### 天体オーラ

人体は、空気と水、食物によって生命力を得ていると考えられているようですが、人体オーラの観測実験から、人体の生命力の根源は天体オーラによる宇宙電界のエネルギーではないかと考えられるのです。

テレビのブラウン管表面の蛍光膜は電子ビームという一次エネルギーでエキサイトされ、可視光線エネルギーの二次放射現象を起こすと同様、人体は天体オーラによる宇宙電界エネルギーという一次エネルギーでエキサイトされ、生命力の根源を得るが、それと同時に人体オーラという電磁波エネルギーを二次放射現象として周囲に放射するというわけです。

二次放射現象として、蛍光膜の場合は、赤、緑、青といった特徴ある可視光線を放射するのと同様、人体の場合には、先祖の因縁、心の状態、健康状態、感情状態、生活環境状態、霊的異常状態といったいろいろの情報によって特徴づけられた人体オーラを周囲に放射するというわけです。

このように考えますと、オーラ透視能力者が語る不思議な話もすんなりと理解することができるのです。





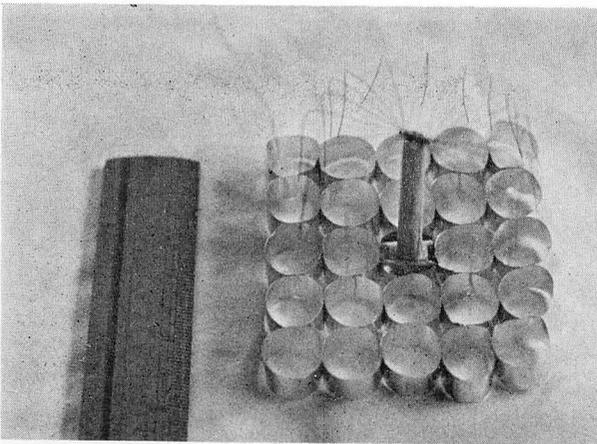
9. 宇宙電界エネルギーで  
飛行するイオンクラフト



写真6

●筆者による1グラムイオンクラフト公開実験。昭和46年4月26日、日本テレビ「11PM」にて。

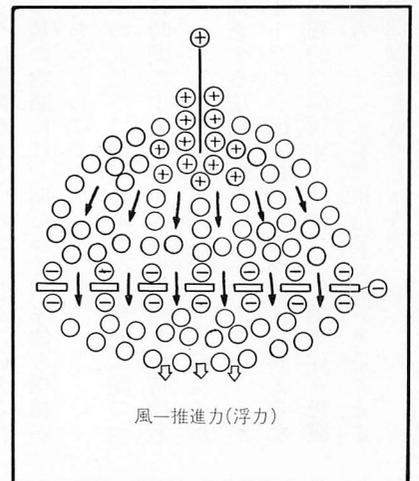
写真7 ●試作実験に成功した1グラムイオンクラフト



ところで、ここで述べた人体オーラ、環境オーラ、天体オーラを測定できるオーラメータは、実は、昭和四五年に、日本テレビ放送網の「11PM」の番組です。に公開実験した空飛ぶ円盤の模型飛行実験の改良研究のために開発した高感度の宇宙電界メータによる飛行原理の実験研究がその発端なのです。

千葉県葛城中学の藤原伸庸教諭が指導する三木直人、伊藤雅文、小沢吉則、金杉治のグループが、昭和四〇年に開発、実験飛行に成功した一グラムのイオンクラフトを、日本テレビ放送網の依頼で大型化研究を試みることになったのです。

第21図



はじめは、第21図のようにイオンの風によって飛行するものと考えていましたので、イオンの風を、二倍、四倍、一〇倍と強く発生させる工夫をしてみたのですが、イオンクラフトとして仕上げると、二グラムのものでも、うまく飛行してくれなかったのです。

それで、どうして飛行しないのかを詳しく調査研究しているうちに、意外な事実が見つかったので。

それは、このイオンクラフトに電圧をかけて飛行させようとすると、たとえば、朝、東の方向に動きはじめるとすると、同じ日の昼には、南の方向、夕方には、西の方向、真夜中には北の方向というように、特徴ある舞い上がり方をする現象があることに気がついたのです。

これは一体何が原因かを調べてみると、意外にも前述のさそり座のアンタレスの方向に舞い上がる現象があることがわかったのです。

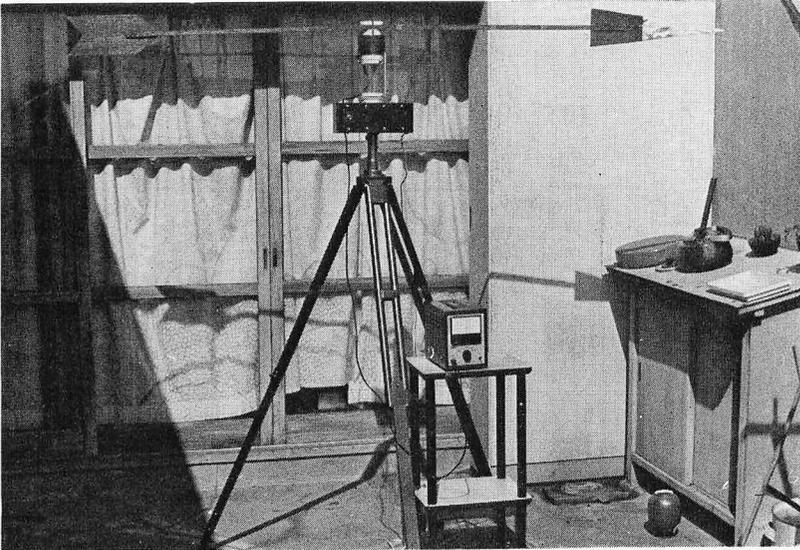
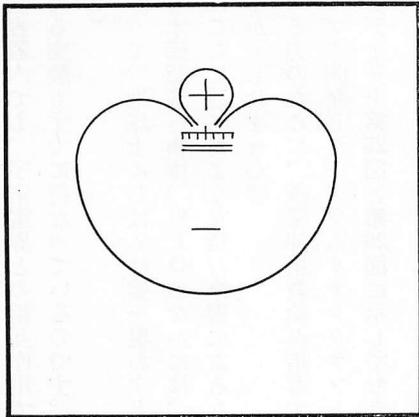


写真8 ●試作した宇宙電界メータ

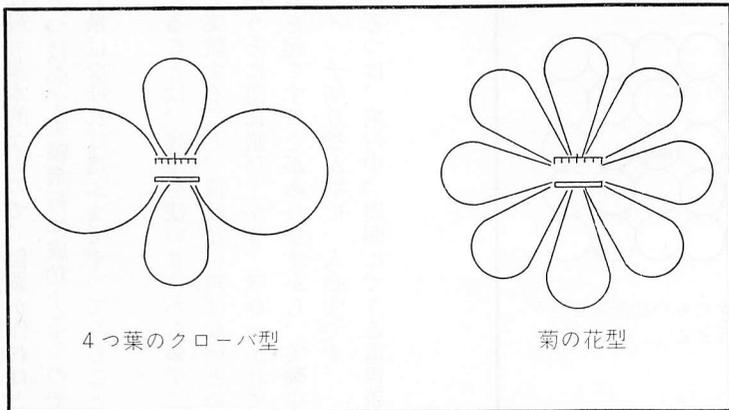
これはアンタレスの方向に電気的な何かの原因がひそんでいるのではないかというわけで、その当時、自動車の排気ガスが人体の「ツボ」の電気的特性に及ぼす影響について研究するために使用していた高感度電界メータを応用して調べてみたところ、意外にも、生活環境つまり宇宙空間に、宇宙電界のようなものがひそんで

第22図



いることが、かすかにわかったのです。それで感度をグーッとよくする工夫をして、アンタレスの方向に何がひそんでいるかを調べる宇宙電界メータを開発し、実験調査を進めた結果、前述の宇宙電界の様子が次第にはっきりしてきたのです。この宇宙電界メータの感度を更によくする工夫をしたのが前述のオーラメータなのです。  
試作した宇宙電界メータで飛行するものと、どうしても飛行しないヘソ曲がりのイオンクラフトの周囲の電界分布を調べてみますと、第22図に示すような例のように、飛行するものは周囲の電界分布が非対称になっており、飛行しないものは、第23図の例のように周囲の電界分布が、四つ葉のクローバとか菊の花といった対称電界になっていることが、はっきりわかってきたのです。

第23図

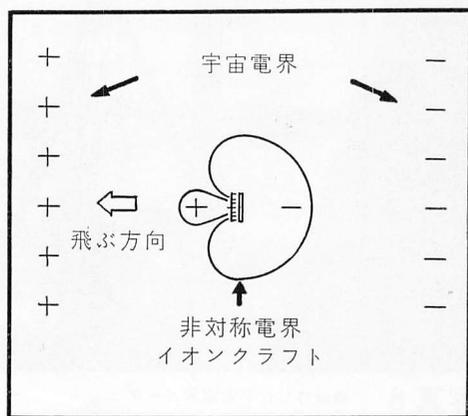


4つ葉のクローバ型

菊の花型

それならというので、材料の選択、構造の調整で、第23図のように非対称電界になるように調整工夫してみますと、それまで飛行しなかったものが次々に飛行するようになったのです。この飛行原理は、第24図に示すように、非対称電界を形成させる物体を作り、宇宙電界のなかで動作状態にすると、宇宙電界との相互作用で矢印のように反発力（逆向きのときは吸引力）で飛行すると考えられるのです。

第24図



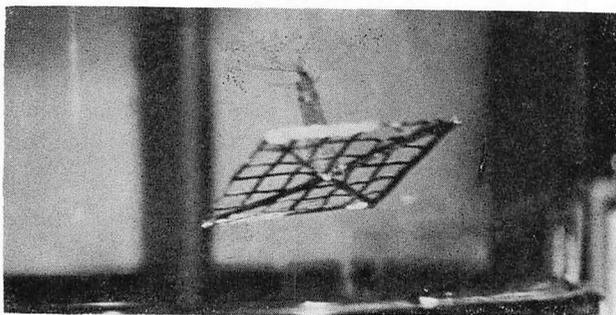
10. 四次元の謎を解く電磁気学

どうしても飛行しないヘソ曲がりのイオンクラフトを、じっくり約一年間研究し、どうして飛行しないのかの謎を解く努力をした結果、宇宙電界メータ、オーラメータの開発研究の成果が得られ、天体オーラ、環境オーラ、人体オーラの実体がしだいに明らかになり、そして現在三八頁の写真のような約三二五グラム、直径約一・三メートルの空飛ぶ円盤模型の飛行実験ができるようになったのです。

そしてその写真の例に示すような構造のものならば、一トンでも一〇トンでも製作可能な設計データ(推定値)がすでにあるのです。

また、この方式は  $3 \times 10^{-6} \sim 10^{-7} \text{mmHg}$  まで

写真9 ●真空中でのイオンクラフト飛行実験 ( $3 \times 10^{-6} \sim 10^{-7} \text{mmHg}$ )

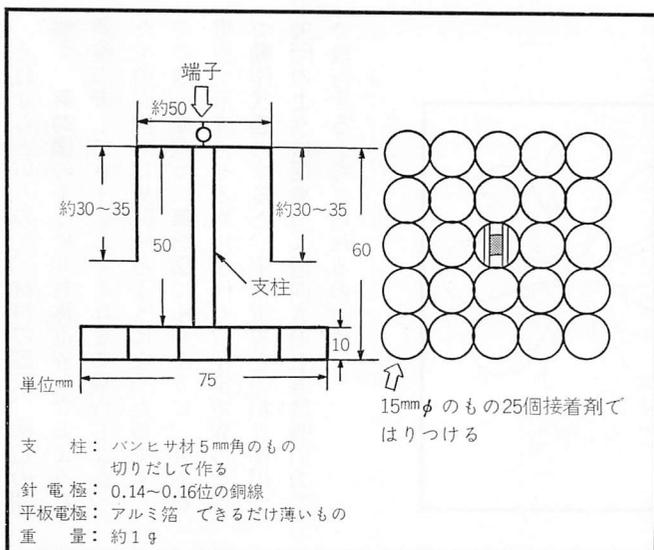


った真空容器内でも、宇宙電界との相互作用で飛行し得る実験もすでに行なっているのです。(写真9)

したがって、地球上にしばしば姿を現わすといわれる未確認飛行物体、UFOのなかには、あるいはここに述べたような飛行原理によるものがあるかもしれません。

興味ある方のために、藤原伸庸教諭が指導するグループの開発した一グラムイオンクラフトの詳細なデータを第25図と第26図に示しておきます。

第25図 イオンクラフトの作り方(1)

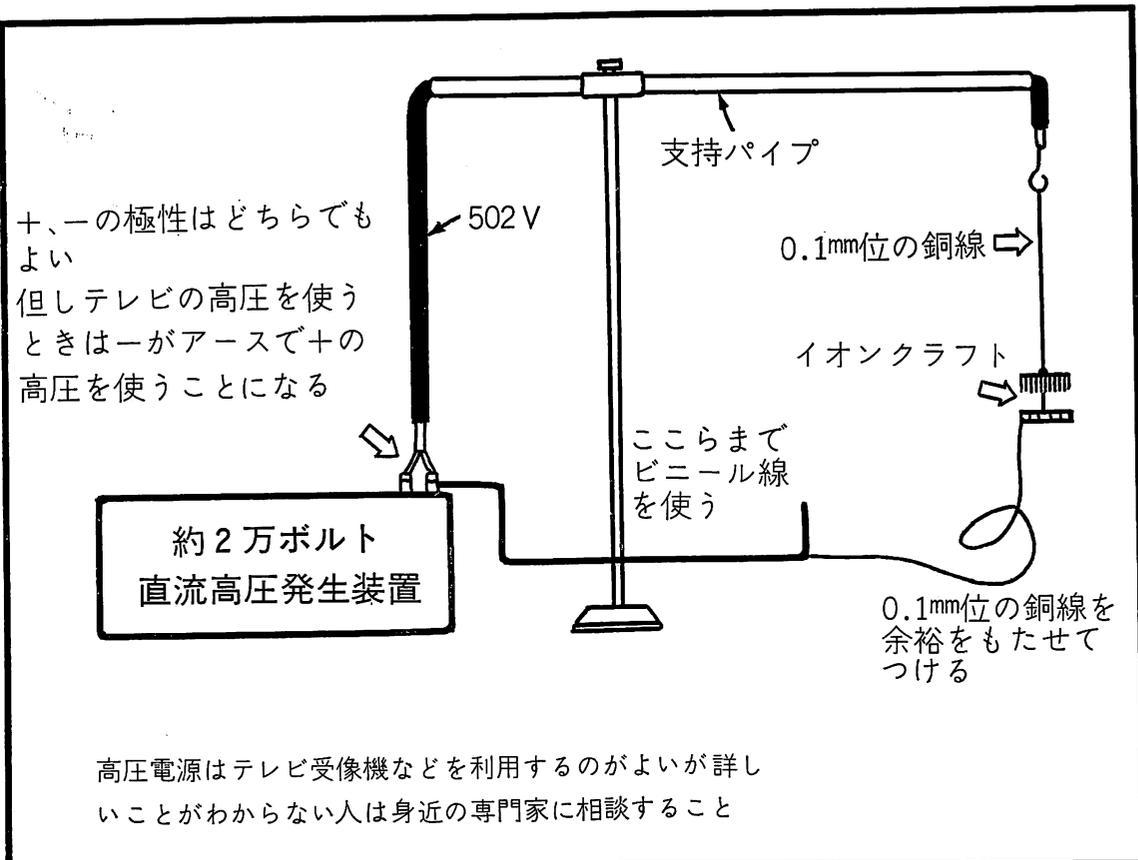


これは最も基本的なもので、何個か作ればどれかひとつは必ず実験飛行に成功するものです。もし飛ばなければ飛ぶまでやってみる事です。

注意することは、高圧を使いますから必ず二人以上で実験すること、飛ばない飛ばないといっているうちに急に飛び上がり、飛びつかれて感電事故を起こすことがありますから、実験には必ずスイッチ切り役が別に一人必要です。

いまひとつは、飛行中、周囲にできる電界歪

第26図 イスクラフトの作り方(2)



高圧電源はテレビ受像機などを利用するのがよいが詳しいことがわからない人は身近の専門家に相談すること

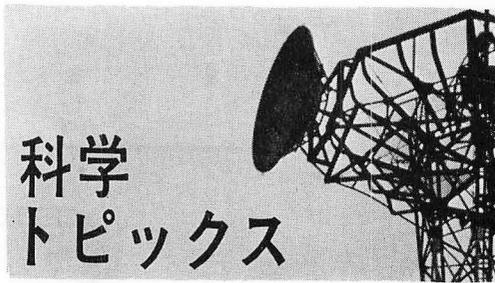
の影響で、人体の「ツボ」に電氣的歪が蓄積しますから、実験したあとには必ず熱い風呂にはいって、身体に蓄積した電氣的歪を中和することを忘れてはなりません。横着をして一度腹痛など起こしますと、どんな薬を服用しても効きません。そんなときは約六カ月ほど身体の細胞が自然の新陳代謝で、全部入れかわるまではおられないのです。

この点、私の経験から述べることで、実験される方はくれぐれも注意していただきたいのです。

ともあれ、ここで述べた天体オーラ、環境オーラ、人体オーラ、それに宇宙電界と、天体電磁波エネルギーなど、私がこれまで行なってきた実験、実測についての詳しいことは、現在、電気通信大学の研究グループにより検討されつつあり、近い将来その実体がより確実なものとなり、権威ある研究グループから詳しいことが公開される日も近いでしょう。

■筆者内田秀男先生は大正十年生。福井市のご出身。旧制福井商業学校卒業後、NHK技術者養成所で電波工学を学び、多年NHK技術研究所で放送局型受信機の試験研究に従事。退職後は内田ラジオコーポレーション技術研究所を設立して受信機研究の技術指導を行なう一方、各種の電波工学専門誌に論文を発表された。特に四次元世界の研究を行ない、この分野でも令名が高く、またイオンクラフトの公開実験で有名である。

●住所 156東京都世田谷区上北沢四一―一八一五



# 科学トピックス

## 数カ月で60センチの地盤沈下

環境庁が5月下旬にまとめたところによりますと地盤沈下は全国31都道府県46地域に及び、ことに地方都市での沈下がひどくなる一方であることがわかりました。この原因は地下水のくみ上げを規制する法律の適用がされず野放しの状態にあるためとされています。

ことに仙台市では昨年12月頃から急に地盤沈下しはじめわずかに数カ月で10センチから

60センチも沈み、工場が傾いて操業中止となったり住めないう住宅になったり被害が続出しています。地盤沈下の大きい地域は埼玉、東京、千葉、

神奈川の関東が激しく神奈川県南部では年間14センチから24センチも沈んでいます。そのほかの地域では濃尾平野(愛知)、七尾(石川)、青森平野、金浦(秋田)、山形盆地、いわき(福島)、新潟平野、福井平野、阪神地区、鳥取平野、岡山平野、広島平野、高知平野、佐賀平野などで年間1〜10センチの沈下を記録しています。

この結果からみると工業用水やビル用水を多量に使用している地域に沈下が激しいことが判明したことから全国8都市で結成している地盤沈下対策都市協議会(会長・渡辺浩太郎新潟市長)は「地盤沈下防止法」をつくろうと動き出し、工業用水などの地下水くみ上げを規制しようとしています。

だが厚生省、農林省、通産省はそれぞれの立場からこうした規制に反対の態度を表わしています。

## 三原山の火口底下昇は地震の前兆?

最近、三原山が活発な動きをしています。これが大地震の前兆ではないかなどさまざまな論議を呼んでいます。火口底が40メートルも上昇したこと、火山性微動が5月以降急に大きくなり、最大振幅が平常の3、4倍の9〜14ミクロンに達していることで通産省地質調査所の木村政昭第一調査室長や、東大地震研の中村一明助教授の「三原山大爆発→南関東大地震」の仮説が一段とクロズアップされています。

その根拠は①大正12年の関東大地震の10年前に三原山が大爆発している②昭和28年の房総大地震の2年前、同様に三原山が大爆発しているの2点ですがこうした三原山の爆発は、東日本の海底の圧力が頂点に達したときに起こるといふ地球物理学上の相関関係が存在するとのこと。木村氏の説によると一九七四〜七九の間に三原山が爆発し、一九七六〜九〇年に巨大地震が関

東に起きる可能性があるとタイムスケジュールまではじき出しています。

ところがこの仮説に対して気象研究所の諏訪彰地震研究部長や森本良平東大教授らは批判的な反応を表わしていますが、決定的な発表はデータ不足のためさしひかえられています。

## 駿河湾のご真ん中に海底火山?

駿河湾のご真ん中に海底火山があるらしいことが静岡県駿河湾漁業開発研究協議会で7月13日、同協議会委員の小網汪世海洋圏研究所長から発表されました。これは同湾の中央にあたる石花海(せのうみ)と呼ばれる浅瀬を調査してわかったものでこれまで火山活動の記録がまったくない、土砂堆積によるものといわれていただけに駿河湾の海底を知る新発見として注目されています。

調査は48年6月から行なっていたもので県水産試験場、東海大学、東大海洋研究所、東京水産大などの海洋研究者

が委員となって続けました。調査の結果、石花海の瀬の全体像はワンを伏せたような形で頂上の南東側水深60メートル付近にカルデラ型地形があり、その南側水深70メートル付近にも半円形のカルデラ型地形があって外輪山の形となっていて、しかも頂上付近の砂には火山灰と思われるものが混じっていました。同氏は今後、底の岩石を採取して分析する必要があるとして断定はしていませんが大井川などの河川から湾内に流出した土砂が累積して形成されたとする通説をくつがえすだろうと述べています。

## 東京直下型地震の活断層を発見

東京大学地震研究所の松田時彦助教授は7月22日に開かれた東京防災会議の席上「東京を流れる荒川沿いに直下型の原因となる大規模な活断層が存在する恐れが濃い」と報告しました。この報告は松田助教授が同会議の一員として同川上流や群馬県下を实地調査して三つの小規模な活断層

を突きとめた結果をまとめたもの。この結果は昨年5月アーツ衛星の写真から判読された首都圏を東西に走る断層に新たな「地震の巣」を加えることになり、都災害対策部はこの「荒川断層系」を確認するため来年から同川中流、下流周辺を地下ボーリングや爆破作業を実施して大がかりな調査に乗り出すことにしています。

発見された活断層は①藤岡市西平井付近で延長14キロメートル(平井断層と命名)②埼玉県・美里村付近で同3キロ(柳挽断層)③埼玉県深谷市付近で、同6キロ(深谷断層)の三つ。この三つはそれぞれ北西―南東の走向を示しそのまま延長すると、推定される荒川断層系の走向にピッタリ一致します。この三つの断層は地質学上わずか数万年前に生じたもので現在も1千年に5センチの速度でズレ続けている活断層である点を突き止めました。

これらの結果から同助教授は「東京直下型地震の発生源として注目しなければならぬ」と警告しています。更に

同助教授は活断層の変位(動き)の速度と地震発生の頻度の関係を計算して動きが深谷断層の「1千年に30センチ」の場合「マグニチュード7の地震を約5千年に1回発生させる」と推定しています。変位速度が「1千年に10メートル」の場合は「200年に1回」と頻度がぐんと高くなるが、東京直下の荒川断層がどの程度の変位速度かはっきりしていないため、地震発生の頻度の推定も困難なのが現状といわれます。

### 応用技術衛星ATSを打ち上げる

米国の応用技術衛星ATS6号が5月30日ケネディ宇宙センターから打ち上げられました。この衛星は米フェアチャイルド社製のものでアラスカ、ロッキー山脈地帯、またインドなどの過疎地域に地上から受信したテレビ電波を中継し宇宙から地表へ直接送り送むためのものです。これは「宇宙テレビ放送局」ともいうべきもので、経費約600億円を投入しました。

### ソ連、サリュート3号を打ち上げる

タス通信によるとソ連は6月25日科学軌道ステーション「サリュート3号」を打ち上げ軌道に乗せました。ソ連はこれまで2回サリュートを打ち上げていたが今回の実験の目的も「サリュートの構造諸システム設備の完璧な作動を期するとともに宇宙飛行中に科学技術上の調査と実験を行う」と発表されています。

サリュートはもともとソユーズ宇宙船とドッキングして有人宇宙ステーションを建設するためにつくられました。

### ソユーズ14号がドッキング?

7月4日朝のタス通信によるとソ連は3日午後9時51分有人宇宙船ソユーズ14号を打ち上げました。この計画は先ほど打ち上げた「サリュート3号」とのドッキングをねらったものとみられます。もしサリュート・ステーションとのドッキングが実現すると一

九七一年の「ソユーズ11号」以来3年ぶりになります。当時地球周回軌道にあった「サリュート1号」とドッキングし各種の科学調査を行なったあと切り離され地球に帰還しましたがが気密不全から乗り組みの宇宙飛行士13人全員が死亡するという悲劇を生みました。けれども今度はすべてに成功したもようです。

### 20年後の東日本は寒冷化のピーク

地球規模の異常気象でわが国も北海道に低温化傾向が現われているが前舞鶴海洋気象台長の須田滝雄理博は5月23日、気象庁で開かれた日本気象学会春季大会で「この低温化傾向は今後どんどん進み、

候変動進行ダイヤ」によると一九七五年北半球の低温がピークに達する。

○一九七八年アイスランド流水日数がピークに達する。  
○一九八〇年アルプスの氷河が発達する。

○一九八五年北海道、北欧の低温がピークに達する。

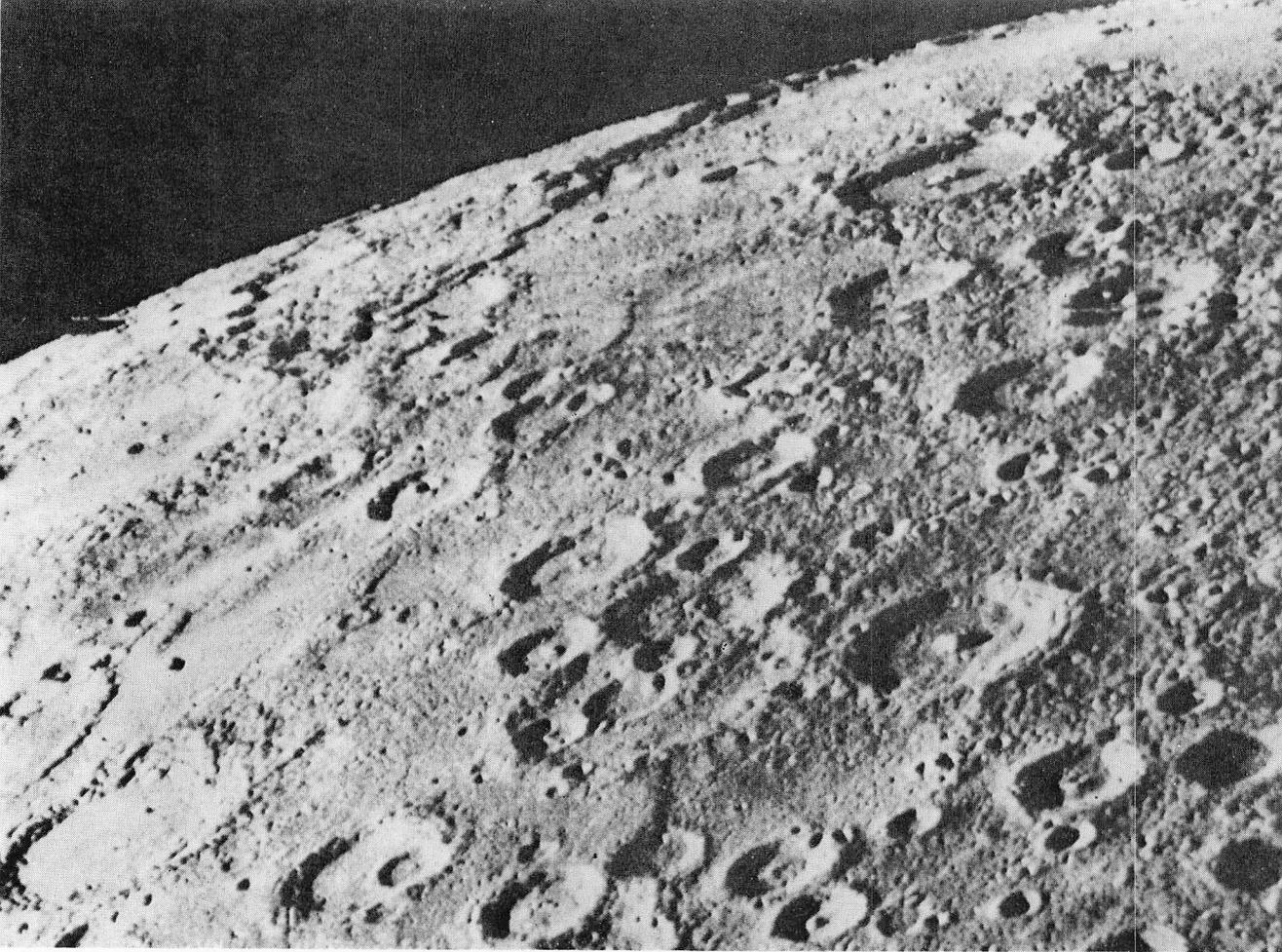
○一九九〇年に東日本が寒冷化のピークに達する。

○一九九五年東日本の冷夏、凶作がピークに達する。

というデータが出ています。この予想通りに寒冷化が進行すると、わが国の食糧問題は今後かなり深刻になるもようです。

### 紀元前2000年のファラオの墓発見

6月3日発表されたところによりますとカイロ南方のファイユム地域で紀元前2000年のファラオ(古代エジプト王)の墓が発見され、中には黄金をびっしりはめ込んだ石と木で出来た三重の装飾石棺と多数の副葬品があり、この石棺の中に一体のミイラが収められていました。



## ●水星の東側

●マリナー10号が水星から78,400キロ接近した位置から撮影した写真で、水星の東側を写している。この写真の底辺は水星の580キロの部分をとらえている。なお、左側の欠損はデータが送られてこなかったためのもので、地形がこうなっているのではない。NASAの発表による。

フアイエム地域では数世紀にわたり略奪が続いています。が、この墓は全然荒されておらず、今回の発見はこの地域での考古学上の発見としては最重要なものの一つと考えられ、ツタンカーメン以来の大発見ともつばらの評判です。

### クロレラは有害物質を浄化する

#### ●ソ連での実験で判明

ニコライ・ミハイロフ氏はクロレラとともに1カ月間密閉されたシミュレーター（模擬装置）の中で生活しその効用などについて実験をしました。この実験はクロレラのはいった30リットルの容器を野原や牧場のような地上の生物圏として代用し実際の生物圏同様、人間の吐き出す二酸化炭素（炭酸ガス）を吸い、逆に人間の酸素を提供し一部を食用にも供する形で行なわれました。

実験されたモデルはシニールと名づけられましたが、そのシニールは円筒型の容器で1立方センチ当たり8、9億個までの細胞が増殖できるよ

うになっており、また光化学反応を起こさせるため強い光が射し込むようにしてあるものです。実験では、尿を浄化するミネライザーの助けを得てクロレラが働き人間の吐き出す二酸化炭素を20日間で15回酸素に変えたり、クロレラと人間とからメタンと一酸化炭素が出てきたりしました。しかし一酸化炭素は3日目に増加が止まったことからクロレラが有害な酸化物を吸収したと説明されています。メタンも12日間でクロレラが吸収し自分たちの生活圏を浄化するように働きました。これら1カ月間にわたる実験の結果、科学者たちは「この実験で一番喜ばしいのは、クロレラに老化の兆しがみられなかったことだ」と語っています。

### レーザー光線でウラン濃縮

カリフォルニア大学ローレンス・リバモア研究所はレーザー光線を使って核燃料のウラン濃度を効率的に濃縮する実験に成功しました。これは6

月13までの4日間サンフランシスコで開かれた第8回量子電子工学国際会議で明らかにされたもので従来に比べ10倍近い効率で経費も1/4以下に削減することが期待できるといいます。

### ゴキブリ退治に光明

#### ●性フェロモン分離に成功

京都大学のゴキブリ博士・石井象二郎教授（農学部農業研究施設）は小型のゴキブリ「チャバネゴキブリ」の性フェロモン（性誘引物質）を分離し化学構造を突き止め、さらに人工合成に初めて成功しました。石井教授はゴキブリの雄と雌が出会うとき触角を触れ合ったあとと交配することをヒントにし、触角を顕微鏡で見ると形は雄も雌も同じだが成熟した雌の触角1本を切り取ってガラス棒にくっつけ雄の触角に向けてと触れるだけで雄が興奮状態になるのを知りました。

この結果から雌の触角に性フェロモンが含まれていると考え、成熟した雌約37000匹から性フェロモンの分離

を試みジメチル・ノンサコサノンと呼ばれる物質を取り出しました。これを殺虫剤にまぜると徹底駆除に大きな効果を現わすと期待されています。

### 火山発電開発へ

#### ●手始めは硫黄島で1万キロ

通産省工業技術院は新エネルギーづくりの「サンシャイン計画」を推進しているが、火山発電開発を軌道に乗せるよう準備を進めています。そのため火山発電方式委員会（委員長・湯原浩三国立防災科学技術センター情報処理研究室長）を発足させ、初め開発地点として鹿児島県薩摩半島の南50キロの孤島、硫黄島を決め3年後に発電できるように計画を進めています。この計画は世界初の分野だけに成功すれば大反響を呼ぶものとみられます。

硫黄島は島の東側に標高700メートルの硫黄岳の山頂から70〜80度の噴煙を常時出しており地下の浅い所に1000度近い高温岩体があることがわかっていきます。現在考えら

れている火山発電方式は高温岩体までボーリングして地表から水を注水して熱せられた水を蒸気として取り出してタービンを回しますが、島の状況がこの開発方式に非常に適している、島の住民もこの開発を歓迎しています。同委員会はこれで少なくとも1万キロワットの発電プラントを建設したいといっています。

### 八丈島付近の海域が水深20m?

八丈島の北東約37キロ（北緯33度2分、東経140度4分）付近の海域で水深わずか20メートルになっているのを茨城県波崎漁協所属の漁船「第七十八稻荷丸」が漁群探知機で測定したと、7月3日同無線局に報告してきました。さらにこの地点から南へ約10キロの間でも水深が30〜80メートルと浅くなっており同船の僚船もこの付近で水深80メートルを測定しました。

海図ではこの付近の水深は100メートル前後になっているため、海上保安庁は八丈島に寄港中の巡視船「みうち」を

現場に向かわせ、火山活動による異常隆起なのか計測のまぢがいなのか調査するが、近くの航行中の船舶に対し航行警告を出して今度の計測結果を伝えました。

### 焼山、25年ぶりに爆発

新潟県中頸城郡妙高高原町と糸魚川市の境界にある妙高連峰の一つ、焼山（標高2400メートル）が7月28日午前2時52分大きな爆発音とともに25年ぶりに爆発、地鳴り噴煙をとまない、火山灰は裾野から隣接の市町村に約4時間わたって降りました。今度の爆発は昭和24年から25年ぶりのことで、新潟地方気象台高田測候所（上越市）の地震計が27日午後9時38分、東西に8ミクロン、南北に6ミクロンの水平動を記録しました。

### 背中て字が読める

#### “人工眼”が成功

光を失った人々たちにも文字や図形が判読できる便利な装置が開発されました。これは

レンズにとらえた映像をエレクトロニクスによって背中の触覚を刺激する信号に変えるというわが国はじめての“人工眼”として注目されています。この原理は背中に指で大きな文字を書くときに判読しやすいという触覚の感度を応用したもので、人工眼装置のイスにすわり手元のスイッチを入れるとカメラが正面の文字をとらえ、その映像がレンズの後ろに内蔵された光電変換素子で電気信号に変えられ、イスの背もたれの約30センチ四方のゴム板にその信号が伝えられ映像をくまどった部分が軽く背中をノックするというものです。

この装置の開発は東京・大田区の工業技術院製品科学研究所人間工学部の三平和雄部長ら5人のスタッフが昨年春から進めてきました。

1カ月ほどのテストの結果4人の盲人が平仮名が読める程度までになっており、今後この装置の改良と利用者の訓練次第で新聞を読んだり風景を識別できるように見込みで、全国十万人の盲人たちにとって大きな朗報となっています。

います。

**超音波解剖刀で手術をスムーズに**

●ソ連の婦人科学者が発表

ロンドンで開催された音響

学国際会議で、ソビエトの科  
外医は1秒間に7万5千回震  
動する超音波解剖刀を使用し  
て手術していることが報告さ  
れました。報告したソビエト

の婦人科学者ゴリアミナ博士  
によるとこの超音波解剖力は  
解剖する際に生体組織へ与え  
る圧力と患者に与えるショッ  
クを従来のものより5〜10倍  
減らすと共に出血を少なく  
し、今までにないタイプの微  
妙な手術も可能とするように  
なります。またもう一方の超  
音波器具は頭蓋骨折のように  
簡単に治療できなかつた骨折  
部分も接合可能になります。

同博士の論文には震動する  
解剖刀は鋭くなくてよく、あ  
る特殊な解剖刀は傷跡を除去  
したり異なる生体組織を分離  
するのに非常に有効であると  
証明しています。また、先端  
が切枝のようになつた超音波  
器具二つは通常の大きな割れ

目をつくらず、わずか1ミリ  
くらいの小さな切り口で一瞬  
にてき出できるようなると  
いうことです。また、普通1  
時間かかる頭蓋から骨を取り  
出す作業がわずか2、3分で  
可能となります。

**乳ガン・ウイルスを発見か？**

ミシガン州ガン研究財団は  
6月26日「本当の人間の乳ガ  
ン・ウイルス」とみられる物  
を分離したと発表しました。

同財団生物学研究部長マービ  
ン・リッチ博士は分離された  
新ウイルス「734B」がメ  
リーランド州フレデリック・  
ガン研究所で培養、増殖され  
全米6カ所以上の有力ガン研  
究施設で3カ月以内に追試テ  
ストが始められようと語りま  
した。また、同博士は「いま  
や、734Bウイルスはヒト  
由来のものであることはほと  
んど疑問の余地はない」と語  
っています。

**避妊ワクチンが可能に**

米カリフォルニア大学のB

・ショーム博士らは8月30日  
これまでわからなかつた生殖  
器ホルモンの化学構造を解明  
しました。同博士らは「将来  
はこのホルモンから避妊ワク  
チンをつくり、ワクチン注射  
1本で避妊できるようになる  
だろう」と語りました。この  
ホルモン（略称FSH）は脳  
下垂体から分泌される七つの  
ホルモンの一つでほかの六つ  
はすでに化学構造が突き止め  
られているが、これだけは正  
体不明でした。

**ガン再発に新しい治療法発見？**

ガン細胞にウイルスを感染  
させてガン細胞の異物性を高  
め、それによってからだの防  
衛反応を引き出してガンを駆  
逐しようという新しいガンの  
治療法が5月24日、札幌パ  
ークホテルで開かれた日本ガ  
ン学会シンポジウムで小玉孝郎  
北大ガン研助教授が発表しま  
した。

このシンポジウムは人間が  
本来持っている免疫反応を利  
用したガン療法に焦点を合わ  
せて開かれたもの。ところが  
ガン細胞にはそうした細胞内  
に含まれている異物を排斥す  
る力が弱くてガン細胞をみす  
みすのさばらせる結果を招き  
やすいので、ガン細胞を感染  
させることで相乗作用を起こ  
させ免疫反応を活発化させる  
ことをねらったものです。

この理論はネズミの実験で  
はすでに成功を示し放射線や  
化学物質を使う異物療法にく  
らべてはるかによい結果を生

んでいます。しかしあくまで  
動物実験の範囲内のことで人  
間に安全なウイルスの発見が  
先決問題ですが、もしそれが  
発見されれば再発や移転を抑  
えることが可能になると注目  
されています。

**HB抗原は胎盤から幼児に移行し肝ガンの原因に**

ウイルス性の慢性肝炎や肝  
硬変、肝臓ガンの有力原因と  
みられているHB抗原（オー  
ストラリア抗原）に妊婦が感  
染していると、HB抗原が胎  
盤を通して胎児に直接移行す  
るという「垂直感染」の重大  
な事実が発見されました。

発見したのは、東京大学医  
学部の方俊夫助教授（病理  
学）らのグループで昨年10月  
から出産したうちから5人の  
HB抗原に感染している婦人  
について感染テストをしてき  
た結果、陽性であることをつ  
きとめたあと胎児の血液を調  
べると同様に陽性の反応が出  
てきたもの。

幼児がHB抗原に感染しま  
すと肝硬変や肝ガンに移行し  
やすいといわれます。

● 連載科学記事

# 宇宙・引力・空飛ぶ円盤

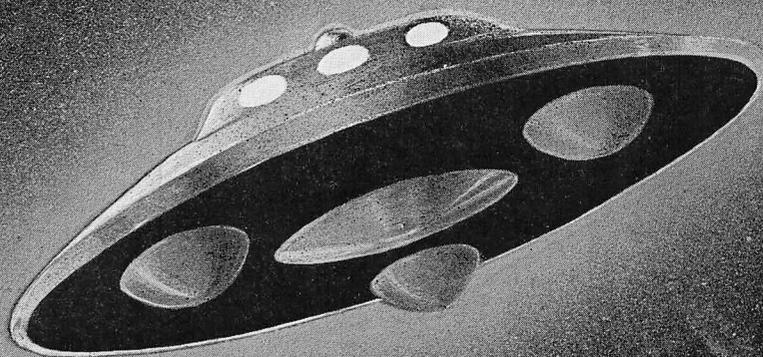
イギリス工業デザイン協会会員

レナード・クランプ

(3)

G 重力のメカニカルな<sup>たと</sup>譬え

H 「創造の一体性」理論



# G 重力のメカニカルな譬え

これまでは宇宙船推進の重力場理論について述べただけで、まだ宇宙船そのものに関して話してはいない。そこでこの際、基礎にもどって重力の持つ諸要素をはっきりさせる必要がある。重力を理解し始めたときこそ円盤が用いている推進原理がわかるようになるのだ。世界中の科学者は電磁気的な現象に関して相当な研究をやってきたけれども、アインシュタインがやった仕事を除いては、その「兄弟」である重力についてほとんど何も解明してはいない。単なる「獣力」によって重力を克服しようとしている航空力学の学者はなおさらである。ここでアラデーがある実験中に電気と重力とのあいだに何かの関係があるかもしれないことを発見したということ、電気エネルギーを応用して重力から直接に「揚力」を得ようと努力したことを述べておくのも興味がある。彼がどこまで到達したか、結果がどのようなになったかはナゾのままだが、一つだけ確かなことがある。電気エネルギーを利用して直接に「揚力」を得る可能性が大であることを彼は知っていたということだ。もちろん現在もこの目的を追求して努力している人が他にも多くいる。この人々は助成を

受ける価値があるのだ。

このような人たちのなかで傑物として尊敬に値する人がいる。本人は盲目で点字も読めないのだが、ダイナミック反重力の完べきな数学的理論を樹立した。その人はドイツ、ゲッチンゲンのB・ハイムである。彼は電磁力を利用すれば地球表面から船体を「反発」させることが可能だと信じている。

この問題に関する高度に数学的な論文は、一九五二年九月にシュツットガルトで開かれた国際宇宙工学会議で発表されたが、すばらしい業績であると称賛されたのである。

科学界においては、ある問題を何らかの譬えによって説明できないものはない。そうすると重力を説明するのによい例があるだろうか？ 次のように考えれば、ある程度真実に近くなるだろう。

空間で手から放たれた物体を何も支持するものがない場合は、その物体が落下しているように見えるということや、ガリレオのピサの斜塔の実験で示したように、真空中のあらゆる落下物は質量に関係なく等しい加速度で地上へ落ちるといふ事実などは別として、重力に関しては

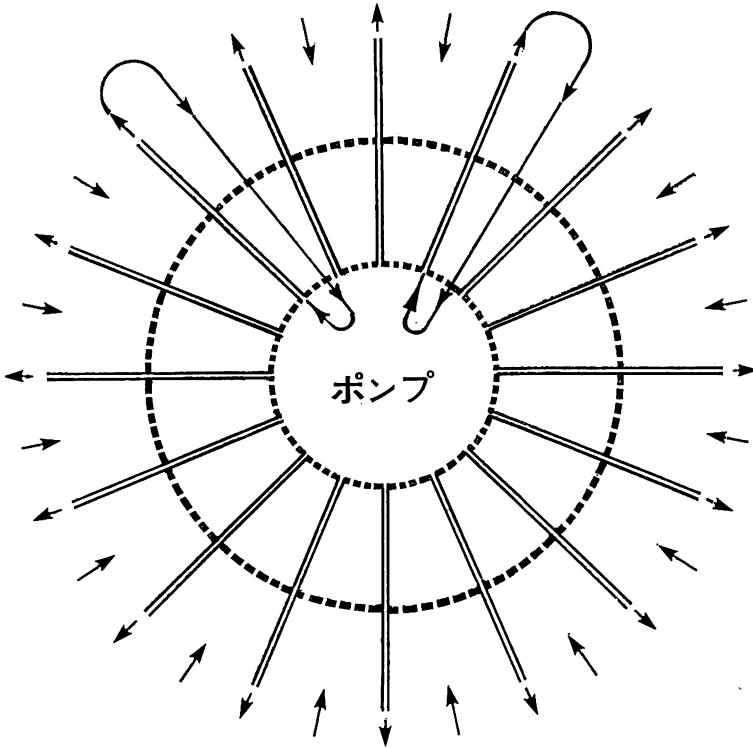
ほとんど何もわかっていない。物体Aが物体B

よりも二倍も多くの原子を持っていて、その両方が自由空間にある場合、二つの物体は互いに引っ張り合い、そのときAはBよりも加速度が大であると言えば、これはまず上々である。しかし両方の物体をつなぐ媒体がなければ、互いにどのようにして影響を与え合うことができるだろう？ たしかに、ちょっと考えてみれば、そこには一種類の加速度が存在するにすぎないことがわかる。これは両方の物体に関係のある加速度であって、両者を釣り合わせる第三の物体は存在しないのだ。

こうした事柄を心にとどめておくと、別なモデルを作って、これにたとえることができる。だがこれはあくまでも譬えにすぎないことを忘れてはならない。そしていわゆるエーテル説を文字どおり受け入れるわけにはゆかない。むしろこれは、この問題に通じていない人が考えをすすめる段階の一つとして述べるものである。

重力というものは地球の表面から中心部に至るあらゆる地点を通じて作用することをわれわれは知っている。また、地表に深い穴を掘ってその中に物体を落とせば、落下してゆく、とい

### 第7(a)図 ポンプによる重力の説明



うよりもむしろ加速されてついに穴の底に達するということも知っている。もしこの穴が地球の端から端まで貫通していれば、物体は中心部に達してから、はずみでそこを通過し、どこかで停止してからまた中心部の方へ加速されて返ってくる。こうしてこの振幅はしだいに小さくなるが、これは磁場における針の動きとよく似

ている。そこで、この条件に合うようなモデルを作ってみることにしよう。ただし今述べた振幅は除くことにする。

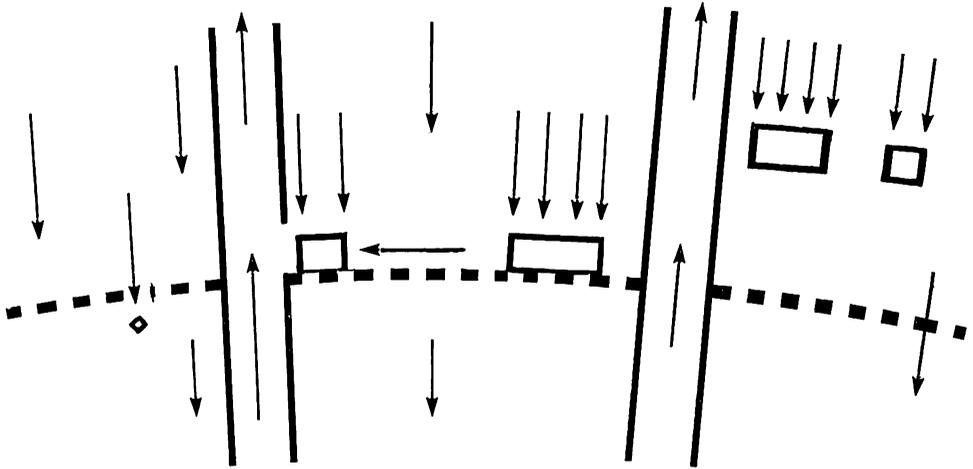
多くの穴のあいた球体を作り、その中に吸い上げポンプを置くことにする(第7(a)図)。それから全体を水の中につけて、ポンプを作動させ

ると、ポンプの吸水孔の位置している球体の中心部の方向へ向かって表面の多くの穴から逆放射状に水が吸い込まれる。ここで明らかになるのは、水の分子が球体に接近したとき、区域がせまくなるために、速度が増加するということである。しかもこの速度は球体の周囲で一様に増加するのである。

ここで小さな物体、たとえば水に半分浮かぶ木片のような物を周囲の水につけると、これは水流と共に移動し、速度を増しながら球体表面に向かい、やがて表面で止まるか、または穴を通り抜けて「落ちる」だろう(第7(b)図)。更にこの実験を続けて、今度は木片を二個用意して、その一つは他の木片よりも面積が二倍あるようにする。すると質量が異なるという事実にもかかわらず、両方の木片は同時に球体表面に到着するのである。もちろんこの理由は、大きい方の木片が、動く水より大きな範囲に接しているからである。実際、これと同じことは小さな流れの中のどこでも起きる。この実験を何度くり返しても、結果はいつも同じである。穴を通過することのできないもっと大きな木片ならば、われわれが地表にへばりつくのと同じように、球体の表面に「へばりつく」だろうし、小さい木片ならば孔をすりと通り抜けて中心部へ向かうだろう。

さて今度はこのような球体を二個用意して、並べたまま水中に沈め、それが自由に動くようにしておく。すると天体間の見かけ上の吸引

第7(b)図



作用みたいに、互いに相手をつ張り合うように見えるだろう。もちろんこの場合は両方が引っ張り合っているのではない。それらは周囲の水圧によって動かされているだけである。

以上の譬えはよいが、ここからどういうふうにするべきだろうか。この譬えが、もっと役立つだろうか？ 重力の話にもっと別な面があり、それがポンプの他の面に類似していると仮定できないだろうか？

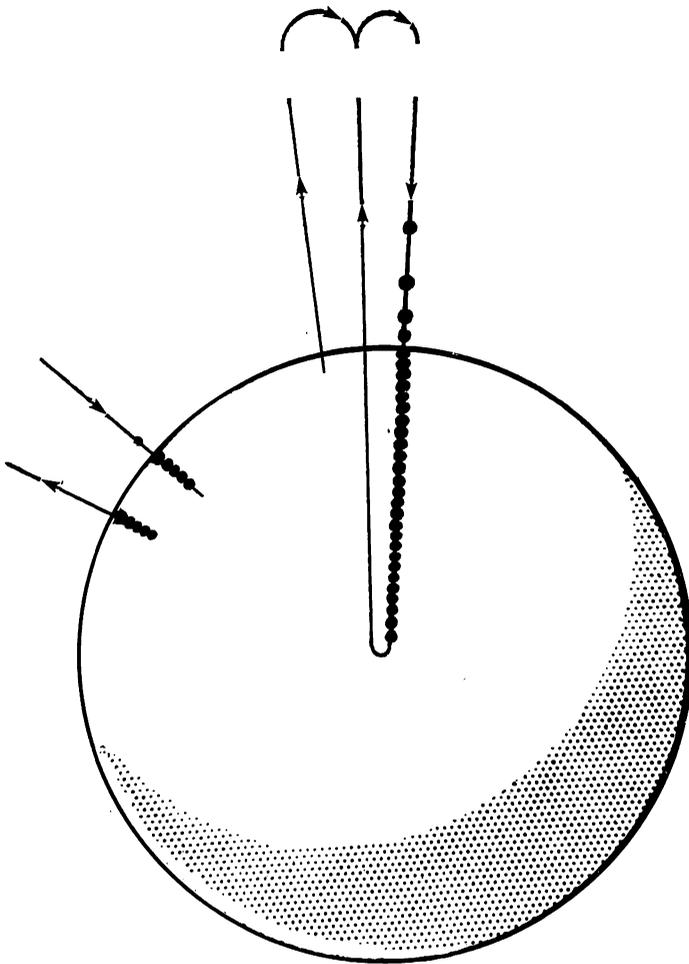
前述の球体を作るときに中心部にポンプを置いて表面の多くの穴から内部へ水を吸い込ませるようにしたが、この場合はどこかに排水孔をとりつける必要がある。これは第7(a)図に示されるような一本の大きなパイプか多数の小さなパイプでいいだろう。これにより球体から放射状に水を噴出する。これらのパイプが一定の長さですべてが水中に完全に沈めてあれば、図の各線に沿って絶えまない噴出が起こる。もしポンプの吸入孔に目のこまかなフィルターが置かれれば、水の循環運動は行なわれても、大きい方の穴を通過して

“落ちて”来る小さな木片は循環しない。したがって、水の絶えまない循環はあるが、木片は“片道キップ”にすぎなくなる。

これでは全然おもしろくない。そこで球体の表面から木片を取り除いてやりたいが、かなり強い力でしっかりとそこに押えつけられている。これを除くには二つの方法がある。木片の下部に何かを取り付けて、水圧にさからってそれ自体を球体から離れさせるのであるが、これはかなり不細工なやり方だ。あるいは最も近いパイプの中に小さな“ドア”を取り付けて、木片に“往復キップ”を与えてやってもよい。もちろんこれは最も容易なうまい方法だ。

これまでに説明したように、小さな木片が球体に引かれるという現象はそれでよいが、循環する水の代用に何をもってればよいか、ということになる。前述の譬えがうまくあてはまるとすれば、水にかわる物を探さねばならぬ。そこで、ほぼ唯一の物として心に浮かんでくるのが目に見えないエーテルである。すると多くの疑問が起こってくる。最も重要なのは、エーテルが存在するとすれば、それがあらゆる物質とは無関係に存在するということがわかった場合に、固体に対してどのように影響を及ぼすかということである。前述のモデルで示されたような循環運動をエーテルが行なうだろうか？ こうなると球体の譬えはもう役に立たないように思われるが、実はわれわれがまだ考え及ばなかった、エーテル説にやや似た別の説があるので

第7(c)図



ある。しかしこの二つの説は簡単なるがゆえにさほどかけ離れたものではないので、しばらくのあいだエーテル説を続ける方がよいだろう。そこでエーテルが存在すると仮定して、しかもそれが一個体の中心部の方へ向かって絶えず流れているとする。電子はエーテル中の結び目であるというオリバー・ロジの説を借りて、この結び目が絶えず結ばれつつあると仮定しよう。言い替えれば、エーテルが焦点の中心に動

くにつれて、エーテルの圧力に似た現象が起り、そのために中心部で何かが起こるのがわかる。だが一体エーテルが電子に物質化して、それがあらゆる物質の「原料」になるということがあり得るだろうか？ たぶんあり得るかもしれない。だが話を続けることにしよう。

この無限のエーテルの海が焦点に集中すると、電子群が形成される。するとそれらが今度はエーテルの循環をともなった小さな世界とな

る。この循環はある程度原子のもつ吸引と反発の特性に関連があるのかもしれない。

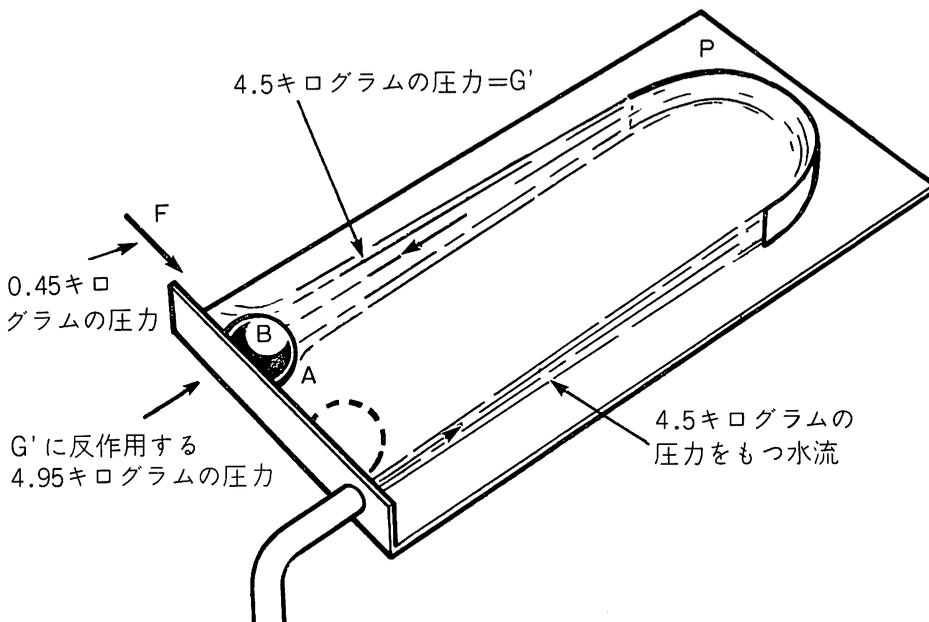
さて、電子はエーテル中の結び目であるので内部へ向かう流れのために適当な位置にとどまるけれども、それにもかかわらず、結び目にすぎないために他の力が加わって動かされる。そして逆説的に言えば、それはエーテルの一部ではあるが、しかもエーテルから独立しているものである。

しかし例の「往復キップ」のイメージをどこへあてはめればよいだろうか？ エーテルも「帰るための動き」を行なうと考えてよいものか。そして、例の小さなドアを持つた循環パイプはどこにあるだろうか？ ここでヒモの理論に戻って、第7(c)図を調べてみることにしよう。この図ではヒモは無限に長い輪のように見え、その片側は地球に向かっており、片側は外へ向かっている。これは先に述べた水のモデルに似ているが、この場合は平面にすぎない。ヒモに結ばれた結び目は、先行する各結び目にさからう吸い込み流水により、適当な位置に保たれる。そのために次の輪の、重なった吸い込み流水により「帰りの旅」ができなくなる。これは譬えとしては限度であろう。しかしエーテルとなると異なってくる。結び目はエーテルの一部ではあるけれども、独立していると言ったことを思い出していたきたい。この場合の問題は外向きの通路を発見して、それらをふたたび結び目に変えることにある。そうなると別な譬えを持

ち出さねばなるまい。

第7(d)図に示されるような簡単な装置を考えてみよう。摩擦はすべて無視するものとする。物体Bが図の位置に静止している。一方には水の噴流があつて、曲がったプレートPの方向に流れている。そして曲げられた水流はBにつきあたり、約四・五キログラムの圧力を加える。今、水流の運動エネルギーは、Bにあつて散るときは同じ力をもつ。物体はBを噴流の方へ動かすには比較的小さな力Fだけがあればよい。Bは四・五キロの力で逆方向に作用する。(注||作用・反作用の法則)。言い替えれば、ひとたび重力の「もう一つの極」を発見できれば、かなり大きな質量を地球の表面から動かすのに、きわめて小さな力しか必要としないということになるのである。このような物体を「持ち上げる」のに必要なのは、それを一つの「道」から他の「道」へ動かしてやるだけのエネルギーである。比較のた

第7(d)図



めに、第7(e)図ではこのエネルギーが「燃料」という言葉に変えてある。ここではヴェルナー・フォン・ブラウン博士の三段ロケットを用いて、三六トンの積載量を一定の軌道に乗せるの

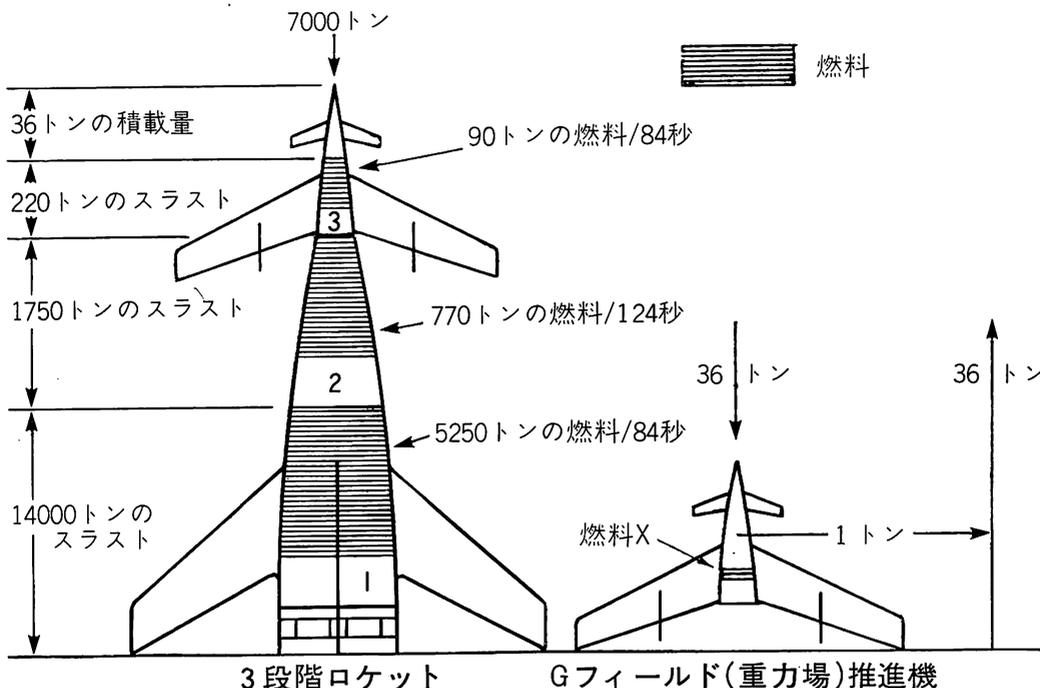
に必要な一一〇トンの燃料消費が示されている。

この問題は、一平方フットあたりの一定数のユニットを動力に利用する問題に返ってくる。たとえば下降の方向でX個のユニットによってポディーが作用を受けるとする。すると、そのポディーを「無重力状態」にするためには、同じ数の「上昇」ユニットを動力に利用しなければならぬ。つまりマイナスの力とプラスの力が相殺し合うのである。この面方がアンバランスになったとたんに、上昇と下降の運動が起ってくる。しかも、磁石の中を力線が通過するのと同じように、ポディーの中へ無数のユニットを通すならば、もっと大きな力がポディーに作用するだろう。言い替えれば、先に述べた譬えて無数の吐き出し流水をつくるのと同じである。

この理論は主として惑星の「反発力」を扱っていることが明らかである。これは完全ではないと思われるだろうが、一応先へ進むことにしよう。

あらゆる方向にこのような吸い込みフローを持つ原子が空間にあると考えれば、存在する慣性に似たある状態を想像できる。あらゆる「フロー通路」が互いに相殺し合うかまたは弱め合うからである。だから、もしこの譬えがその理論的な結論に近いとすれば、われわれが一般に慣性とか重力と呼んでいる状態も一つの同じ事にすぎない。そこで次のようになる。その「フ

第7(e)図



ロー通路”をコントロールできれば、バランスのとれた状態をアンバランスにし、運動を引き起こすことができるのである。この状態になると、物体は自由な“重力場”に沿って運動するだろう。

今までに述べた種々の譬えはわざと簡単にしているが、これは今世紀で最も魅力的な問題に関心をもつ人のすべてに、なるべく理解しやすいように理論を示そうとしたからである。各種の譬えは基本的なものにすぎない。実際にはもっとはるかに深い意味が含まれている。したがって、ここでは少数の事柄に限定する必要がある。しかしこの理論を展開するにつれて、動かない物体を地球の表面から浮揚させるのに、もっとすばらしく有効な方法があることがわかってくるだろう。

読者のなかには、このエーテル理論の応用は現代の考え方に反していると言う人もあるだろう。エーテル理論が長いあいだ見捨てられてきたことは事実だが、筆者は譬えとしてエーテルを例にあげただけで、これを文字どおりにとつてはいけない。机上の結論に導かれた基本的な理論に対しては、それに関連のある複雑な推測がはいり込むだろうが、これは筆者が避けようとしていることである。しかしわれわれが専門の分野にはいる前に、もっといろいろな推測を要する別な段階がある。次のようにしておくのも興味がある。筆者は宇宙飛行のもっとも

実用的な方法を意味する理論を発見しているが、他人が空飛ぶ円盤の現象を解説する場合に筆者の理論との類似点が目についたならば、まったく異なる見地から類似の理論を樹立した人々が他にもいるということなのである。こうした各理論は原理がほとんど同じであるという事実は、筆者の推理に多少とも真実味があると考えてよいと思う。

## H 「創造の一体性」理論

すでに述べたように、アヴネル氏は自説を要約してくれた。円盤に関する氏の見解は氏自身の発見にもとづくものであり、この問題について筆者が氏に依頼したときよりもかなり以前から出されていたものである。以下はアントニー・アヴネル氏の「創造の一体性」理論である。

× × ×

科学誌における最近の投書を見ると、多数の読者はアインシュタインの相対性理論やその一連の理論よりもっと「やわらかい」理論を求めているらしい。アインシュタインの見事な計算や理論が誤っていると言う人は少ないが、そ

筆者の理論を支持する最も興味深い理論の一つに、英国ヨークシャー、スカルビーのアントニー・アヴネルによる「創造の一体性」理論がある。彼はそのテーマに多くの時間と思索をついやした。当然、その理論は筆者の考えよりもはるかに深遠である。筆者はアヴネル氏がその原理の要約をこの記事に引用することを許可されたことに感謝する。また、まったく異なる方

れにしても一般人には理解しにくいのである。

アインシュタインの理論の「心像」を描くことは一般人にはできない。この理論が心像を描かせるような形になっていないからである。新型飛行機のテスト性能表を見れば、その飛行機の性能について多くを知ることができる。しかし数字だけではその機体の型が美しいか不格好かを想像することはできない。

アインシュタインの理論は時代を先走りすぎた。たとえば物体がその運動の方向に沿って短縮するということを証明した正確な計算は、その短縮が起こる理由が説明されないうちは場違いであるように思われるのである。

今までにあまり多くの数学的なはめ絵パズル

法で問題を解決しようとする、完全に公平な立場にある諸理論と筆者の諸発見とを比較するとこそ、自説を裏付けるのに最上の方法であると考ええる。

アインシュタインの相対性理論と「ローレンツ短縮」が、この記事のテーマに重要な要素を帯びてくる。アヴネル氏の理論の一部分は次章で要約されて精彩を放つであろう。

があつたし、たぶん正しいものなのだろうが多くの公式が作られてきた。しかしそれらは知識人に対してさほどの意味もなしに、ただそれだけで存在しているのである。

### (1) マイケルソン＝モーレーの実験

この実験は地球がエーテル中を運動する速度を発見することを目標としたものである。

(注) 光の媒質としてエーテルを想定し、地球の公転運動の方向とこれに対して垂直な方向とで光の伝播速度が変わることを確かめようとして、一八八七年に米国の実験物理学者マイケルソンとモーレーが第二回の実験を行なった。この結果光速速度に差のないことがわかり、エー

テルの存在が否定され、相対性理論が生まれる契機となった)

科学者は弾性体から希薄なガスに至るまでエーテルの理論をあてはめて考えてきた。もしエーテル中を通過する地球の速度が決定できるものとすれば、地球が黒砂糖のようなかたまりの中を骨折って進んでいるのか、それともニオイのような希薄な物質の中をただよっているのかを知ることができるようだろう。

このマイケルソン＝モーレーの実験、または似たような実験を信頼している人は、エーテルとはガスのような三次元物質であるというふうに考えているが、これは誤っていると思う。エーテルが物質であるとすれば、その中を地球が進むにつれて、測定可能なエーテルの渦巻ができるはずである。

マイケルソン＝モーレーの実験の結果、エーテルは存在しないし、存在したとしても地球はその中を動いてはいない、ということがわかった。だがこの結論はどちらも疑わしいもののように思われる。観測されるあらゆる天体が動いているのに、地球が空間に静止しているわけではない。また、エーテルが存在しないというのは考えられない。というのは、空間を光が通過する現象を他に説明しようがないからだ。

以上の実験結果のいずれも好ましいものではないので、後述の部分でマイケルソン＝モーレーの実験は実際には肯定的結果を出したと、空間を進行する地球の運動方向における測定棒

は、見かけ上の長さから肯定的結果を抹殺するのちよほどよいほどの量だけ短縮したということとを述べておく。ポイントはもちろんあらゆる物質は進行方向に対して短縮したということであった。この考えられる短縮はマイケルソン＝モーレーの測定棒に限られたものではなかったのである(ローレンツ短縮V)。

(注)ローレンツ短縮は、オランダの物理学者ローレンツが一八九二年に出した、高速で動く物体は運動方向に短縮するという理論)

一見してローレンツ短縮は作られた不自然な理論のように見えるが、この関係式を研究した人はこの短縮が実際に起こるものとして認めねばならないことに同意されると思う。

統一場理論がローレンツ短縮の起こる理由を示している。

## (2) 「創造の一体性」理論

近頃、物理学界で示されている関心のおかげで、私はこの問題に影響を与える理論のアウトラインを出すことができた。この理論はアインシュタインの各理論によって導き出される現象が発生する理由を説明するものである。大体、「時間とは何か」「なぜそれが遅れるのか」が説明されないで、宇宙空間を進行するときには時間が遅れるとか、進行する速度に比べて時間がどれくらい遅れるとかを教えられるのは納得できないことである。

以下の説明はかなり独断的で極端に簡単に述

べたもので申し訳ないが、この理論のアウトラインのみを書くことにとどめた。

この理論は、物理現象において研究をすすめれば次々と一体性を発見するという事実の究極の結果をまず論じるものである。人間は、全宇宙に一つの基本的な構成材料の存在することが遠からず証明されることを予期してよい。私はこの理論を完全に証明できる充分なデータを持っているとは言わないが、この予測は紀元二〇〇〇年までに証明されるという徴候は多くある。

私がここに持ち出した理論は、エーテルと宇宙空間は同じものであるということ、空間は超高周波数の波動のグリッドによって——たぶん $10^{13}$ センチメートル以下の波長であろう——“無”から形成されている、ということなのである。宇宙空間は“無”とは区別されねばならない。空間は——それがカラッポであるとしても——長さ、幅、厚さ、時間などの性質を持っている。“無”はこのような性質を全然持たず、いかなる物質も波動をも維持できない。言い替えば、宇宙の創造は“無”から空間を作るというかたちをとっているのである。そして空間を作るために用いられる手段は放射線の網またはグリッドなのであり、私はこれを“創造波”と呼んでいる。

## (3) 宇宙の外側

“宇宙”は万物を創造する空間であるという

意味にとれば、宇宙の境界の外側には何も無いことになる。外側に無限の空間が広がっているという宇宙の境界の存在説は起こりようがない。「無限の宇宙」というのは表現に矛盾がある。宇宙は容積、境界を持つのであって、無限であるはずはない。創造の手は宇宙の境界の外側にある「無」にまで触れてはいないのだ。その「無」は容積を持たず、それゆえに境界もないのである。

これを別なふうに説明すると、宇宙空間はプラスの創造物であるが、一方「無」は空間の存在しない状態であるから、完全にマイナスである、ということになる。

人は種々の明白な理由により「無」を心に描くことはできない。これは認める必要がある。もしだれかが「無」の状態を人間の体験と結びつけようと思えば、その人は空間と時間について持っていたものよりも、「無」についても多くの何かを持っていたと言えるだろう。それは本人が生まれる前に体験したか、または（この世で）体験しなかったことである。

宇宙空間またはエーテルは、一つの源泉からあらゆる方向に放射される創造波によって形成されている。この波動のいずれも源泉から出てまた源泉へ返って行く回路にしたがっている。そして各回路はたぶん同じ大きさである。こうして球型の形をした境界を持つ宇宙が作られ、宇宙内にどのような位置が占められようと、創造波はあらゆる方向に進行し、源泉へ向かうの

である。

「源泉」という言葉によって、私は創造波が各回路で一方方向のみに作用すると言うのではない。その作用は交流的なものかもしれない。

#### (4) 光は創造波の変形

周波数がどのようであろうと、目に見えようが見えまいが、検出できようができませんが、あらゆる放射線は創造波の変形である。これは高周波電波が音楽の旋律によって変調されるのと似ている。電波の搬送波が多く個々の音によって変調されるのと同様に、エーテルも異なる周波数をもつ各種の波動を等しい二点間に伝えるのである。

放射線または変調波は、常に三次元の物質の干渉によって引き起こされるように見えるだろうし、他のこのような物質に出会う場合に起きる結果にすぎないように思えるだろう。だが一放射線が空間を進行するとき、それは創造波のわずかな変調または干渉にすぎないのであって、重要なことではない。

#### (5) 物質

原子はあらゆる固体、液体、ガスの構成物質である。そして各原子は周囲に電子が回転している原子核から成っており、原子核と電子との距離は原子の種類によってさまざまである。私は原子というものは基本的には固体ではなく、三つの次元における創造波の変調されたものか

ら成り立っていると思う。変調波は通常その源泉から創造波の源泉を直指してあらゆる方向に進行する一放射線であるが、原子を形成する変調波の統合されたものが三つの次元内にいっしょに閉じ込められているのである。この「閉じ込め」のために各変調波が放射線として勝手な方向に進行できないのである。原子エネルギーの解放が、原子と放射線間の密接な関係を示してはいないだろうか？

私が指摘したい主要点は、放射線と原子はいずれも創造波の変調波であるということである。前者は単一の変調波であり、後者は複合した静的な変調波である。

ある点で、原子はなめらかに流れている水流の中へ棒を突っ込んで起こす波紋にたとえてよい。原子は見かけ上は同じ状態のように見えるが、実は絶えまなく変化する媒体から形成されつつあるのである。これが正しいとすれば、宇宙はくまなく同じ媒体から作られていることになる。そして地球と火星間がカラッポのように見えても、そこに実際には連結媒体が存在するということになるのである。

#### (6) 時間

時間というものは創造波の振動が人間の心に与える影響であると思う。われわれの脳や体を作り上げている原子群は創造波から作られたものであるとすれば、創造波の交流に気がつかないわけにはゆかない。われわれは空間から逃げ

出さない限り、言い替えれば存在することをやめない限り、時間からのがれることはできない。

われわれは空間内の一定位置から時間内の前後を見ることは不可能である。もしわれわれが光速で進行して「時間について行く」とすれば三次元的な存在ではなくなり、観察はできなくなるだろう。いずれにせよ、自分が空間内の異なる場所にいることになるだろう。それでわれわれは未来に起こることを予見できないし、過去に起こったことを見返すこともできないのである。

### (7) 時間の交流性

もしわれわれが非常な高速で進行するとすれば——光速に比例して——進行方向における創造波の周波数は増大するだろう。これは創造波の振動に対して相対的に進行しているからである。そうすると、自分の基本的時間の周波数が増大するという結果によって、ドップラー効果に似た何かが起こると考えられるのである。

(注)ドップラー効果は、オーストリアの物理学者ドップラーが発見した現象。波動の源に対して相対速度をもつ観測者が測定する波の振動数はその相対速度によって異なるという現象で、音のドップラー効果と光のドップラー効果の二種類がある)

われわれはこれを(ドップラー効果に似た現象の発生を)知覚しないだろう。なぜなら創造

波の周波数はわれわれの唯一の時間基準であり、この基準を測定するための対照物が近くないからである。しかし静止している観測者は、光線によって、自分の時間と他人の時間のあいだの相違を算定できる。相手は「おまえの時計は私の時計にくらべてゆっくり進んでいった」または「おまえの基本的時間の周波数は私の時間の周波数よりも速かった」と言うだろう。

時計の時間というものは基本的時間の振動の数をかぞえる人間の手段である。たとい基本的な時間の周波数が増大しても、時計の時間はやはり現在のままの一〇〇万パルスまたは二〇〇万パルスを打つ。そして時計の時間は進み方が半分になったように見えるのである。

人間が宇宙船に乗って高速で宇宙旅行に出たとすると、地球を出発してから二〇年を要しながらも一、二歳しか年をとらないのだと考える人もある。だが、これを基本的な時間空間を応用して計算すると、体におよぼす影響や心に与える印象は、地球時間の二〇年分のそれに相当し、このきわめて不便な方法で永遠の若さを楽しむことはできないことがわかるのである。

### (8) 長さの短縮

一個の原子が創造波に沿って運動するとすれば、前述の増大した周波数は創造波のより短い波長を生み出し、このために原子の大きさは進行方向に沿って短くなる。

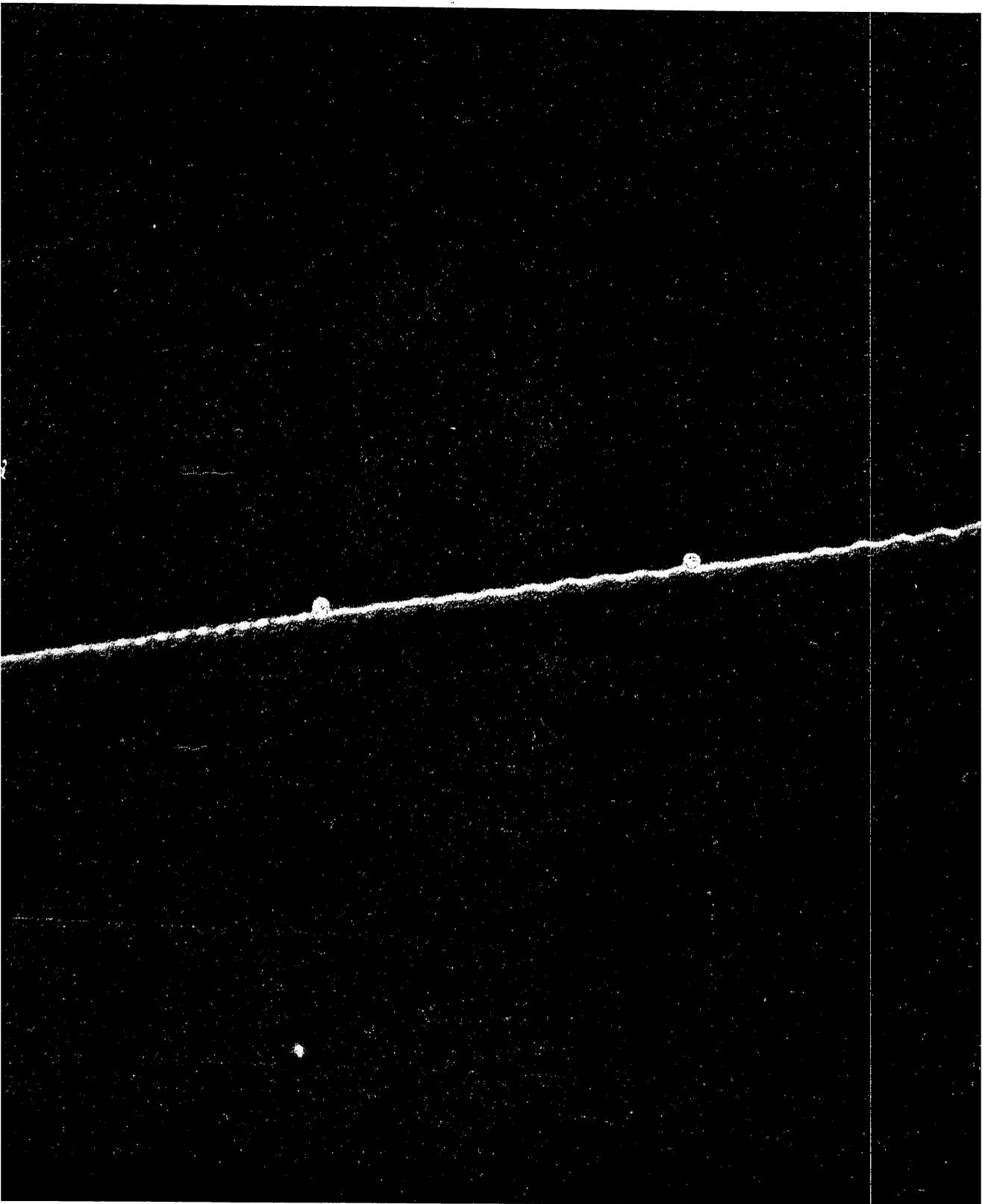
簡単に言えば、一物体の物質の長さは創造波の波長によって決まるのであり、一方、基本的時間は創造波の周波数であると思う。そうすると、「波長×創造波の周波数」は、物体がどのようなスピードで進行しようとも不変のままにある。これは周波数が増大するにつれて波長が減少するからである。物体の長さも基本的時間によってできる産物は、その物体の速度の影響を受けない。そして時間と物体の大きさの概念をわれわれの心に与えるのはこの産物なのである。

創造波は「存在」または「存在の可能性」を与える。そして時間と空間はその与えられたものの一分割である。分割がどのような大きさでなされようと、全体は不変のままである。

### (9) 放射線と物質は偶然的なもの

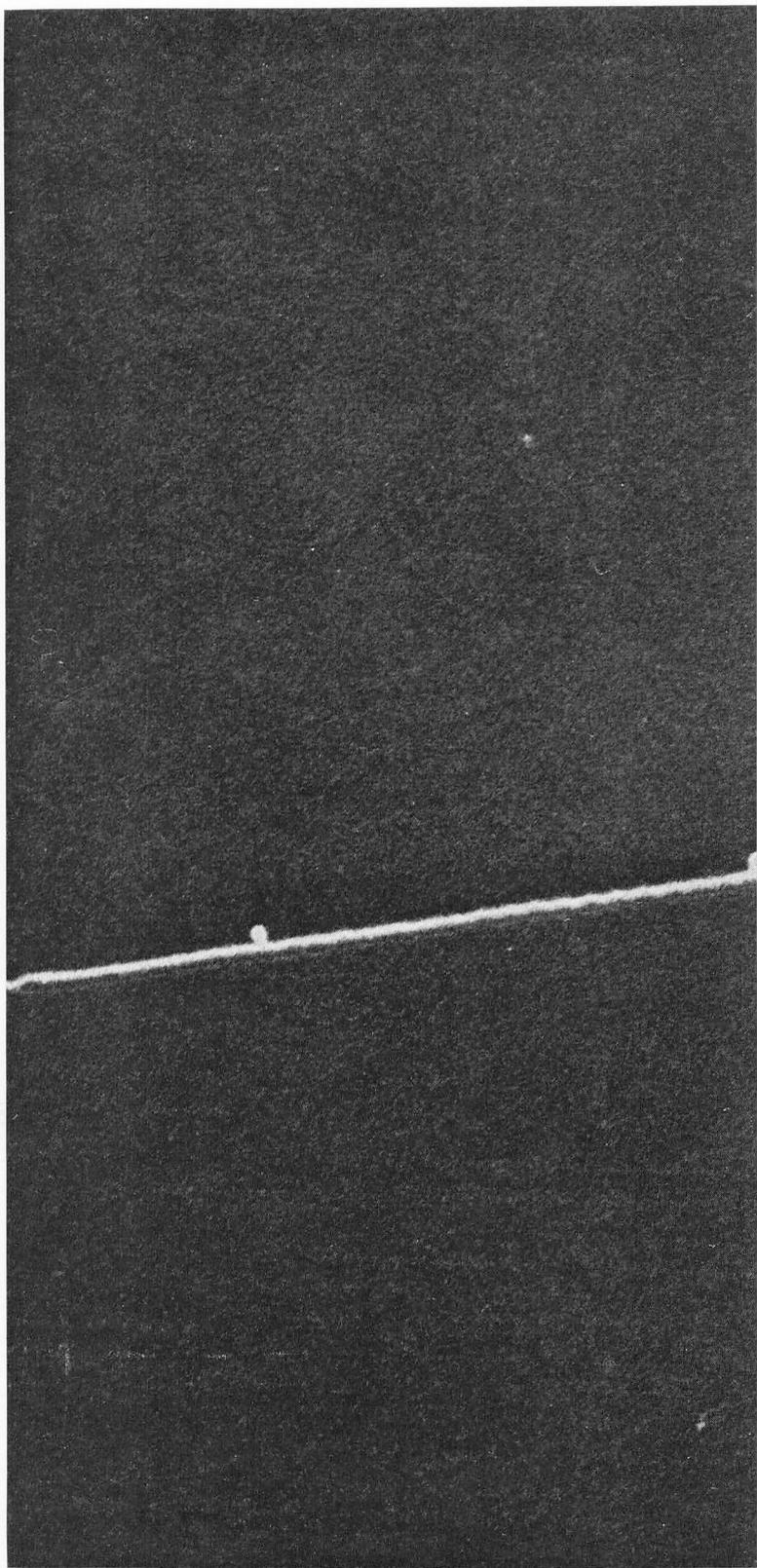
次のように言う人がある。「光はそれを伝えるエーテルなしに空間を進行する」という説を認めたいのと同様に、創造波が「無」を通じて進行するというのは信じがたい」

私の回答は次のとおりである。この理論は、創造波は偶然に空間を生み出したのではなく、永久的に生み出したことである。すなわち創造波の起因は一放射線の起因のように偶然なものではない。この理論は、いわゆる放射線と物質は偶然的なものであり、創造波の一時的な変調波または干渉であるという説を打ち出したものである。懐中電灯にスイッチを入れよう



## ●宮崎市のUFO

●今年6月24日午後8時55分頃、宮崎市南町の自宅で星を撮影中の湯浅芳彦君（17歳・日大高3年）は、西より北北東へ無音で飛ぶ不思議なオレンジ色の飛行体を発見し、すぐにカメラで連続4コマの撮影に成功した。右の写真はそのうちの1コマで、4個のコブのようなものは、物体が回転しながら飛行するとき時々光の強い点滅が見られたが、それが一定間隔で写ったものであるという。このときは両親も同時に目撃した。目撃継続時間は2〜3分程度。（キャノンFP・200mm望遠レンズ・絞り開放・露出は約7秒・SSS）



とするたびに特別な創造作用が必要だということとを考えるのは不合理に思えるかもしれない。しかしスイッチを入れる人はその動作によって、永久的に存在する創造波をわずかに変調し得るのであり、その結果、可視的な光という一時的な現象が発生するのである。

### (10) 重 力

空間に二つの物体が存在すれば互いに引っ張り合うという説は一般に認められている。私はこの説は誤っていると思う。一物体が別な物体を引っ張るような放射線を出すことは不可能である。また放射線以外に引力を持つ別な物も存在しない。放射線はその進行方向にある物体にわずかな圧力をかけるが、引っ張ることはしない。

別な理論によると、重力は増大する速度のために発生するという。そして速度が絶えず増大しながら上昇するエレベーターによくたとえられる。このエレベーターに乗っている人がエンピツを手から放すと、その人にとってはエンピツがエレベーターの床に落ちるように見える。そしてその人はエンピツが床に引き寄せられたと考えるかもしれない。これが正しい理論だとすればなぜ重力は一方向以上に作用するのだろうか？ これに答えるには、私にとって、きわめてもっともらしい修正を要する。

一体性理論では重力を、創造波の源泉へ向かう一放射線の自然な進行の物質的な現われとみ

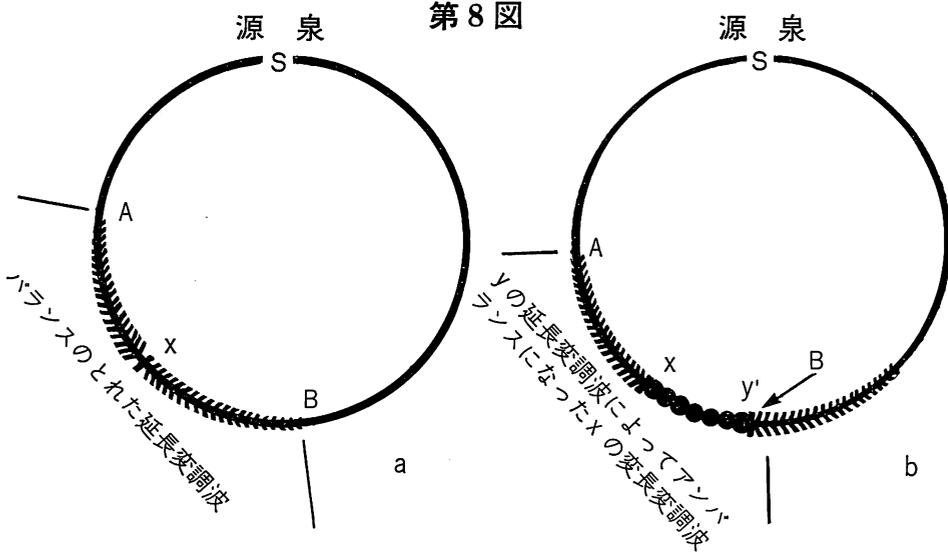
るのである。原子を形成している変調波（複数）がしきりと分裂したが、三次元的な束縛を破ろうとし、S極の方へ向かう普通の放射線のように、あらゆる方向へ進行したがるのである。

第8図のaを見れば、Sは創造波の源泉をあらわしており、円は一本の創造波の回路をあらわしている。xは図で示される創造波の中間変調によって形成される原子の位置をあらわす。他の面にも創造波群があるのだが、図ではあらわせないし、もちろん一定の比例で描くこともできない。

いま一放射線として作用し、AとBと他の次元を通してSへ進行しようとするxの動きはxの三次元的な力によって消される。創造波の変調波群はAとBにおける実際的な目的を目指して出発するが、xが与えられるまでは他の次元に存在する変調波群と結合しない。光線の形をとっているこれらの予備的な変調波をこれからは「延長変調波」と呼ぶことにする。そのなかには測定できる周波数もあるし、あまりに高周波であるために測定装置にかからないものもある。

さて、xは干渉を受けない限り、やはり空間にとどまっている。Aを通してSへ行こうとする傾向は、Bを通してSへ行こうとする傾向によってバランスがとれている。他の面を通してSへ行こうとする傾向もバランスがとれている。しかし第8図(b)に見られるように、もしy

第8図



の地点で（xの延長変調波が実際的な目的で消えてしまうまで）別な原子が作られるならば、xの延長変調波はxとyのあいだで干渉を受けてアンバランスになる。Aの方向にあるxの延長変調波は変わらない。そうするとx Aとx B

はバランスがとれなくなり、そのために  $x$  は  $y$  の方へ移動する。 $y$  もニュートンの諸法則に従って  $x$  の方へ移動する。

$x$  は  $y$  の方へ動くけれども、それは  $y$  によって引張られたのではない。これは太陽の光が地球に引張られるのではないと同様である。(ここで私は一物体と一放射線間の、ほとんど無視してよい重力は無視するものとする。太陽の光が地球へ向かって進行する理由は、光と地球間の相互の引力のためではない)

$x$  は  $y$  を通って  $S$  の方へ動いて行く。

#### (1) 磁 気

一個の磁石の  $N$  極が他の磁石の  $S$  極を引き寄せたり、別な磁石の  $N$  極に反発したりするような放射線を放射することはあり得ないと私は思う。

一磁石の進行方向は別な磁石にあるのではなく、 $S$  (源泉) の方である。鉄の原子群のなかには整列されているか、または整列され得るものもあるので、延長変調波群はすべての次元で同じではない。このシンメトリーの欠如は電気的な手段によって修正することができる。強力な重力場から除かれた一個の磁石がひとりで空間を移動することは充分に考えられる。地球の表面または付近にある磁石は地球の重力場のために動けない。すなわち、ひとりで空間を移動することはできないのである。もし磁石  $A$  の逆な極か鉄片が磁石  $B$  の近くに置かれるなら

ば、見かけ上の吸引現象が起こる。しかし実際に起こるのは重力に似た現象である。磁石  $A$  は磁石  $B$  か鉄片に接するまでは  $S$  の方に動く。磁石の強さは、たぶん磁石の中に含まれている原子の数によってさまざものだろう。これが延長変調波をアンバランスにしたのであり、各原子中のシンメトリーの欠如の度合を不変のままにしているのである。

#### (2) 電 気

電気は延長変調波の全般的な干渉であると思ふ。

#### (3) 空 飛 ぶ 円 盤

真の空飛ぶ円盤——観測者の空想の産物でないもの——は、円盤で運ばれる物質の延長変調波をアンバランスにする原理に基づいている宇宙船である。

#### (4) 絶 対 性

ここで疑問が起こるだろう。「時間空間内におけるこうした諸変化はほんとうに発生することなのか?」「発生するだろうと信じられているだけではないのか?」

この答は次のとおりである。

私や読者やその他すべての人に関係があるのは、創造波の周波数と波長の影響をあらわす「基本的時間×長さ」なのである、と私は思う。自分の眼前の現象が絶対的であるかどうか

を判断する場合、われわれは「時間×空間」をもって「時間と空間」を割ることには関係はない。ラジオで放送される音楽を聞こうとする場合に、その番組が波長五〇〇メートルの搬送波で伝えられるか一〇〇〇メートルの搬送波で伝えられるかは、問題ではない。受信されるという事実そのものの差を知ることが不可能である。そうすると、ほんとうの差というものは存在しないのだと読者は言うかもしれない。だが番組そのものよりも番組を聞きとる「方法」に興味をもつエンジニアは、番組によっては五〇〇メートルの波長と六〇〇キロサイクルの搬送波を變調して伝えられるのもあれば、別な番組ではこの二倍の波長と半分の周波数の搬送波で伝えられるものもあるというふうに言うだろう。しかしラウドスピーカーから流れ出る番組を聞くだけで、それ以上この問題に深入りしようとする一般聴取者にとっては、どの番組にしても結局は同じように聞こえることだろう。

そこで要約すれば次のように言える。

「時間と空間内で現実に変化が発生するけれども、『変化の領域内に生きて一人の人間によって観察される』という意味においては、その変化の発生は絶対的ではない。なぜならその人は、ラジオの搬送波の波長と周波数を測定するエンジニアとちがって、基本的時間または基本的な長さを測定する手段を持たないからである」(以下次号。本文中の〈注〉は訳者による)

# 国内UFO目撃報告



①宇恵良文(12) 和歌山県・請川小学校6年

②一九七〇年のある日の正午頃

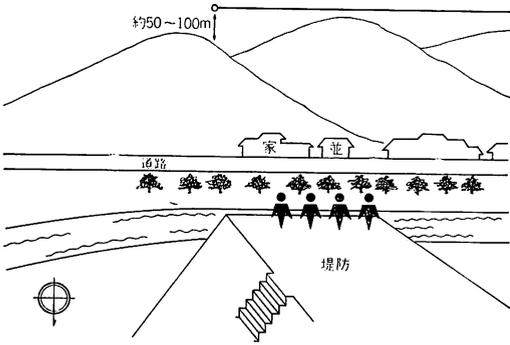
③目撃者の自宅

④宇恵保夫、草平、治の3人

⑦肉眼

⑧三角形、物体の大きさは横30メートル、縦10メートルぐらい。

⑨キーンというジェット機みたいな音を立てて西から東の方向へまっすぐ飛んでいた。



(千47-16 和歌山県東牟婁郡本宮町 請川)

①本田伸三(18) 広島YMCA学園

②一九七三年4月5日午後8時15分頃

③広島県高田郡八千代町土師ダム上流

④快晴

⑤5~10分

⑥なし

⑦肉眼

⑧直径40メートル、高さ30メートルぐらい、黄橙色の窓2つ、無音。

⑨仰角5°、北、非常にゆっくり、注意しないとわからないくらいの速さで右へ平行移動し、山に消えた。発見したときは、一部が山にかくれていたが、窓?はまだ見えていた。それからあとになって気付いたのですが、物体がかくれた地点に電線と鉄塔があった。(千731-03 広島県高田郡八千代町土師三〇六二)

\* \* \*

\* \* \*

①木根 享(12) 田子小学校6年

②一九七三年5月9日午後1時11分

③自分たちの小学校で。

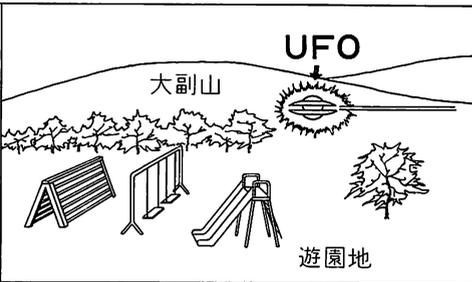
④晴れていたようだ。

▼凡例

- ①氏名(年齢 職業・学校名)
- ②目撃日時
- ③目撃地点
- ④天候
- ⑤目撃継続時間
- ⑥同時目撃者
- ⑦観測機器・方法
- ⑧物体について
- ⑨飛行状態その他

( )内は目撃者の住所

⑥自分たちの組の市橋とし夫君はじめ



37人のクラスメイト。⑦肉眼 ⑧オレンジ色 ⑨後方にもオレンジ色のオブジェが流れていて100メートルの所から見たところでは物体の大きさは

は30メートルくらい。形は二つの円盤が重なっているような姿。

⑨飛び方は少し斜めに傾け、時速約100キロで北の方向へまっすぐ飛んでいった。ヒョンヒョンという壊れたような音を出していた。今思うとこれは壊れた円盤なのかもしれない。最後にすこい光を出したのは、どこかに落ちたときの光なのだろうか。

(千039-02 青森県三戸郡田子町大字 田子字田子三六)

\* \* \*

①高田宗彦(35) 開運酒造専務

②一九七三年9月12日午後9時35分

③福島県安達郡大字高木字北ノ脇五の自宅2階、東南側ベランダ。

④快晴

⑤約1分間

⑥家族の高田純子(31)、真紀子(7)、靖彦(5)

⑦肉眼および双眼鏡(VISION製) 8

⑧色はオレンジ、形は楕円形で輪郭がはっきりしている。大きさは火星と同じくらい。

⑨子供たちに星座も教えようと、月を観察したり火星などを双眼鏡でかわるがわるのぞいているとき長女が「星が動いている」という。みると火星の真下あたりから南西の方向に動く光あり点滅もせず、音も出さずに同じ高度を保って飛んでいく。双眼鏡をのぞくと

は30メートルくらい。形は二つの円盤が重なっているような姿。飛び方は少し斜めに傾け、時速約100キロで北の方向へまっすぐ飛んでいった。ヒョンヒョンという壊れたような音を出していた。今思うとこれは壊れた円盤なのかもしれない。最後にすこい光を出したのは、どこかに落ちたときの光なのだろうか。

オレンジ色で楕円形の物体がはっきりと確認できた。

(〒969-111 福島県安達郡大字高木北ノ脇五)

\* \* \*

① 澤田正樹(12) 鈴鹿市立鈴西小学校

② 一九七三年10月上旬午後3時30分頃

③ 自宅付近

④ わずかの時間

⑤ 久保田直也

⑥ 肉眼

⑧ 高い所を飛んでいたので小さく見え三角形であることしか確認できなかった。

⑨ 学校の帰り道いつものように二人で話しながら歩いていてダンブカーの所でクツを上げ上をみたら黒っぽい三角形の物体に気づいた。物体は東から西へ音もなく飛び去っていった。また久保田という先生がすごい光を出した円盤をみたということ、みずが中学校の生徒全員が黒煙を吹いて墜落する円盤を目撃したこと、れいほう中学校の生徒たちが朝礼の終わりに講堂を出たところ円盤らしいものを見つけたとのこと。以上報告します。

(〒510-111 三重県鈴鹿市下大久保町七〇五-1-2、澤田正方)

\* \* \*

① 和田伸之(12) 相生第二小学校

② 一九七三年10月21日午前2時頃

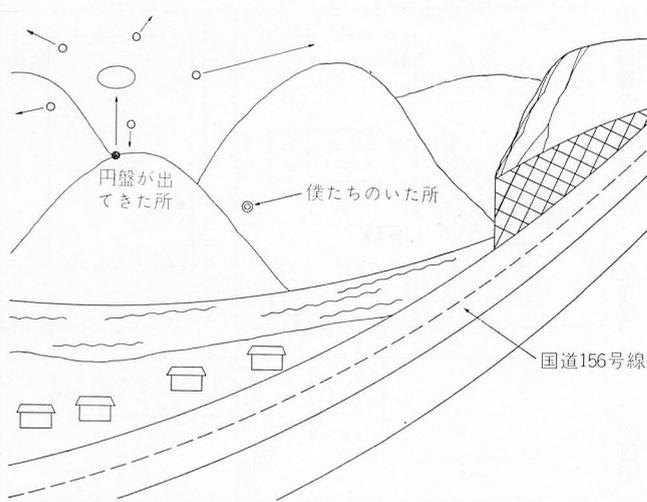
③ 岐阜県郡上郡八幡町那比

⑥ 石田昌彦、石田ひろむ

⑦ 肉眼と望遠鏡

⑧ UFOは土星の出ている方向へ大きいのは150〜200メートル、小さいのは20メートルぐらいのものが5つだった。

⑨ 大きい方はゆっくりと水平に飛んでいたが、小さい方は上に行ったり下に行ったりしていたが、5つとも宙がえりなどはしなかった。スピードは大きい方はゆっくりとセスナ機のようなのだが、僕たちが目撃して騒いでいたら急に山にかくれるようにものすごいス



ピードで飛び去っていった。小さい方はどちらもものすごいスピードでジェット機より速く、急に向きが変えられる。高さは僕たちの位置より50メートルぐらいのところ、小さい円盤を出してからは100メートルくらい上がっていった。色はオレンジで光っていた。

5つの円盤は四方八方に散って行ってしまった。音は全然しなかった。  
(〒501-42 岐阜県郡上郡八幡町那比高畑)

\* \* \*

① 坂野康隆(小6)

② 一九七三年11月のある日の午後4時45分頃

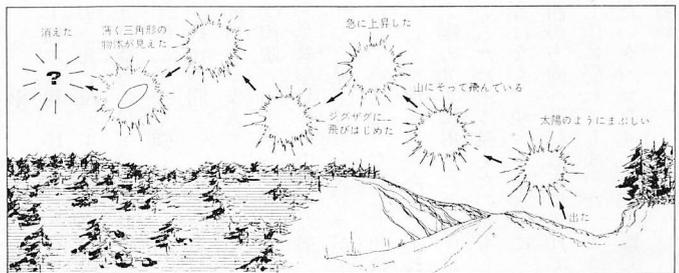
③ 小しばひろゆき、金子よしのり、坂野徳隆(兄)

④ 肉眼

⑤ 約10メートルの大きさ。色はやまぶき色で三角ばつた形をしていた。

⑥ 山のまん中から太陽のようになまぶしく光っていた。飛び方はジグザグで、東か東南の方向へ動いていた。動き方は速度をあげたりゆっくり飛んだりだった。1分間ばかり見えていたが急に姿を消してしまった。音は聞こえなかった。近くの人にたずねてみたけど、気付いた人はいなかったよう

だ。



だ。

(〒299

16

千葉県

富津市

長崎二

七十一

三)

\* \* \*

\* \* \*

\* \* \*

① 原島

利夫

② 一九

七四年

⑦ 肉眼  
1月1日



⑧ オレンジ色で金星ぐらいの大きさ。②、3分の間だけ見えてそのあと暗

くなくなって消えてしまった。

(〒198-01 東京都西多摩郡奥多摩町  
梅沢九四)

\* \* \*

- ①宮沢 誠(15) 横浜高校1年
- ②一九七四年一月二十一日午後0時10分頃
- ③戸塚区平戸町境木中学校校内

④晴

⑤5~6秒

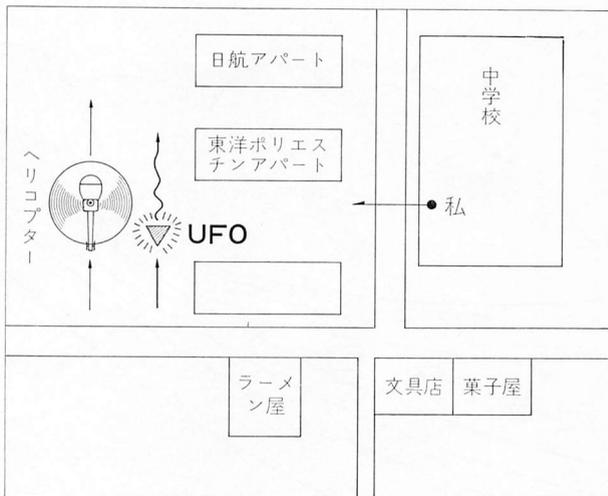
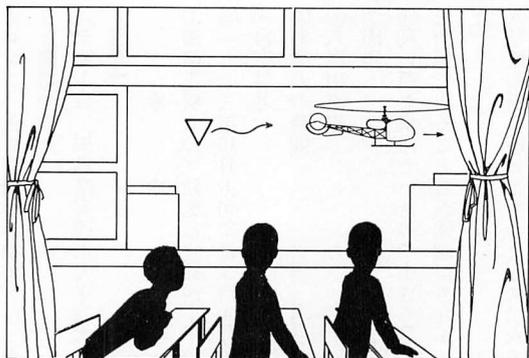
⑥当房秀貴(学友)

⑦肉眼

⑧正三角錐のような形をして、ヘリコプ

ターよりも少し大きいと思われる程度の大きさ。赤く輝いていた。

⑨仰角0度、北から南へ移動で、飛行



中の形態の変化はない。また光度、色の変化もない。推定速度はヘリコプターが普通飛ぶくらいのもので、高度は約200~300メートル。  
ふと何げなく教室の窓から外の風景を見ていると赤く光った三角形の正体を不明のものが空高く浮いていて、ヘリコプターが飛んでその物体の横を通り過ぎると、突然その物体はヘリコプターに吸い寄せられるかのように後を追っていった。初めはタコかと思ったが赤く光るタコは見たことがなく、タコならヘリコプターに糸がひっかかることになる。そしてくるくる回ってしま

- ①両日とも快晴
- ②1分~1分30秒
- ③弟、親戚のおば(7月28日の方)
- ④肉眼(左右ともその時視力1.5)
- ⑤7月28日だったか、その日は米沢市の花火大会の日だったので僕と弟は親戚のおば(花沢一丁目)の所にいた夕方の7時30分頃、弟と2人で星を見ていると上空に何か白か黄色がかった円卓の物がセスナ機の速さぐらいのスピードで飛んでいた。初め飛行機かと思ったがエンジンの音が聞こえないためあるいは気球かと思っただけけれど気球

姿で飛んだ。私はこの物体を母船から出る無人の小型偵察用のUFOだと確信している。そしてそれが見なれぬ物を発見したので、それを追って写真などに記録しようとしたのだと思っている。

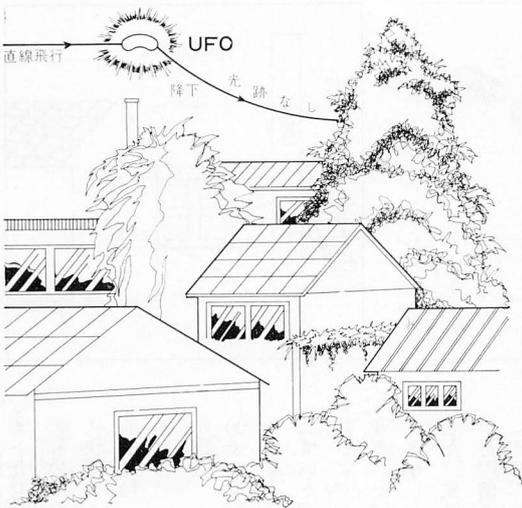
(〒241 神奈川県横浜市内戸塚区平戸町一三八五)

\* \* \*

- ①内山泰之(15)
- ②一九七三年七月二十八日午後9時30分

一九七三年八月五日午後11時頃

- ③自宅(8月5日)、米沢市花沢町1丁目(7月28日)
- ④鈴木政利(15)
- ⑤約10秒間
- ⑥M君(友人)
- ⑦肉眼
- ⑧葉巻型UFOのような形。
- ⑨ふと見上げるとタバコが一本空に浮かんでいるような感じで色は白。少しへこんだ所があったが、それは物体が太陽の光を反射し(あるいは輝いて)いるためそう見えたのかもしれない。音はなく、ゆっくり水平にやや南から西の方向へ進行し木に隠れては現われし山に隠れてしまった。大きさはだいたいタバコを4メートル離して見たくらい。

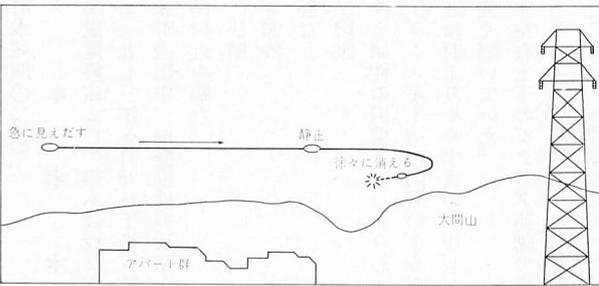
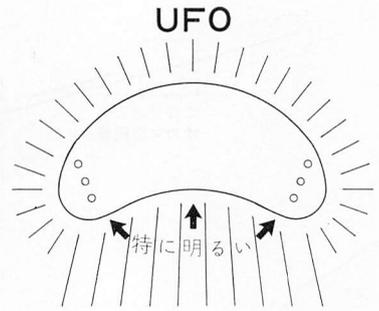


- ① 蓮尾裕一 (18) 大牟田高校3年
- ② 一九七四年五月十日午後8~9時
- ③ 大牟田市三池中町、大間山付近
- ④ 快晴
- ⑥ 阿部功一さん (22) はじ

\* \* \*  
 (〒160 東京都昭島市中神町二三五九一〇)  
 \* \* \*

- (〒420 静岡市南一六四四)
- \* \* \*
- ① 匿名希望 (14) 中2
- ② 一九七四年4月30日午後0時45~47分
- ③ 目撃者の自宅の2階の窓から。
- ④ 晴 (少々雲あり)
- ⑤ 約2分間
- ⑥ なし
- ⑦ 肉眼
- ⑧ 大きさは米粒大よりやや大き目。色はオレンジがかかった金色でキラキラと輝いていた (1等級)。光跡は残さず光度変化はべつにない。
- ⑨ 寝る前にもう一度夜空を見ようとすると、一目でUFOと確認できる物体が南西から北西にかけて仰角50°の所を

直線飛行で約30秒間ゆっくりと飛行していた。一時静止後こんどは以前にも増してゆっくり降下しはじめ、木の影に隠れて見えなくなりました。その物体は「ピーピー」とか「ジージー」という音を出していた。この音は妹も聞いていた。



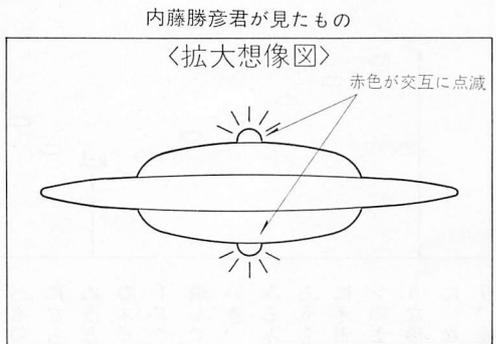
- (〒836
- 用
- ーズ使
- 脚レリ
- ロ三
- モノク
- パンSSS
- ―ネオ
- イルム
- 秒フ
- 5)15
- ビード
- タース
- シャツ
- スX2
- レプラ
- F.L.4
- 50mm

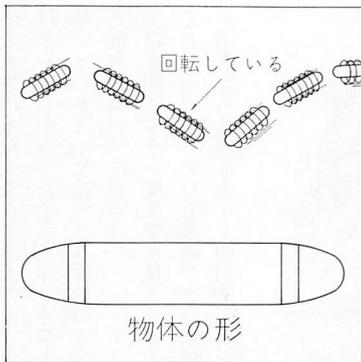
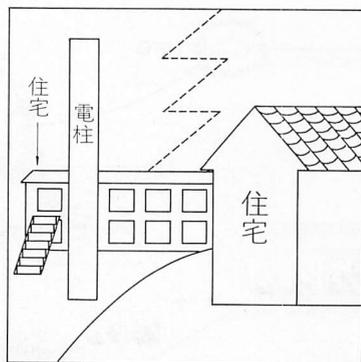
め10人。  
 ⑦ 双眼鏡  
 ⑧ ライティング・ライツらしきものに写っているもので、形、色、大きさは肉眼では見えない。内藤君の見たものは図のような形をしていたとのこと。  
 ⑨ 内藤君の見た物体は仰角約30°~35°のところを東から西へ比較的形態が安定して飛んでいた。色の変化は上下か交互に赤く点滅していて離れて飛んでいるときは真っ赤に光度をあげているのがわかったとのこと。



- ① 望岡亮介 (15) 豊中市立第十中学校3年
- ② 1回目―一九六八年秋か冬の午前8~10時頃 (当時小学3年)
- ③ 2回目―一九七四年五月21日午後8時59分
- ④ 1回目―大阪府豊中市服部西町二一三―三
- ⑤ 2回目―大阪府豊中市野田町二〇
- ⑥ 2回とも晴
- ⑦ 1回目約10秒、2回目約5秒。
- ⑧ 1回目なし。2回目望岡富士男 (兄 || 17歳)
- ⑨ 1、2回とも肉眼
- ⑩ 船体は銀色、形は葉巻き型。最初飛行機かと思ったが爆音もせず翼もなか

福岡県大牟田市青葉町五九、一〇棟





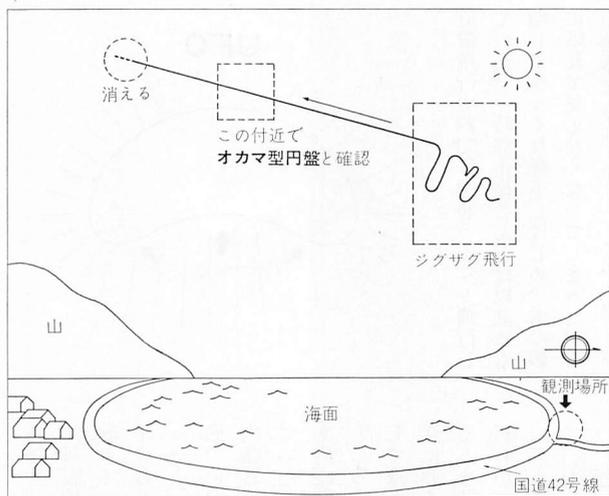
⑨ 西から東へと移動していた。飛行状態は、機自体が回転しており波形に飛んでいた。大きさは2センチくらいに見えた。

2回目はジグザグに飛んでいた。

(〒1561 大阪府豊中市野田町二四一七)

① 上野勝也 (15) 串本高校1年

\* \* \*



② 一九七四年5月27日午後4時4分

③ 和歌山県西牟婁郡串本町有田

④ 快晴

⑤ 約30秒

⑥ 兄

⑦ 肉眼

⑧ オカマ型円盤らしい。米粒を目から10センチくらい離れた大きさを銀色をしていた。

⑨ ジグザグ運動からあと直線に飛び無音だった。形は太陽の光のぐあいではつきりしたり輝きが劣ってぼやけたりした。兄は「どうもアダムスキーの乗った円盤に似ている」といつていた。

(〒649-26 和歌山県西牟婁郡すさみ

① 清水万蔵 (15) 熊谷農業高等学校1年

② 一九七四年6月7日午後7時15分

③ 熊谷農業高校から家へ帰る途中。

⑤ 約3分

\* \* \*

⑨ 左右上下のジグザグ運動で自由自在な運動をし、南東から北西へ移動して行った。音はなく、また飛行中の光度の変化もなし。高度は海面上から100~150メートル上。音は全然聞こえなかった。

(〒649-26 和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見下地)

町本城四〇二五)

\* \* \*

① 成尾好広 (17) 串本高校2年

② 一九七三年5月28日午後5時30分頃

③ 町内田中、旧農協前の通路から稲積島付近を臨む。

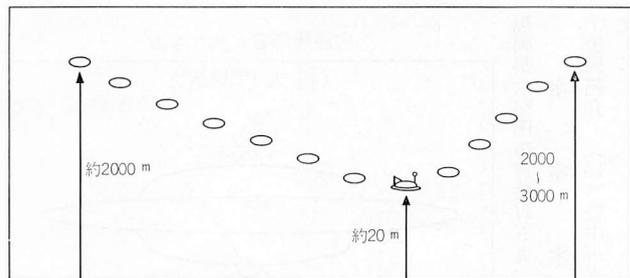
④ 快晴

⑤ 20秒

⑥ なし

⑦ 肉眼

⑧ 金属性の円盤とはつきりわかった。アダムスキー型の円盤のようだ。大きさは月よりやや小さめ。オレンジ色で強く輝いていた。



東の空へ飛行機と比べものにならないほどのスピードで飛んでいき、みるみるうちにオボンのような形になり、後

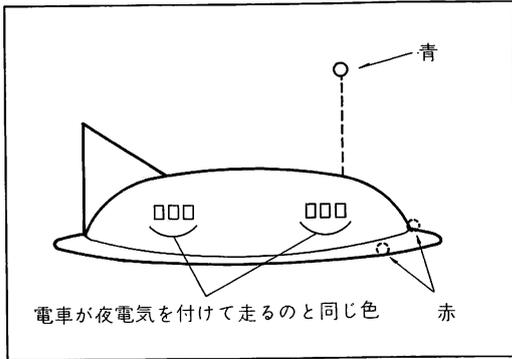
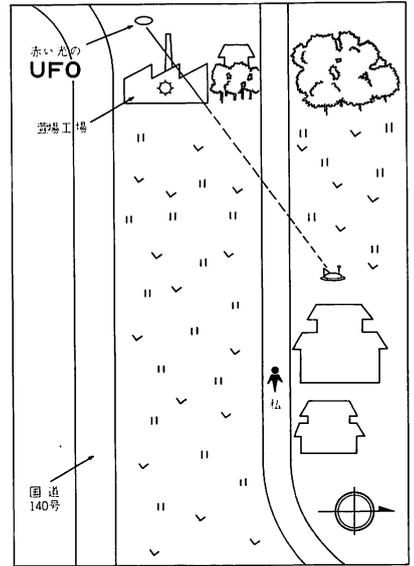
⑥ なし

⑦ 肉眼

⑧ ヘリコプターより少し大きいくらいの円盤だった。

⑨ 初めは小さいただの赤い点だったが、だんだん大きくなってきて電車が夜、電気をつけて走ると同じような姿になってきた。円盤のボディは灰色のような黒ずんだ色。その後、円盤はあつと言う間に友達の家の上に来てスピードをグンと落とし止まるくらいになってきた。私は足がガタガタふるえた。





に白い飛行機雲のような光を残して飛び去った。  
(千湖11 埼玉県大里郡川本村瀬山八八〇)

\* \* \*

ゴズモNo2に載っていたのですが秦野市の青木君の三の塔あたりを飛んでいた白銀色の飛行物体は毎日午後0時頃飛んでいるようです。最初は僕もジェット機か飛行機かと思いましたが、音はないしとてもゆっくり100メートルくらいの三の

- ⑦倍率10倍の天体望遠鏡。
- ⑧米ニューメキシコ州ホロマン空軍基地の上に現われたUFOの上の雲のようなものがあった。色は黄色で輝いており、普通見える星くらいの大きさ。

- 塔より低く飛んでいました。大きさもたいへん小さく見えました。僕の家からですと三の塔近くを飛ぶセスナ機と同じくらいに見えます。そしていつも東から西へと飛んでいます。  
(千257 神奈川県秦野市平沢一三四五)

- ①山岡秀樹(11) 玉川学園小学部6年
- ②一九七四年6月18日午後8時10分
- ③町田市内で目撃
- ④少し曇っていたが星がわずかに見え
- ⑤10分間。
- ⑥無し。
- ⑦倍率10倍の天体望遠鏡。
- ⑧米ニューメキシコ州ホロマン空軍基地の上に現われたUFOの上の雲のようなものがあった。色は黄色で輝いており、普通見える星くらいの大きさ。

沖縄に頭が三角形の宇宙人?

「頭が三角形の宇宙人をみました」と沖縄市胡屋に住むA子さん(21)が琉球新報社に申し出ました。Aさんが

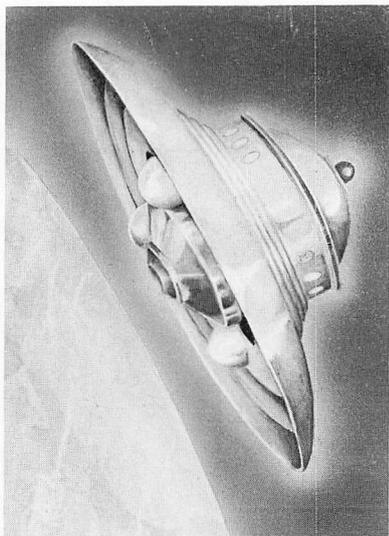
- ⑨東側の仰角25°くらいのところを上下に移動していたが、ときどき物体それ自体が回転していた。  
(千194-01 東京都町田市能ヶ谷町一五九八-八六)
- \* \* \*
- ①吉沢 浩(13) 熊本市立白川中学
- ②一九七四年5月10日午後8時35分頃
- ③自宅近くの4階建てのアパートから
- ④快晴
- ⑤約20秒
- ⑥なし
- ⑦Carlton 双眼鏡(6×50 D=50mm, 16 Power FIELD 37°)

宇宙人をみたのは今から6年前の中学3年生の頃で、5月の午前4時頃起きて自宅の窓から東南の空を見ていると、自宅から約20メートル離れた近所の2階建ての尾上のブロックで囲いを入した幅30センチくらいのヒサシの上にずきんをかぶったような三角形の頭で身長約1メートルの全身が真っ黒の「生物」が3つ動いているのを見ました。1つは何か捜し物でもしているようにヒサシ上を激しく行ったり来たりして動き、1つは両手を前に組むような格好でじっとしていました。

人間にしては小人のように小さい洗濯物でもないようなので、不思議に思い眠っている妹のB子さん(当時13歳)と弟のC君(当時11歳)を起して3人で確かめたところ、3人ともその不思議な生き物を確認しました。その時、町の中から子供の国の方向にオレンジ色の流れ星のような物体が尾を引いて速い速度で上空を飛んでいるのを見たという。A子さんたち兄弟3人は当夜はイケヤ・セキ彗星が現われるというので興味をもって夜空を見てみると発見したもので、3つの生き物は肉眼ではつきり確認したという。その興奮で兄弟3人とも一晩中まんじりとみせず、翌朝早くに向かいの屋根を見たときは、もう宇宙人?の姿は消えていきました。(一九七四年4月26日号、沖縄の新聞から)

読者の声

OPINIONS



●池田雅行(画) 千160 東京都新宿区南元町15、藤本方

貴誌の順調なる刊行、UFOに興味を持つ一読者としては、これほど嬉しいことはありません。編集の皆様のお一人の活躍を期待しております。ところで、私のUFO雑感を聞いてみてくださいます。まずUFOの存在の論理的(?)立証。前提「超光速恒星間旅行の技術を持つ異星種族が存在している」とする。

①もしも彼らが太陽系を訪れたとしたら、第3惑星に特別な興味を持つだろう(ただしここ数万年の間)。なぜならそこには知的生命が存在しているから。

②そして彼らは地球の知的生命の今後を知るために太陽系第3惑星に二重丸をつけて「定期調査の要あり」と記録するだろう。彼らの意図が学術調査であり、あるいは征服(なつかしいね、この言葉)であろうとも。

銀河系だけでなく一億からの星があるから、たとえ異星人が調査旅行をしていたとしても、一度調べた星を次に調べるのは何千年か経ってからのはずだ。よって現代のUFO目撃例を確率的に否定するのは誤っていると思うのです。ここで述べた仮説の裏付けとして一九四五年を境にUFO目撃例が急増したことがあげられるんじゃないでしょうか。人類全滅の可能性が生まれたからですか。

異星人たちが核戦争を止めてくれるのか、それとも「心正しき」者を救ってくれるのか、あるいは「何月何日、人類滅亡」と記入してノートを閉じるのか、それは解らない。また、「地球全滅の日、生放送」なんて「宇宙」中継しやしないな。いずれにしても核戦争なんか起こしたらそれこそ地球人類の恥です。他の星のひたに顔向けできない。異星人それはさておき、こんなことも考えます。異星人

は、自分たちのことを地球人がどう考えているのかわかるために、世界中のUFO関係出版物に目を通しているんじゃないだろうか。だからひょっとすると私のこの文も彼らに読まれるかもしれない。ここで売り込みをしようと思います。

拜啓、宇宙人。ぜひ私をコンタクトマンに採用してください。履歴書と印鑑を持って参上いたします。板倉博(22)

最近、本屋に行った所、貴誌「コスモ」を発見して驚きと共に非常にうれしかった。僕は幼い頃、兄が「ジュニア円盤ニュース」というのを愛読していたことがあったので、あれ以来円盤およびその他の超自然現象に興味を持っていたからである。ですからこれだけ詳しく記載されたUFO関係の本の出版を喜ぶ一人である。現代の様に科学が発達した時代においても未解決な部分が多い。超能力、幽霊、および天空の未確認物体などの現象にしても、一部いや大部分の人が非科学的と思っているのではないだろうか。なぜでしょうか。それは本人が超自然現象について無知であるのと、現実には遭遇したことがないからです。それが、現実化したと聞かされたことではないので、否定も肯定も致しません。しかしこの広い宇宙には科学で説明つけない何かがあるような気がするのです。古代の人々が現代のわれわれの進歩を想像できなかったように、遠い将来には科学で説明現象が完全に解明され高度に進歩した、宇宙人との交友があるかもしれない。コス

モでもUFOに限らず超能力、予言、幽霊などについて幅広く載せてください。(別出版でもいいです。期待しております。超自然現象にキチガイのように興味を持っている方、お便りください。上田敏正(19)

「日本古来の天空人出現説考」が終わったが、期待していたものが載ってなかった。ここに紹介したい。それは、日蓮聖人が竜口で法難を受けた時のことである。

「江のしまのかなたより月のごっこ・ひかりたる物まりのやうにて辰巳のかたり成多のかたへ・ひかりわたる、十二日の夜のあけぐれ人の面も・みへざりしが物のひかり月よのやうにて人人の面もみなみゆ、太刀取目くらみ・たふれ臥し兵共おち怖れ・けうさめて一町計りはせのき、或は馬より・をりて、かしまり、或は馬の上にて・うずくまれるものあり。そして、その翌日のこと、「いかに月天いかに月天とせめしかば、其のしるしにや天より明星の如くなる大星下りて前の梅の木枝に・かかりてありしかば・ものふども皆えんより」とびをり或は大庭にひれふし或は家のうしろへ江の島へ、やがて即ち天かきくもりて大風吹き来りてへびのね、やがて即ちのひびく事・大なるつづみを打つがことし」と種種御振舞御書、日蓮大聖人納書全集。

次にNo.6の目撃報告に納得のゆかないところがある。江端さんの「定規を普通にみて」という説明の仕方と、坂上さんの「かなり遠くのはう」だったにも関わらず「風にさらからって」と断言している点である。

コスモに対する希望としては、未解説の古代文学の中でUFOと関係のあり関するの紹介と言語学者の意見、宇宙人の言語に関して、日本のUFOの研究機関、団体の現状、オゾマ計画の最近の成果などの掲載。そしてトリック撮影されたUFO写真やその手口を紹介し成めとしてほしい。こういうことをする不心得者はUFO研究には敵だから。中島一彦(19) 学生

滋賀県大津市栗津町一五二(二七)

私はNo.5までの「神々の戦争」をとても、おもしろいと思いました。またNo.6で「宇宙・引力・空飛ぶ円盤」を読みました。これは「神々の戦争」とは別のおもしろさがあると思えます。このスペースを借りてひとつ私の考えを述べてみたいと思えます。

「宇宙・引力・空飛ぶ円盤」のAを読んでいて中・高速ということを目にしてふと思ったことがあり

ります。もし私たちの目が見えなかったらどうでしょう。当然物体を見ることができません。即ち、音を聞いて多くのことを判断しなければならなくなるでしょう。私たちは現在超光速ジェット機を持っています。そこで目の見える私たちが超光速ジェット機に会ったらどうなるでしょう。実際私たちは目というのを持っていてのですから物体を見ることができません。今現在、もちろん目の見える私たちが超光速ロケットを見たら(?)どうでしょう。おそらく前に書いた超光速ジェット機の場合と同じことがいえるでしょう。すなわち私はこう思うのです。超光速ジェット機を作るときは多くの障害があったと思います。しかし作りあげたのです。ですから超光速ジェット機の場合には比べものにならぬほど大きい障害があるかもしれないが、いつか超光速で飛ぶ物体が製作されるのではないのでしょうか。

小野川 微(14)

こんにちには。私はコスモを初めて買ったことも感激している女の子です。何年前かUFOとか四次元とかテレビに凝り推理小説やSFばかり電車の中で読んで目を悪くしてしまい、それでこんどはバカみたいなコードを聞きかかっていたのですが、昔いまだ忘れがたくこのコスモを買ったというように。昔は好奇心ばかりで賢い女は少しもわからなかったけれど、コスモを買ったのだんなんわかってきたのでうれい。私は生来信じられないようなものを愛すくせがあってそれでこの信じられないようなすばらしいコスモをとって愛しているわけなんです。読んで一番感激したのは ORIZONS でした。大変科学的にUFOを見ておられる方やロマンチックな方もいらっしゃって思っています。ところでイエス・キリスト宇宙人説のことを少し書きたいと思えます。といつも私は彼を宇宙人だとは思っていませんが、私の学校はオラテラ聖書をばりだれか先生にその話を持ち出したらしい聖書をバタンと閉じておこってしまったとかいう話です。私としてみればキリストを神だとする考えも宇宙人だとする考えも同じようにおかしなものに思えます。

私は彼は普通の人間だっただと思えます。じゃあ、奇跡はどうなんだと言われたいと思います。コスモのファンの方はご存知だと思いますが、昔の人は現在生きている私たちとは多くの点で異なった能力を持っていらしたという事です。ましてキリストのように精神の発達した人間は何かすばらしいことができたでしょう。なんか関係はない話になっただけけれどキリストについての解釈で最近読んだ本の

ります。もし私たちの目が見えなかったらどうでしょう。当然物体を見ることができません。即ち、音を聞いて多くのことを判断しなければならなくなるでしょう。私たちは現在超光速ジェット機を持っています。そこで目の見える私たちが超光速ジェット機に会ったらどうなるでしょう。実際私たちは目というのを持っていてのですから物体を見ることができません。今現在、もちろん目の見える私たちが超光速ロケットを見たら(?)どうでしょう。おそらく前に書いた超光速ジェット機の場合と同じことがいえるでしょう。すなわち私はこう思うのです。超光速ジェット機を作るときは多くの障害があったと思います。しかし作りあげたのです。ですから超光速ジェット機の場合には比べものにならぬほど大きい障害があるかもしれないが、いつか超光速で飛ぶ物体が製作されるのではないのでしょうか。

小野川 微(14)

こんにちには。私はコスモを初めて買ったことも感激している女の子です。何年前かUFOとか四次元とかテレビに凝り推理小説やSFばかり電車の中で読んで目を悪くしてしまい、それでこんどはバカみたいなコードを聞きかかっていたのですが、昔いまだ忘れがたくこのコスモを買ったというように。昔は好奇心ばかりで賢い女は少しもわからなかったけれど、コスモを買ったのだんなんわかってきたのでうれい。私は生来信じられないようなものを愛すくせがあってそれでこの信じられないようなすばらしいコスモをとって愛しているわけなんです。読んで一番感激したのは ORIZONS でした。大変科学的にUFOを見ておられる方やロマンチックな方もいらっしゃって思っています。ところでイエス・キリスト宇宙人説のことを少し書きたいと思えます。といつも私は彼を宇宙人だとは思っていませんが、私の学校はオラテラ聖書をばりだれか先生にその話を持ち出したらしい聖書をバタンと閉じておこってしまったとかいう話です。私としてみればキリストを神だとする考えも宇宙人だとする考えも同じようにおかしなものに思えます。

中で感激したのはコリン・ウィルソンの「宗教と反抗人」です。最初の方のページを読んでみてくださ

私はコスモに直接役立つようなことはなにもできないけれど私の友だちとか先生にコスモのことを教えてあげようと思っています。また科学的に UFO を証明しようなんて思ってもなにもできないけれど、でも UFO を思っている多くの人といっしょに UFO をバカにする人と戦っていかうと思います。

(157) 東京都世田谷区北島七七一(一七)

はじめまして、僕は前から絶対に日本人の中に別の星の人間が住んでいると信じてテレビで呼びかけています。もしもこのコスモを読んでいる宇宙人がいたら、もしくは、北海道の UFO キチガイの女性の方、手紙に自分の考えをぶつけてみたいと思いませんか。気長にお便りを待ちます。

(165) 東京都中野区江古田三一四一六一四〇

僕が本誌を初めて見つけたのは No.6 でして諸氏の目から見れば後輩にあたる者です。さて本誌の充実した内容に魅せられた僕はさっそく No.3・4・5 を取り寄せて読みました。どれも僕を夢中にさせました。おしいのは創刊号と2号が手にはいらないうことです。でも、もし札幌市内のどなたかでお持ちの方がありましたら貸して欲しいのです。

話は変わりますが、No.4 の P.52 の式で「距離は、1光年のまちは3日で、またその答の3012344秒は、308123449秒のまちは1日だと思います。細かいですが、一層のご注意を。

また話は変わりますが、円盤の飛来方法に関する幾つかの説の中に四次元空間を抜けてくるというのがありまっています。No.3 では T 子さんが、No.5 では増山君が述べています。ところが、昔僕の読んだ本の中で五次元運動についてはじめて空間超越が可能だとするものがあった。四次元すらあまいなな五次元と云うと、さらに混乱してくるかも知れませんが、その本の作者が「五次元」と言っただけには何か根拠があったのだろう。どのような根拠がわからな

きなのだが、いろいろな仮説の一つとして加えておきたいのが、この五次元運動である。またまた話は変わります。UFO について科学者

はどう見るべきか。どう研究するか。科学者は事実の前には素直にならなくては。そして自分の専門の分野だけに固執しないこと。どちらもよく言われることだが、メンデルの法則はメンデル自身が正しい説明を加えることのできなかったが、発見自体は重要なものだった。説明できない事実についての研究ではあっても科学的な UFO を詳しく説明の付けようがないという点で退けることはできないのだ。

専門の学者を押し進めていくと壁に突きあたる。他の分野の学者と協力して研究していく姿勢が大事だろう。いろいろな分野からの研究を総合し実体をより明らかにするという努力がなされるというのだが、その意味ではとても有意義なことだと思う。

最後に本当になにか創刊号と2号を持って人、貸してもらえませんか。手間のことを考えて札幌市内の人をお願いします。もし貸していただける親切な方がおられたら、ご一報願います。老若男女は問いません。(18)

(164) 札幌市中央区南二条西二丁目

拝啓、ぼくは円盤を見たことがあります。それは中学三年生のときでした。円盤が来る前にむしよりに外に出たくなります。妹といっしょにいろいろな形の円盤を見ました。地球の物でないものが飛んできたから少しゾッとしましたし、多少興奮して見ました。どうしてむしよりに外に出たくなったのかはわかりません。ぼくの考えるには暗示だと思っています。それも高い所からぼく一人に向けてのと考えています。だからわざと宇宙人が見せてくれた感じだと思います。それで合計十回見ました。どうしてぼくを選んだかわかりません。初めは遠くを飛んでいます。だんだん近くなってきたり見えたりするようになります。形はアダムスさんの見た円盤、葉巻型の円盤、一度だけ見たと思います。そして土星型の円盤、流星型の円盤、たぶん旧式の円盤から新しい円盤まで見せてくれたと思います。

それとバスケボールくらいの丸い円盤、これはぼくの住んでいたアパートの近くを飛んでいたから、偵察機だと思っています。いつも南に向かって飛んでいて、それから驚くべきことは家をもつてから数日ぐらいたったから引越した家の真上、ぼくと真上に円盤が現れたことでした。形は真下から見たからよくわからなかったが、今まで見たことのない円盤でした。どうしてぼくの場所がわかったのか不思議です。今は円盤を見ていません。きっと宇宙人に会うには不適当な地球人だったと思います。

ガッカリ。みなさんも宇宙人に会った時のために心の準備をしておいてください。コスモも宇宙人が見てビクビクするような記事を書いてください。

(150) 室蘭市知利町別丁二丁目八番地四七号

コスモさん、がんばってますか。コスモさん僕は UFO といものは絶対に信じてませんとは言いつつ、心では信じています。実際に発見するまでは信じませんが、今は信じています。それは信じていたんですけど、なんとこのコスモ No.3 から買ってしまったんですけど、なんと330円！ 実に安いものだなあと思いましたが、内容は実に豊富だし、それに天空と大地の科学シリーズがなんとと言えない興味深さを感じました。読んでくれてありがとうございます。以前暇なときに発見した人の話を聞いてバカで、その現場に行ってみたり、人の話を聞いて聞いていたりしていろいろと研究してみたいことがありました。今はただ暇なときに空を眺めているだけで、これからはもっといろいろとしたいので、全国とまではゆかないと思うので東北の皆さん、UFO を発見した人教えてチャイガイ。いろいろなお話をお願いします。コスモの発展を祈る。アーメン。田舎生まれより。

(1013) 秋田県横手市雨町

6月号「エドガー・ケイシーの予言による世界の大変動」興味深く読みました。アトランティス大陸が出現するなんていうとわれわれにとっては非常にうれしいことではあります。しかし「日本沈没」が起ることとなるやいなや、でも、大陸が出現しからならいさ。そこに移った、えはいいのだから。でも、結局は生き残れる人間は世界中でごくわずかな人類だけ。そのうち「ノアの箱舟」の時のように神々(おそろく銀河系の主である太陽系に生きている、あまりにも崇高な精神を持つておられる人々)この地球を立て直されようとしているのではなからうか。そして同じくこの程度を何度も繰り返して、地球人を高貴な生き物にしてゆく。私には、そう思える。人間はもっと純情、素材に生きるべきだったのです。今からではあまりにも遅すぎるのです。公書にまわった日本を最初に沈めるのは神様の「意志」だよね、きっと。あなたはその思いはせんか。ご意見お聞かせください。

(14) 静岡県浜北市小松五四五

コスモ No.6 に載せてもらえて心から感謝いたします。おかげですぐ買ってくれる人がいました。これが「この手紙を書く第一」の理由です。第二の理由は、「コスモを讀んで下さい」とぼくのころは買ってもらえるやり方についてです。中でもいばん腹が立つたのは、直接現金書留で送ってくる人がいることです。もし現金書留で送って来た人にコスモを送ることができなくなったらそれを送り返さねばなりません。これには送料がいろいろあります。ぼくの場合は全部百二十円(た)五月二十八日で八百六十四円かかってしまいました。だからコスモを贈る方の立場になって考えてほしいのです。やはりいばんいいやり方は、ガキです。(なには往復ハガキで送ってすぐれた親切な人もいましたけど...) だからまともなようにうな人もいます。だからまともなように直接現金で送らず、一応は往復ハガキで送ってほしいというだけです。勝手なことを書いまして申しわけありませんでした。

(14) 東京都調布市染地三十一 多摩川住宅ロ一六—三〇

ぼくは今、こんな日が早く来るのを願っている。「われわれははるかかなたからやって来たものである。おろかな地球人よ、ロケットなどというやちやな遊び道具はやめて円盤を作れ、そしてわれわれの手を結び宇宙を飛びまわろうではないか。公害も病気を治してやる。早く円盤をつくりわれわれと手を結ぼう」なんてことを聞く目を。ぼくはバカでしようか? しかしこんな日も近いのではないのでしょうか? 今そんなことを言っても甲論乙論にすぎないかも知れません。しかし地球人の中の一人として UFO の人に願っているのです。宇宙人よ、おろかな地球人の中の一人の意見を聞いてください。

(14) 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和町三三九四一

拝啓コスモ機、初めてあなた様の姿をおみかけした時の私のつばきはなんだったでしょう! 「この本は私の魂を大きく変えるだろう」否! 「クリップのはいっているコーヒーマイラーだ。これもちがう。何と私のつばきは「なにに三百円!!」高いです。これが私のいつわりのない声でありました。(コスモ編集発行人、久保田八郎様、ごめん)

す。おかげですぐ買ってくれる人がいました。これが「この手紙を書く第一」の理由です。第二の理由は、「コスモを讀んで下さい」とぼくのころは買ってもらえるやり方についてです。中でもいばん腹が立つたのは、直接現金書留で送ってくる人がいることです。もし現金書留で送って来た人にコスモを送ることができなくなったらそれを送り返さねばなりません。これには送料がいろいろあります。ぼくの場合は全部百二十円(た)五月二十八日で八百六十四円かかってしまいました。だからコスモを贈る方の立場になって考えてほしいのです。やはりいばんいいやり方は、ガキです。(なには往復ハガキで送ってすぐれた親切な人もいましたけど...) だからまともなようにうな人もいます。だからまともなように直接現金で送らず、一応は往復ハガキで送ってほしいというだけです。勝手なことを書いまして申しわけありませんでした。

「こい」。これだけで私をある病院へつれてゆくなどというところは極めて好ましくない。小生は感じます。それからというもの私は授業中居ねむりやめて(席が窓ぎわでしたので)外ばかり気にするようになりまして。小生はSF狂でしてフリッツライバーの小説などを読んでおりますとメリケン国にはあちこちそこらこちらでUFO研究会があるそうで(かの有名な星新一一殿も日本へシババンク)においてますか)しかしわが国には私の知ってゐる限りありませんが)しかしわが国には私の知ってゐる限りありませんが)ここにあるなんてんじやありませんし第一わが高校を級友から全く聞いたことがありません。わが国では「あいつはUFO好きがいだ!!」というの。「奴はちょっと頭がいけてゐるらしい」と気の毒がらるのとは同じ意味として使用されてゐます(UFO好きがいの人ゴメン!!)。

どうしてですかね? そういふ風潮の中でこのような本を創刊なされた。これは偉大といふかよくやるというか、ま、とにかくすごいこといひてゆくと過剰宣伝のイヤらしさを感じられるかもしれないので、ここからやめます。しかし宇宙人は何をいっているで、すかね、地球上がやれP.C.Bだ、やれインドが核をもったといひつひつかりやせうそんな考えも私の頭の中をよります。第一、第二次世界大戦を引きおとした裏には宇宙人が関係してゐたか。UFO関係のことが一刻も早く明らかになることをのぞみます。(本当は一刻でも長く謎のままでいてくれ、とも思ふのですが。最後に女性でも男性でもいいけど(も)ともどちらがよりよいかということはおわかんと思ひますが)だれかUFOはちろんP.Fに狂つてゐる人もお手紙ください。

山田一郎 (16)  
(千洲) 千葉県千葉市宮崎町五二四一六(一)  
一九四七年に米実業家、ケネス・アーノルドによつてライオン・ソーサー(空飛ぶヨーヒー茶碗)なる奇々怪々な怪異飛行物体が目撃されて以来二十数年、マンテル米空軍大尉機が怪光物体を追跡中に突然消失、ジョージ・アダムスキーの円盤同乗記など有名な事件やその他諸々の円盤目撃事件、円盤撮影など宇宙人とのコンタクトなど様々な事件が起つてきたが、そのUFO騒動もや下火になつてはいたが、最近また超能力(最近ではややボロを出しはありますが)チームと共に円盤ブームなるものが始まりました。UFO信仰者の一人として大変喜んでゐます。UFOといふことばは適切でないのだから圓盤といふ方がいいでしょうが、僕は数年前から

の円盤(空飛ぶ円盤)に取りつかれてから今日までこれに関する書物を乱読して来ましたが、本に載つてゐる記事はほとんど数百年の古いもので新鮮味に欠けるのですが、最近UFO専門誌「コスモ」のことを知り、さうそく購入して目を通しましたが、全文すべてさらばらしいの一語に尽きます。でまた毎月発行されることを望んでます。いずれまたその国内ただ一つのUFO専門誌です。それから今後は責任と誇りを持って一層充実化に努めてください。一愛読者としてのつたなき願いです。  
江村 守 (17)  
(千野) 82 新潟県中魚沼郡津南町外丸内二五〇

コスモを愛読する方々に言ひます。このコスモは神聖にして冒しがたい書物である。なぜなら宇宙をテーマとする話、記事は真実で神聖でなければいけないからです。邪念をもつて、また野心をもつて宇宙にたち向かうことはできないのです。それが証拠に今までに出てきた野心家、シーザー、ナポレオン、ヒトラーこれらすべて挫折してゐるではありませんか。というのはシーザー、ナポレオン、ヒトラーは二十世紀の人間だから、もし彼が勝つたとしたら世界制覇はもちろん、果ては太陽系近傍空間を悪魔の大要塞と他の恒星系にもその魔手を広げる可能性が出てきたでしょう。しかし邪念と野心のヒトラー、一握りの土さへも自分のものとならずして死んだ。ですから宇宙は聖なる愛読されるような真実性に富んで純粋で聖人々々を愛読するのです。

UFO目撃報告者は真実の封印をしてポストに投函し、読者の声に投稿される方は邪念をもつてはけません。もつともコスモを知る人に悪い人はいないはずですから。宇宙の神聖さ、真実さを感じる心は邪心のある人にはありません。  
最後に編集部の方へ、あなた方はわれわれを宇宙の真実性、神聖さを教えるという重大な責任もつておられるのですからのために、われわれのできること、報告をもつた方の値上げなどある方々がされるなら認めます。どうぞこの世の最後までがんばってください。あなた方に宇宙を知られた人々がいるのですから。さよなら。  
鎌倉基晴 (18)  
(千野) 12 福井県武生市下黒川町

くれているように思ひます。本当に毎号毎号あれだけ充実した内容で発行されるのは大変なことでしょう。僕達コスモファンはみんなコスモ出版社を応援してゐます。どうぞ頑張ってよりすばらしい情報を伝えてください。さて、今回は以下の文章をコスモ「読者の声」欄に投稿しようと思つて書きました。  
最初人間は創造主を知つてゐました。最初人間は創造主を知覚してゐたのです。創造主と一体であったのです。それがなぜかある時、物質的欲望や名譽欲等の利己主義を持つことにより人間は創造主を忘れてしまつたのです。創造主から分離してしまつたのです。これは最大の悲劇でした。それ以来人間は利己主義、つまりエゴイズムによって生活してゐます。「エゴ」と言う人がいるかも知れませんがそれはその人が自分自身をよく知らないからなんです。私には残念ながら皆エゴイズムです。なぜならばいろいろな物を盗んでエゴイズムとは、気づかないうちにそうするとき起こすのと全く同じ要素から成るエゴの想念を日頃私たちが放つてゐるからです。エゴの心は攻撃的で威張つていて自己中心です。そういう人間の心のエゴイズムが国家と国家、人種と人種の分裂、買い占め等、その他ありとあらゆるトラブルをつくり出すのだと思ひます。

では、どうしたらいいのでしょうか。私たちが私たちの社会を楽しく保ち平和にするにはどうしたらいいのでしょうか。それは私たちが一人一人が自分自身の心の動きをよくみつめてそれらをコントロールできるようになり、エゴの想念を抑制して本来の創造主と一体化した状態に戻していけばいいのです。これは容易なことではありません。何年や何十年、もしかしたら一生かかるかも知れません。でも私たちがこれをやらなければなりません。そうすることで私たちが進化の道を歩むことができるでしょうからです。

世の中には創造主という宇宙の本源を認めない人がたくさんいます。その人が冷静なかつ謙虚な態度で自分自身の心の中に目を向けるならばいい。それはその人自身を含む万物を生かしてゐる英知としての創造主がわかるでしょう。創造主は私たち自身の内部にこそおられるから。私たちが数千年間真実を知るために多くの掃納的探究と心の頭脳によるより深いせんきくをして生み出してきた科学もまたそれは創造主に接近し一体化することによって真の同胞愛、幸福感を覚得ていく知識を得ることでもできるのです。そのためには鏡は私たちが一人一人による自己の内界に対しての鏡い自己監視を要するのだと思ひます。さあ皆さん始めましょう。自己自身を改革するんです。元々私たちが生かしてゐる創造

主のところへいっしょに帰ろうではありませぬか。  
川谷定義 (17)  
(千野) 01 鳥取県松江市若成町一八二

一、編集部へ  
(一) No.4でUFO写真集を刊行の予定といつておまながいまだに何の音きたないとはナンタルチヤ!  
(二) コズモ誌を早く月刊にしたらどんなもんかいな。久保田氏をはじめとするコスモ関係者のオッサンがた、もつとがんばつてちょうだい。  
二、読者へ  
創刊号を譲り1000円くらいで譲つて下さいなんてのがめだつと譲る創刊号は絶対に定価以下で売るべし。  
「コスモ」は洗剤やトイレトベーパーとちがうんよ。アインシュタインは魚座(筆名デス)より。  
芦田弘通  
(千野) 兵庫県養父郡八鹿町宿南

コスモ愛読者のみなさま……お元気ですか? (もちろん、編集の方々も……) このごろ雑誌からTVからやれUFOだ、超能力だ、はたまたオカルトだ、……  
コスモ愛読者のみなさま……お元気ですか? (もちろん、編集の方々も……) このごろ雑誌からTVからやれUFOだ、超能力だ、はたまたオカルトだ、……



くりさんだといろいろな情報流れまいる……  
……。しかるに!! 学校で私たちがこれらことを話したずとどうしてあの人たちは「またか!」とうんざりな態度でしてあのか? ケイベツとギワクと好奇心の入り混じつたあの日!! たまらないのです。まったく!! ヒマな方おてがみください。  
桐沢尚美  
(千洲) 川崎市中原区新城二二〇

★譲ります  
●コスモ創刊号76号、2500円(送料共)。連絡は往復ハガキで。  
若月三郎 (千野) 994 山形県天童市天童甲二〇六  
●コスモ創刊号を譲ります。希望値段を書いて連絡してください。

渡辺千安(千羽 厚木市旭町二一八五〇) ●高文社「空飛ぶ円盤の跳梁」(ヒーローノイド)を購ります。どちらも700円(送料当方負担)なおおそれなどは一切ありません。また「空飛ぶ円盤は実在する」とも購ります。こちらは500円(送料当方負担)

大木康嗣(千羽 静岡清水市大内七六三) ●カメラ(定価7700円)を6000円以上で購ります。完動、送料当方負担。

田中安幸(千羽 03 柳川市大字田脇九四二) ●コスモファンの皆さん、UFO発見のために天体望遠鏡をお購ります。機種はエイコー社SHT 1650×90%、反射式で倍率は42倍・93倍です。少しほこんでいるけど大丈夫です。16500円を7500円で。

野口哲也(千羽 689-42 鳥取県日野郡海口町海五〇) ●初読者は購る人に最下さい。編集部

★譲って下さい。 ●創刊号をぜひ入手したいのです。創刊号のあるところご存知の方、または創刊号を多くお持ちの方500/2000円でぜひ。(送料当方負担) 小島正行(千羽 03 栃木県下都賀郡藤岡町大字中根八六五二 電028216752) ●なるべくコスモNo.1~4がほしいです。無いときはこのうちどれか一冊でもかまいません。一冊500円以内でいかがですか。(送料当方負担) 佐藤直美(千羽 東京都新宿区西新宿八七一 開港荘6号) ●コスモ創刊号とNo.2~5まで適価で譲ってください。おねがします。

成田 勇(千羽 33 青森県東郡平内町小湊二五一) ●コスモ創刊号をお購りで下さる方、あるいはコピーをさせて頂ける方、ご連絡ください。 所 武夫(千羽 03 長野県松本市岡田町七九〇) ●コスモ創刊号を1000円前後でぜひ譲ってください。

藤村哲夫(千羽 北海道札幌市北区北27条西11丁目 第5アサクラマンション) ●コスモ創刊号とNo.2を2000円で譲ってください。譲ってくれる人は大至急連絡してください。 加藤幸一(千羽 名古屋市中区瑞穂区春慶町三二二 中電アパート七二〇三) ●コスモ創刊号を送料共1500円で譲ってください。お願します。

大場宏和(千羽 東京都葛飾区金町六八一〇) ●コスモNo.1、No.2を二冊で1500円前後でどうぞお購りでください。

大西宏和(千羽 兵庫県明石市魚住町金ヶ崎柳井八七六一) ●コスモNo.2を3000円前後で、またNo.2、3を6000円前後で、送料は当方負担。 高成雅樹(千羽 57 秋田県秋田郡北内町扇田八幡町) ●コスモ創刊号を1500円前後で、第2号を5000円前後でお購りでください。

安西昭和(千羽 兵庫県尼崎市東灘波町三二七一) ●創刊号を1000円前後でお購りでください。 新田満美(千羽 岐阜県土岐郡笠原町首羽区五三八) ●コスモの創刊号/No.5までを適価で譲ってください。おねがします。

諏訪公則(千羽 栃木県小山市南小林四九八) ●コスモ創刊号を持って居る方、僕に1500円くらいの値段でお購りでください。連絡をくださる時にはご希望の値段を書き添えてください。 大田 哲(千羽 東京都大田区南蒲田二一六一) ●どなたかコスモ創刊号を1200円くらいで売ってくださいませんか。売って頂ければ幸いです。よろしくお願します。まず手紙やハガキで連絡ください。本日よりお返します。

吉田 一郎(千羽 東京都豊島区目白三五一 五、目白共同ビル三〇号、喜田方) ●コスモを3号から知ったので創刊号と2号があります。金欠病なのでなるべく安く譲ってください。どなたでもいいのでご連絡ください。おねがします。

小田切いつ美(千羽 02 山梨県中巨摩郡白根町上八田一〇三三) ●コスモ創刊号とNo.2をどなたか2000円でお購りでください。なるべく汚れていないのを。 藤下秀司(千羽 42 福岡県遠賀郡高岡町高陽区二〇組) ●僕がコスモをNo.4から知り、No.2、3は通信販売で入手しましたが創刊号がありません。どなたかあなただけの希望する値段で譲ってください。美本を希望します。まずは連絡を。

山口 久(千羽 愛知県名古屋市中川区富田町戸田東池田三五) ●創刊号を手でできません。どなたか適価で譲りください。 渡辺りえ(千羽 埼玉県草加市高砂二一九一 九) ●コスモ創刊号が入手できません。どなたか5000/10000円くらいで譲ってください。それがだめなら一カ月でも貸してください。ぜひお願いします。

伊藤哲夫(千羽 愛媛県東郡那佐屋町大字佐屋字堀西三六一) ●私はどうしても創刊号を入手したいと思っております。どなたか適価でお購りでください。ただし破れ、切り抜き、落書きは不可。少々ヨレ、キズは可。 船毛秀雄(千羽 町田市金倉一三三) ●創刊号と2号を合わせて適価でお購りでください。連絡するとき希望の値段を書き添えてください。 秋山信哉(千羽 船橋市習志野台三丁目二二一 一四〇四) ●こちらのおみやげ品をさしあげます。コスモ創刊号を適価でお購りでください。

中村善美(千羽 55 秋田県鹿角郡十和田湖大川岱カルデラ内) ●コスモ創刊号とNo.2をいやがらうにも欲しいのです。値段はあな次第。ハガキでお知らせを。 江村 守(千羽 82 新潟県中魚沼郡津南町外丸丙二五〇) ●コスモ創刊号を1200円、No.2/4各400円までぜひ譲ってください。一生のお願いです。

岡本和美(千羽 倉敷市児島小川四一六一) ●コスモNo.2を譲ってください。連絡は希望の値段などを書いてハガキでお願します。(連絡はこのコスモが発売になってから一カ月以内) 吉岡 一郎(千羽 14 北海道夕張郡長沼町西八線南四) ●コスモNo.3を適価でお購りでください。僕の住んでいる羽生市についての記事「埼玉県羽生市の奇妙な物体」がぜひ読みたいのです。

斎藤 篤(千羽 埼玉県羽生市上新郷一九一三) ●コスモ創刊号をぜひ8000円前後で譲ってください。 桐田真治(千羽 01 北海道江別市大麻沢町三三二 一五) ●コスモNo.1を10000円、No.2を5000円でどなたか譲ってください。

金子 正(千羽 17 群馬県南田中一三三三) ●コスモファンの方、ぜひ私にコスモ創刊号を2000円でお購りでください。またUFOに関するものもお購りでください。

森田哲夫(千羽 埼玉県大宮市榎竹町二六九、植竹団地七棟二〇六) ●コスモNo.2を8000円くらいでお購りでください。 松沢信雄(千羽 埼玉県大宮市大谷一六八九二) ●コスモの大ファンです。どなたか5000円くらいで創刊号を譲ってください。

宮元桂子(千羽 大阪府高石市羽衣四一三二二) ●コスモの愛読者ですが、どなたか創刊号をお持ちの方ぜひお購りでください。価格は2000円以内程度でお願いします。

伊藤武夫(千羽 千葉県東葛飾郡沼南町高柳一六四四) ●コスモ創刊号/No.4までを2500円で。 藤田利常(千羽 兵庫県尼崎市守部字南町三) ●当方、医学を志す者でありながらUFOという空想移動乗物に熱中し過ぎて本業が疎かになりがちな毎日です。ところでNo.1の創刊号が入手できないかと考えております。値段は交渉。

大木 宏(千羽 相模原市東林間六一二) ●コスモ創刊号を適価で譲ってください。 山本美子(千羽 北海道札幌市東区元町二九三二 九) ●どなたか創刊号を10000円前後で譲ってください。

中江好伸(千羽 滋賀県彦根市後三条町五八八一) ●僕はコスモの愛読者ですが創刊号だけがまだありません。ぜひ手に入れたいのでご連絡ください。なおこれは交換です。消えた大陸アトランティス。 鈴木春寿(千羽 愛知県安城市大東町五一六) ●コスモ創刊号、No.2、4を持っていないので市川高校地学部UFO研究会会長の僕にどれでも1冊で売ってください。値段はできれば7000円以内。 海老原浩二(千羽 千葉県八千代市八千代西五二七) ●コスモNo.1~6を適価で譲ってください。

油井利則(千羽 北海道釧路市松浦町一〇一〇) ●UFOに関する本、機関誌などあらゆる資料写真ならばナミダする。これらを資金不足のおり恥すかしながら定価の半分以下で。 小松隆一(千羽 群馬県藤岡市保美甲六七) ●私たちの学校に、UFO研究同好会が発足しました。それで今UFOの関係の資料を集めています。お持ちの方どうぞ譲ってください。おれはさせていただけます。(送料当方負担) 百目鬼瑞彦(千羽 茨城県下館市本城町甲四七六) ●コスモNo.5(新品同様)をNo.3またはNo.2ととかえませんか。詳しくは往復ハガキで連絡を。 高橋優子(千羽 43 宮城県加美郡西小野田桑畑)

★コピーします

●私の通学しております大学の図書館ではB4判コピーが一枚10円でできます。ほとんどゼロックスとかわからない仕上がりですので市価に比較してかなり安いと思います。創刊号を手を希望される方が大勢いらっしゃるようです。送料115円。 浜村建郎(千羽 船橋市前原八五一 一八)

わが国最初のUFO写真集!

コスモ別冊

UFO写真集①

—UFOファン必携— ￥1300 送料 ￥250

- A4判、94頁、極上厚手アート紙使用、美麗表紙カバー付き豪華本／貴重な資料として長期保存性を考慮、入念に制作。
- カラー写真10数点、白黒写真30数点／本誌よりひとまわり大きい判の左右2頁にわたる大画面からわき起こる圧倒的迫真感!
- 書店発売は10月中旬／書店で入手できない場合は本社宛直接ご注文下さい。3万部限定版につき、早目に書店か本社へご予約を。
- 第2巻以降も発行を企画中。

★本誌バックナンバー(既刊号)

品切れ後は再版しません。未入手の方は早目にご注文を!

第5号 (1974年3月発売)	定価	各	¥330
第6号 (1974年5月発売)	送料	1冊	¥85
		2冊	¥145
第7号 (1974年7月発売)		3冊	¥250

■創刊号より  
第4号までは  
売切れ、絶版。  
在庫なし。

—本誌特製—

コスモ誌とじ込み用

バインダー

¥400 送料 ¥300

- 1カ年6冊分のコスモ誌一括保存用の必要品。
- 極厚手表紙、布装、表面背共金文字箔押。
- コスモ読者は書棚に誇らしく飾ろう!
- この品は書店にないので必ず本社宛直接ご注文下さい。

★ご注文は振替・現金書留・小為替・低額切手等により必ず前金でお願いします。  
代金あと払いはおこわり。

〒110 東京都台東区秋葉原 3-3、アキバビル  
**コスモ出版社**  
振替 東京 119478

● UFO目撃報告と写真を募集  
UFO(未確認飛行物体)の目撃報告と写真を募集します。左に掲げた各項目を参考に、なるべく正確な詳細な報告をお送り下さい。掲載された分には薄謝を呈します。写真の場合はできればネガもいっしょにお送り下さい。ただし本誌に掲載後に偽作であることが判明してトラブルが生じた場合、本誌は一切の責任を負いませんので、その点をあらかじめご了承下さい。その他、各種新聞雑誌などに掲載されたUFO関係の記事・写真類の切抜きも歓迎します。

● UFO目撃報告用参考事項  
(1)目撃者住所氏名(できれば本人の写真添える)、年齢、職業(学生の方は学校名・学年)、電話番号(匿名を希望の場合は本名明記の上、その旨を付記すること) 同時目撃者の有無、その他。  
(2)目撃場所(地名、付近略図、時刻、天候、目撃継続時間、その他)。  
(3)物体(飛行物体の形(スケッチを添えること)、大きさ、色、その他)。  
(4)飛行状態(仰角、方向、飛行中の形態の変化、飛行中の色の変化、飛行中の光度の変化、推定速度及び高度、その他)。  
(5)観測機器(使用の場合はその機器名、性能その他を付記する)。  
(6)撮影用具(カメラを使用の場合はカメラ名、使用フィルム、レンズ名、絞り、シャッタースピードその他のデータを付記する)。  
送り先 東京都台東区秋葉原三の三、アキバビル  
コスモ出版社 UFO資料調査部

● 目撃報告とは別に、「読者の声」欄を設けています。本誌に対する感想、UFO問題に関する所感等をふるってご投稿下さい。宛先は「コスモ出版社、読者の声係」

Across the Editors' Desk

◎コスモ読者待望の「UFO写真集」がついに出版になりました。日本歴史始まって以来のUFO専門誌(店頭販売)刊行に加えて、わが国最初のUFO写真集の出現——しかも大型豪華版とまでは、ファンの皆様はこたえられないでしょう。天空の彼方に視野を広げ夢を追うUFO研究者にとつて必須の資料です。売切れ後は再版しませんのでぜひお求め下さい。とじ込み用のバインダーも出来ました。

◎近來オカルトブームによりUFOを心靈現象その他の神秘現象と混同する風潮が生じていますが、本誌は科学的態度を基調としますので、靈的コンタクトなどはとり扱いません。

◎注文が殺到するのは有難いのですがお金だけ送ってよこして注文書が入れてない場合が多いので、ご送金の際はご注意ください。

◎ご意見をお待ちしています。(K)

UFOと宇宙 一九七四年十月号 第8号

編集発行人 久保田八郎

発行所 株式会社コスモ出版社

〒110 東京都台東区秋葉原三の三 アキバビル

電話(二三五)八七八四、七〇一九

振替・東京119478

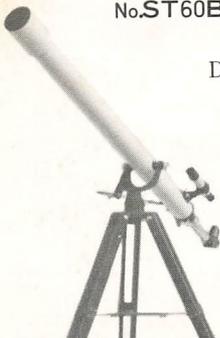
印刷所 大日本印刷株式会社

(昭和四十九年十月一日発行)

定価三三〇円・送料共二二〇〇円  
年々購読料・送料共二二〇〇円  
(地方の書店で入手できない場合は本社へ直接ご注文下さい)

●本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。  
●海外の記事はすべて翻訳転載権取得済。

# スリービーチ望遠鏡

<p>No.ST60B 屈折経緯台</p>  <p>D60㎜ F800㎜ 倍率 160× 100× 44× 上下微動装置</p> <p>¥16,000 送料 ¥800</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.ST63A 屈折経緯台</p>  <p>D60㎜ F1,000㎜ 倍率 125× 55× 上下微動装置</p> <p>¥16,500 送料 ¥1,000</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.ST65A 屈折経緯台</p>  <p>D60㎜ F1,000㎜ 倍率 125× 50× 上下微動装置 水平微動装置</p> <p>¥23,000 送料 ¥1,000</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>
<p>No.ST67B 屈折経緯台</p>  <p>D60㎜ F1,000㎜ 倍率 200× 125× 50× 上下微動装置 水平微動装置</p> <p>¥27,000 送料 ¥1,000</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.SST600 屈折赤道儀</p>  <p>D60㎜ F950㎜ 倍率158× 76× 43× 経緯微動装置 経緯目盛環</p> <p>¥38,000 送料 ¥2,000</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.SST80 屈折赤道儀</p>  <p>D76㎜ F1,250㎜ 倍率 310× 200× 100× 60× 経緯微動装置 経緯目盛環</p> <p>¥57,000 送料 ¥2,000</p> <p>性能 1.5秒・11.2等星・118倍</p>
<p>No.SR108B 反射経緯台</p>  <p>D100㎜ F800㎜ 倍率 160× 100× 44× 上下微動装置</p> <p>¥19,800 送料 ¥1,000</p> <p>性能 1.2秒・11.8等星・195倍</p>	<p>No.STR100A 反射経緯台</p>  <p>D100㎜ F900㎜ 倍率 180× 110× 45× 上下水平微動装置</p> <p>¥26,000 送料 ¥1,000</p> <p>性能 1.2秒・11.8等星・195倍</p>	<p>No.SS1000G 反射赤道儀</p>  <p>D100㎜ F1,000㎜ 倍率 200× 125× 55× 経緯微動装置 経緯目盛環</p> <p>¥62,000 送料 ¥1,500</p> <p>性能 1.2秒・11.8等星・204倍</p>
<p>No.SS1200G 反射赤道儀</p>  <p>D100㎜ F1,200㎜ 倍率 240× 96× 67× 経緯微動装置 経緯目盛環</p> <p>¥62,000 送料 ¥1,500</p> <p>性能 1.2秒・11.8等星・204倍</p>	<p>No.SS150EA 反射赤道儀</p>  <p>D150㎜ F1,200㎜ 倍率 200× 100× 67× 48× 経軸微動装置 緯軸微動装置 上下桿微動装置 水平ネジ微動装置 経緯目盛環</p> <p>¥120,000 送料 ¥4,000</p> <p>性能 0.8秒・12.7等星・460倍</p>	<p>● 反射式は光軸修整 用アイピース付</p> <p>くわしくは切手¥120 同封の上、総合 カタログ No.10 申込み下さい。</p> <p>〒121東京都足立区 東島根町2392</p> <p>K. K. スリービーチ サービスセンター KM 係</p>



ヤマモト

# サテライト天体望遠鏡

## 新発売

### 60mm 屈折径緯台

### MODEL A-7

定 価 32,000円

荷造送料 1,500円



#### ●光学的性能

有効径	60mm
焦点距離	700mm
集光力	73倍
分離能	2.0秒
極限等級	10.7等

#### ●付属品

接眼鏡 (倍率)

SR-5mm	140倍 (280倍)
R-20mm	35倍 (70倍)

〔( )内はバーローレンズ使用〕

- 2倍バーローレンズ
- 5倍ファインダー
- 天頂プリズム
- 地上用正立プリズム
- サングラス

#### ●格納箱

発泡スチロール入り木箱

ヤマモトの天体望遠鏡は海外で絶賛を博しております。

メーカーからユーザーへ！

通信販売のお知らせ！

●上記の他各種あります。詳しくは115円切手同封の上カタログをC係へ御請求下さい。

株式  
会社

# 山本製作所

東京都板橋区大原町5-3  
電話 966-2408 郵便番号 174